



**50/144/430MHz**  
**TRIPLE-BAND HEAVY DUTY**  
**SUBMERSIBLE TRANSCEIVER**

# VX-7

## 取扱説明書



安全上のご注意	3
お使いになる前に	7
基本操作	16
メモリーを使う	22
スキャンを使う	34
各種の便利な機能	38
特定の相手との交信	54
必要に応じて使う機能	56
付 録	74

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。  
お読みになった後は、大切に保管してください。  
この取扱説明書に記載の社名・商品などは、各社の商標または登録商標です。  
本機を使用するためには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。  
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

# 目次

<b>安全上のご注意</b> .....	3	<b>各種の便利な機能</b> .....	38
安全上のご注意 .....	3	ストロボの設定を変える .....	38
電波を発射する前に .....	6	盗聴器を探し出す (盗聴器発見機能サーチ) .....	40
<b>お使いになる前に</b> .....	7	周波数を調べる (チャンネルカウンター) .....	41
同梱品を確認する .....	7	集音機能を使う .....	42
付属品を取り付ける .....	8	デュアルレシーブ .....	42
アンテナを取り付ける .....	8	スマートサーチ .....	43
ベルトクリップとハンドストラップを取り付ける .....	8	スベアナを表示する .....	44
電池パックを準備する .....	9	受信信号と変調信号の波形を表示する .....	44
電池パックを取り付ける .....	9	温度を表示する .....	45
電池パックを充電する (約5時間充電) .....	9	天気予測を表示する (オプション) .....	45
乾電池ケースの使いかた (オプション) .....	10	気圧を表示する (オプション) .....	46
外部電源を接続する .....	11	高度を表示する (オプション) .....	46
シガレットライターに接続する .....	11	電源がオフのときに温度や天気予測などを表示させる .....	47
市販の安定化電源を接続する .....	11	アイコンで表示する .....	47
時計をセットする .....	12	好みのアイコンを表示する .....	48
各部の名前と働き .....	14	電池の電圧を表示する .....	49
ディスプレイの説明 .....	15	音声で自動発信する (VOX機能) .....	49
<b>基本操作</b> .....	16	自動的に電源をオフする (APO) .....	50
電源を入れる .....	16	連続送信時間を制限する (TOT) .....	50
操作するバンド .....	16	指定した時刻に電源をオン/オフする .....	51
音量を調節する .....	16	ARTS機能を使う .....	52
バンドを選ぶ .....	17	DTMF機能を使う .....	53
周波数帯を選ぶ .....	18	<b>特定の相手との交信</b> .....	54
周波数をあわせる .....	18	トーンスケルチまたはDCSを使う .....	54
送信する .....	19	ベル機能を使う .....	55
レピータで交信する .....	19	<b>必要に応じて使う機能</b> .....	56
音声をミュートする .....	20	緊急を知らせる (エマージェンシー機能) .....	56
送信出力を切り替える .....	20	ディスプレイのコントラストを調節する .....	56
状態が変わらないようにロックする .....	21	ディスプレイやテンキーの照明輝度を調節する .....	56
スケルチのレベルを調節する .....	21	照明が自動的に点灯しないようにする .....	57
<b>メモリーを使う</b> .....	22	受信感度を下げる (ATT) .....	57
多彩なメモリー機能 .....	22	操作音がならないようにする .....	57
メモリーに書き込む .....	23	S/POメーターの表示を変更する .....	58
メモリーを呼び出す .....	24	マイキーの登録を変更する .....	59
メモリーを呼び出す .....	24	マイキーの動作をインターネットキーに変更する .....	59
ホームチャンネルを呼び出す .....	24	フォントエディターで文字を作る .....	60
メモリーグループを使う .....	25	アイコンエディターでアイコンを作る .....	61
メモリーグループに登録する .....	25	セットモードの項目一覧表 .....	62
メモリーグループ内の .....	25	セットモードリセット .....	62
メモリーチャンネルを呼び出す .....	25	セットモードの動作一覧表 .....	64
メモリータグを使う .....	26	パケット通信に使うときは .....	72
メモリーに名前をつける .....	26	クローン操作 .....	73
メモリータグを表示する .....	27	<b>付録</b> .....	74
ワンタッチメモリー (OTM) を使う .....	28	プリセットされている放送局周波数一覧表 .....	74
TV専用メモリーでTV放送を聴く .....	29	鉄道無線周波数一覧表 .....	78
プリセットメモリーを呼び出して .....	30	フォント一覧表 .....	78
世界各地の放送、AM/FMラジオ、TV放送を聴く .....	30	周波数の使用区分 .....	79
プリセットメモリーを呼び出して鉄道無線を聴く .....	31	アマチュア無線局免許申請書類の書きかた .....	80
ハイパーメモリーを使う .....	32	オプション .....	82
<b>スキャンを使う</b> .....	34	使用できるオプション .....	82
VFOスキャン .....	34	気圧センサーユニットの取り付け .....	82
プログラムブルメモリスキャン (PMS) .....	35	故障かな?と思ったら .....	83
メモリスキャン .....	36	索引 .....	84
特定のメモリーチャンネルのみをスキャンする .....	37	定 格 .....	86
		キー操作早見表 .....	87

# 安全上のご注意 (必ずお読みください)

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

## マークの種類と意味

	<b>危険</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
	<b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	<b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 図記号の種類と意味

	本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。 たとえば、Ⓣ は分解禁止を示しています。
	本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。 たとえば、ⓑ は電源プラグを外すを示しています。

## 危険

- |   |   |
|---|---|
| <p> 航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では使用しないでください。電子機器や医療機器に影響を与える場合があります。</p> <p> 自動車やバイク等を運転しながら使用しないでください。事故の原因になります。運転者が使用するときは、必ず安全な場所に車を止めてから使用してください。</p> <p> 心臓ペースメーカー等の医療機器を装着されている方は、携行した状態では送信しないでください。送信する場合は、外部アンテナを使用し、できるだけアンテナから離れて送信してください。本機からの電波が医療機器に影響を及ぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。</p> | <p> 心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方に配慮し、混雑した場所では送信しないでください。本機からの電波が医療機器に影響を及ぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。</p> <p> 乾電池から漏れている液などに素手で触れないでください。皮膚に付着したり、目に入ると化学火傷を起こすおそれがあります。この場合、直ちに医師の診断を受けてください。</p> <p> 電池パックや乾電池ケースの端子をハンダ付けしたり、ショートさせたりしないでください。火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。また、ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。ショートするおそれがあります。</p> |
|---|---|

## 安全上のご注意 (必ずお読みください)



### 警告



指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。  
火災や感電の原因になります。



電池パックや乾電池ケースを指定機器以外の用途に使用しないでください。  
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



本機は「JIS保護等級7種防浸形相当」の防浸構造になっておりますが、もし濡れた場合は、そのまま放置せず乾いた布などで拭いてください。

濡れたまま放置すると、性能や寿命を低下させたり、故障や感電などの原因になります。



無線機・乾電池ケースや電池パック、およびACアダプターから煙が出ていたり、変な臭いがするときは、電源をオフにして、乾電池ケースや電池パックを取り外し、電源コードをコンセントから抜いてください。  
火災・漏液・発熱・破損・発火・故障の原因になります。お買い上げの販売店または当社営業所/サービス窓口にご連絡ください。



分解や改造をしないでください。  
ケガ・漏液・感電・火災・故障の原因になります。



外傷、変形の著しい電池パックや乾電池ケースは使用しないでください。  
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



当社指定以外のACアダプターを使用しないでください。  
火災や故障の原因になります。



乾電池ケースや電池パックの端子はいつもきれいにしておいてください。  
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



電池パックの充電が所定の時間を超えても完了しない場合には、直ちに電源プラグをコンセントから抜いてください。  
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



### 注意



アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしないでください。

本人や他人に当たり、ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因にもなります。



人の多い場所では使用しないでください。  
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。



本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。  
変形・変色などの原因になります。



本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。  
火災や故障の原因になります。



送信中は、できるだけ身体からアンテナを離してください。  
長時間身体に電磁波を受けると、身体に悪影響を及ぼす場合があります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。  
ケースの汚れは中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。



長期間ご使用にならない場合には、安全のため電源をオフにし、電池パックや乾電池を抜いてください。



強い衝撃を加えたり、投げつけたりしないでください。  
故障の原因になります。



磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。  
キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。



イヤピースマイクロホン、イヤホン、ヘッドホンなどを使用するときは、音量を大きくしないでください。  
聴力障害の原因になります。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。  
ケガなどの原因になります。



ハンドストラップやベルトクリップの取り付けは確実に行ってください。  
間違った取り付けかたは、落下によるケガや本体の破損などの原因になります。

## 安全上のご注意 (必ずお読みください)

### 注意



電池パックは5℃～35℃の温度範囲内で充電してください。

この温度範囲以外で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因になります。



付属のACアダプターで当社指定の電池パック以外は充電しないでください。

火災や故障の原因になります。



使用済みの電池パックや乾電池は、端子にテープなどを貼って絶縁してから破棄してください。



引火性のガスの発生する場所でACアダプターを使用しないでください。

発火事故の原因になることがあります。



ACアダプターを使用しないときは、コンセントから抜いてください。



電源コードの上に重い物を載せないでください。

電源コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



ACアダプターをコンセントから外すときは、必ずACアダプター本体を持ってください。

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因になります。

## 気圧センサーユニット (SU-1) について

本格的な測定を目的として製造されたものではありません。測定された値は、あくまで目安の値として使用してください。また、天気予測外れなどによる二次災害や損害等については、当社では一切その責任を負いませんのであらかじめご承知ください

## 防水 (JIS保護等級7種防浸形相当) について

本機の防水性能は、付属のアンテナと電池パックを取り付け、さらにMIC/SP端子とEXP DC端子のラバーキャップをしっかりと取り付けた状態で、水深1mの水没に30分間耐えることができます。

この防水性能を末永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

### ◎キズ、劣化、汚れなどの確認

キーやスイッチのラバー、MIC/SP端子とEXP DC端子のラバーキャップ、電池パック接合部分。

### ◎お手入れのしかた

海水・砂・泥などがついたときは真水で洗い流し、すぐに乾いた布で拭き取ってください。

### ◎オーバーホールのお奨め

お買い上げから1年経過した後、オーバーホールを行って1年経過した後、またはキズ、劣化等が確認されたときはオーバーホールをお奨めます。なお、オーバーホール代金は有償となりますのであらかじめご承知ください。

### ◎その他の注意

完全防水ではありませんので、水中での使用はできません。

# 電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止して障害の有無や程度を確認してください。

## 《参考》無線局運用規則 第9章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に障害を与え、若くは、与える虞があるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。（以下省略）

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じてお近くの営業所／サービス、またはお買い上げの販売店などに相談するなどして、適切な処置を行ってください。

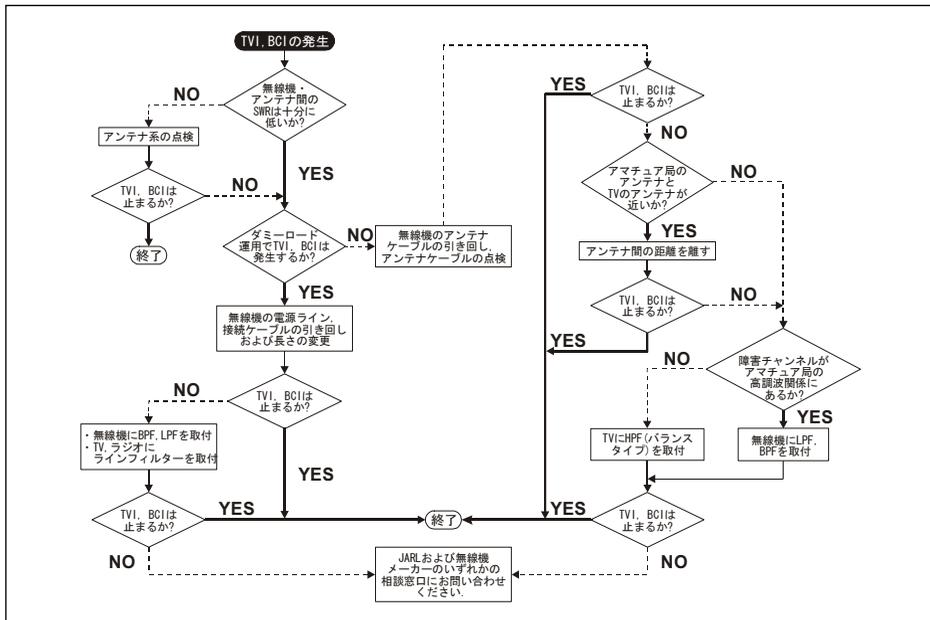
受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。

（社）日本アマチュア無線連盟（JARL）では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

## 社団法人日本アマチュア無線連盟（JARL）

〒170-8073 東京都豊島区巣鴨 1-14-5

TEL 03-5395-3111

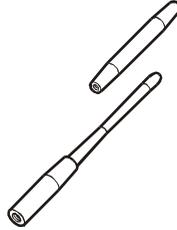


## 同梱品を確認する

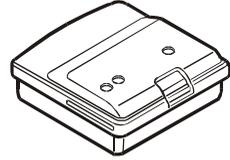
本体



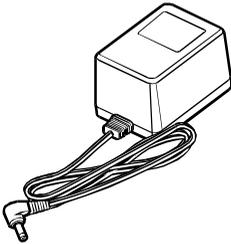
アンテナ



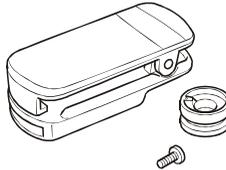
電池パック (FNB-80LI)



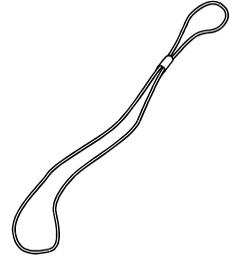
ACアダプター (NC-72A)



クイックドロワー  
ベルトクリップ



ハンドストラップ



- 取扱説明書 (本書)
- 保証書
- ご愛用者カード
- JARL入会申込書

● 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることを、ご確認ください。  
○ 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

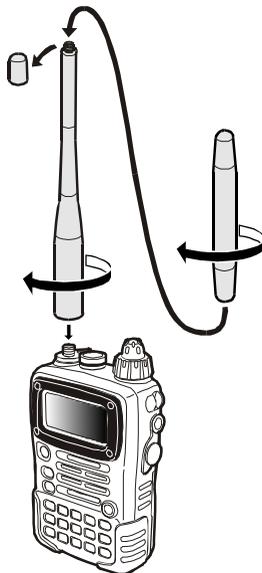
# 付属品を取り付ける

## ■アンテナを取り付ける

アンテナのコネクターに近い太い部分を持って、時計方向に回しながら取り付けます。

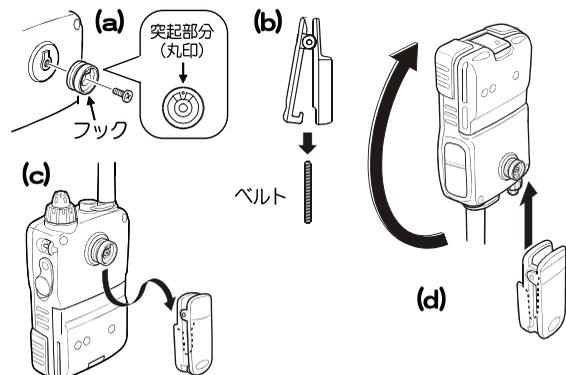
50MHz帯で送受信する場合や、AMラジオや短波帯の放送を受信する場合は、キャップを外して延長エレメントを取り付けます。

- アンテナの取り付け/取り外し時には、アンテナの上部を持って回さないでください。アンテナの内部で断線する場合があります。
- アンテナを取り付けない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。
- 付属以外のアンテナを使用する場合や、外部のアンテナを接続する場合には、SWRが1.5以下に調整されたものを使用してください。
- 延長エレメントを取り付けた状態でも、144MHz/430MHz帯での送受信やTV放送などの受信をすることができます。



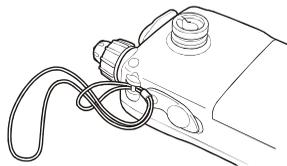
## ■ベルトクリップとハンドストラップを取り付ける

1. フックの丸印がある突起部分を上にし、付属のビスでVX-7に取り付けます (a)。
2. ベルトクリップをベルトに取り付けます (b)。
3. フックをベルトクリップの背面にあるくぼみ部分に挿入し、「カチッ」と音がするまでスライドします (c)。
4. VX-7をベルトクリップから外すときは、VX-7を180°回転させ、引き抜きます (d)。



### ハンドストラップの取り付け

VX-7にハンドストラップを通し取り付けます。



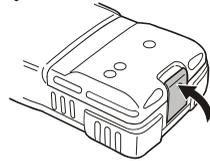
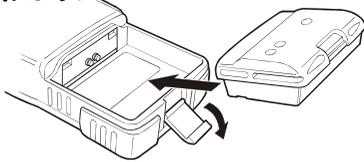
- フックの固定には、必ず付属のビスを使用してください。他のビスを使用すると、しっかり固定できなかったり、本機の内部に損傷を与える場合があります。
- フックを使用せず、ビスのみを本機に取り付けしないで下さい。本機の内部に損傷を与える場合があります。

# 電池パックを準備する (1)

## ■電池パックを取り付ける

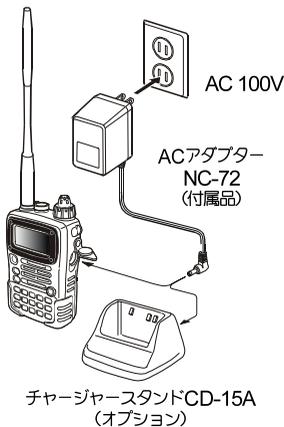
お買い上げ直後または長期間使用していない電池パックは、充電してからお使いください。

1. 本機底面のロックを下げ、電池パックを入れます。
2. ロックを「カチッ」と音がするまで押し上げます。



## ■電池パックを充電する (約5時間充電)

1. 付属のACアダプター (NC-72A) を、VX-7のEXT DC端子に接続して充電します。  
充電中は「ジューデン チュウ」が表示され、充電が終わると表示が「ジューデン カンリョウ」に変わり、ストロボが青色に点灯します。
  - 受信 (電源がオンのとき) しながら充電することができますが、「ジューデン チュウ」や「ジューデン カンリョウ」は表示されません。また、充電時間が多少長くなります。
2. 約5時間で充電は完了します。
  - オプションの急速充電器 (CD-15A) を使うと、約2時間半で充電できます。なお、このときには「ジューデン チュウ」や「ジューデン カンリョウ」は表示されませんが、CD-15Aのランプで充電状態を知ることができます (赤色に点灯: 充電中、緑色に点灯: 充電完了)。



### 電池パック (リチウムイオン電池)について

- 電池パックは、繰り返し使用できる充電可能なリチウムイオン電池 (7.4V, 1300mAh) を使用しております。
- 電池パックは、正しく充電すると約300回使用できます。
- 電池パックは消耗品です。充放電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- VX-7に電池パックを取り付けた状態で、放置すると劣化の進行を早めることがあります。
- 高温の場所で保管すると、劣化の進行を早めることがあります。なるべく低温状態で保管してください。
- 電池パックを落としたり衝撃を与えると、破損の原因になります。

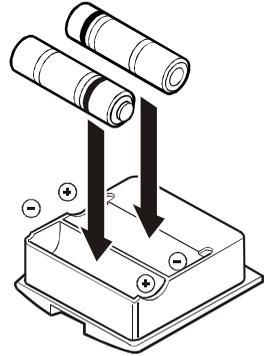
- 使用中にACアダプターが発熱する場合がありますが故障ではありません。
- 充電は、周囲の温度が+5℃~+35℃の場所で行ってください。
- 電池パックが消耗すると「」が点滅します。すみやかに充電してください。
- 7時間経過しても充電が完了しない場合は、「ジューデン デキマセン」が表示され、充電を終了します。この場合は、お買い上げの販売店またはお近くの営業所/サービスにご連絡下さい。
- 付属のACアダプターでは送信することはできません。
- ときどき端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

## 電池パックを準備する (2)

### ■乾電池ケースの使いかた (オプション)

オプションの乾電池ケース (FBA-23) を用意しておくこと、単三形アルカリ電池2本で使うことができます。ただしこの場合、送信出力は0.3Wと0.05Wになります。

- 乾電池が消耗するとディスプレイの“”が点滅します。
- 乾電池を使用しているときの送信出力は、0.3W (L2) と 0.05W (L1) に切り替えることができます。
- 使用できる乾電池はアルカリ乾電池だけです。マンガン乾電池は使用できません。
- 古い乾電池と新しい乾電池を混ぜて使用すると、乾電池の寿命を短くすることがあります。
- 乾電池を交換するときは、電源を切ってください。
- 長時間使用しない場合は、乾電池ケースから乾電池を取り外しておいてください。
- 周囲温度により、送信出力は変化します。
- 使用済みの乾電池は、火の中などに入れないでください。破裂・やけどなどの原因になります。
- ときどき乾電池ケースの端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できないばかりではなく、発熱や破裂などの原因になります。
- 乾電池の場合は、AMで送信しているときに電池が消耗してくると過変調になり、了解度が悪くなることがあります。



### ■使用時間の目安と残量表示

フル充電した電池パックおよび乾電池で使える時間の目安は次のとおりです。

使用バンド	電池パック	乾電池	アイコン表示	
アマチュアバンド*	50MHz帯	約6.5時間	約7時間	<b>電池パック使用時</b> なし：ほぼ一杯に充電されています。  ：十分使えます。  ：まだ使えます。  ：残りわずかです。  ：空になりました。  ：すぐに充電してください。 (点滅) <b>乾電池使用時</b>  ：まだ使えます。  ：アルカリ乾電池を交換してください。 (点滅)
	144MHz帯	約6時間	約6.5時間	
	430MHz帯	約5.5時間	約6時間	
短波帯, AMラジオ放送帯, FMラジオ放送帯, TV放送帯 (モノバンド受信のとき)	約15時間			

上記の目安は次の使いかたの場合です。

- アマチュアバンド：ハイパワーで送信6秒、受信6秒、待ち受け48秒の繰り返し
- その他のバンド：連続受信
- 上記の使用時間は目安です。実際に使える時間は、使いかたや温度などによって異なります。

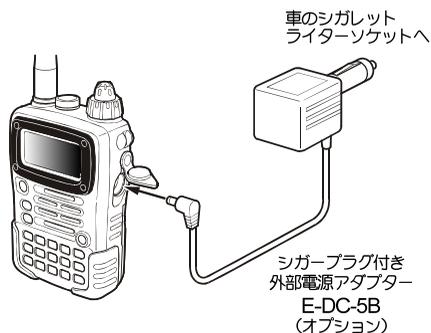
# 外部電源を接続する

オプションの取扱説明書もあわせてご覧ください。

- シガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-5B) および外部電源ケーブル (E-DC-6) を使用すると、充電中に送信することもできます。
- 市販の安定化電源に外部電源ケーブル (E-DC-6) を接続して使用する場合は、次の点にご注意ください。
  - ・ 電源電圧が12V～14Vの範囲であること (14Vを超えると高電圧プロテクトが動作し、ハイパワーで送信できなくなります。自動的にL3 (2.5W) になり、パワーが下がります)。
  - ・ 外部電源ケーブル (E-DC-6) の赤黒線をプラス (+)、黒線を (-) に接続すること。
  - ・ 電流量に十分余裕のあるもの (3A以上) をご使用ください。
  - ・ 付属のアンテナを接続して使用すると、安定化電源が誤動作を起こし故障の原因になります。市販の外部アンテナを接続して、VX-7を安定化電源から十分な距離をおいてください。
- 電池/パックを取り付けて外部電源を使用すると、電池パックを充電することができます。充電時間は約5時間です (市販の安定化電源の場合：電圧が12Vの時)。なおVX-7の電源をオンにして充電すると、充電時間は多少長くなります。
- 長時間 (7時間以上) 使用するとき、電池パックを外して使用してください。
- 周囲の温度が+5℃～+35℃の場所で充電を行なってください。
- ときどき端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく充電できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。

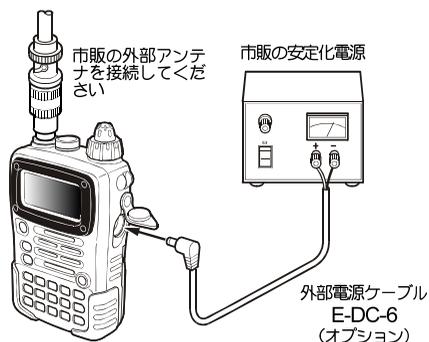
## ■シガレットライターに接続する

1. VX-7のⓄを2秒以上押して電源を“オフ”にします。
2. オプションのシガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-5B) の無線機側のプラグを、VX-7のEXT DC端子に接続します。
3. シガープラグ付き外部電源アダプターのシガープラグを、車のシガレットライターソケットに接続します。



## ■市販の安定化電源を接続する

1. VX-7のⓄを2秒以上押して電源を“オフ”にします。
2. オプションの外部電源ケーブル (E-DC-6) の赤黒線を安定化電源のプラス (+) 端子、黒線を (-) 端子に接続します。
3. 外部電源ケーブルのプラグを、VX-7のEXT DC端子に接続します。



# 時計をセットする

VX-7は月差30秒の時計を内蔵しております。なお、“時計表示”以外に“指定時刻に電源をオン/オフするタイマー機能”も搭載しておりますので、VX-7の機能を100%活用していただくためにも、お早めに現在の時刻にセットすることをお勧めします。工場出荷時には2001年1月1日、月曜日、00時00分、—にセットしてあります。

1. FUNCスイッチを押しながら $\text{0}^{\text{SET}}$ を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『特殊設定 :16 時間設定』を選択します。
3.  $\text{BND DN}^{\text{BAND}}$ を押します。

特殊設定	: 1 6
時間設定	
200 <u>1</u> . 01. 01	月

2002. 01. 01 月

2002. 03. 01 月

2002. 03. 10 月

2002. 03. 10 日

1:00 — 設定

1:30 — 設定

1:30 時報 設定

1:30 時報 設定

4.  $\text{MAIN}$  または  $\text{SUB}$  を押して「年」を設定します。
5. DIALツマミをまわして「月」にカーソルを移動します。
6.  $\text{MAIN}$  または  $\text{SUB}$  を押して「月」を設定します。
7. DIALツマミをまわして「日」にカーソルを移動します。
8.  $\text{MAIN}$  または  $\text{SUB}$  を押して「日」を設定します。
9. DIALツマミをまわして「曜日」にカーソルを移動します。
10.  $\text{MAIN}$  または  $\text{SUB}$  を押して「曜日」を設定します。
11. DIALツマミをまわして「時」にカーソルを移動します。
12.  $\text{MAIN}$  または  $\text{SUB}$  を押して「時」を設定します。
13. DIALツマミをまわして「分」にカーソルを移動します。
14.  $\text{MAIN}$  または  $\text{SUB}$  を押して「分」を設定します。
15. DIALツマミをまわして「—」にカーソルを移動します。
16.  $\text{MAIN}$  または  $\text{SUB}$  を押して、毎時00分に鳴る時報を設定します。時報が必要な場合は、「時報」を選択します。  
“時報”を選択すると、毎時00分に「ピピッ」と時報が鳴ります。  
時報が必要ない場合は、“—”のままにします。
17. DIALツマミをまわして「設定」にカーソルを移動します。
18.  $\text{WRITE MT}^{\text{VM}}$  を押して確定します。
19. FUNCスイッチを押しながら $\text{0}^{\text{SET}}$ を押します。  
ディスプレイに現在の時刻が表示されます。

- 時計の精度は常温で月差30秒です。温度変化などの使用条件により精度が異なる場合があります。
- 時計専用の充電可能なりチウム電池を内蔵しております。普段は付属の電池パックから電源を供給しますが、電池パックを外す（容量がなくなる）とリチウム電池に切り替わり、約2ヶ月間動作します。
- バンドをモノバンド受信時に切り替えると、ディスプレイに時刻を表示することができます。
- カレンダーは、西暦2001年1月1日～西暦2099年12月31日に対応しています。
- 指定した時刻に電源をオフにすることができます（51ページ参照）。
- 指定した時刻に電源をオンにすることができます（51ページ参照）。



# 各部の名前と働き

お使いになる前に

## MIC/SP端子

オプションのスピーカーマイクやイヤピースマイクを接続します。

**!** 当社指定以外のマイクやイヤホンは接続しないでください。

## アンテナ端子 (SMA)

付属のアンテナを接続します。

## ディスプレイ

受信する周波数や各種の設定状態などが表示されます。

## PTTスイッチ

押し続けているあいだ送信します。

## FUNC (ファンクション) スイッチ

FUNCスイッチを押しながらテンキーを押すと、テンキーの上に黒文字で記入されている機能が動作します。

## (電源) キー

- ・ 2秒以上押して電源“ON”。
- ・ 再度 2 秒以上押して電源“OFF”になります。

## SQLV (MON) (モニター) キー

- ・ 一時的にスケルチを“OFF”にします。
- ・ FUNCスイッチを押しながら SQLV (MON) を押すと、スケルチの調節ができます。

## TX POLK (マイ) キー

- ・ よく使用するセットモードをワンタッチで呼び出すことができます。工場出荷時は『設定関連:1センサー表示』のセットモードが登録されています。
- ・ 2秒以上押しとキーロックになります。
- ・ FUNCスイッチを押しながら TX POLK を押すと、送信出力を切り替えることができます。

## DIAL ツマミ

周波数を変えたり、メモリーチャンネルを選択します。

## VOL ツマミ

右にまわすほど、音が大きくなります。

## EXT DC 端子

外部電源を使用するときに、当社指定のシガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-5B) または外部ケーブル (E-DC-6) を接続します。電池パックを使用しているときは、この端子から充電します。

**!** 当社指定以外の製品を、接続しないでください。

## マイク

## スピーカー

## ストロボ

送受信時に点灯する高輝度 LED です。送信周波数帯や受信バンドに応じて点灯色が変わります。

## テンキー

受信または送信する周波数を指定します。

## BND DN (BAND) キー

- ・ 周波数帯を切り替えることができます。
- ・ FUNCスイッチを押しながら BND DN (BAND) を押すと、周波数帯が反対向きで切り替わります。

## WRITE MT (V/M) キー

VFOモードとメモリーモードが切り替わります。

VFOモードとは、DIAL ツマミで周波数を直接選択できる状態をいいます。

## (MAIN), (SUB) キー

操作/バンドを切り替えることができます。

(MAIN) または (SUB) を 0.5秒以上押しと、デュアルバンド受信からモノバンド受信になります。再度 0.5秒以上押しとデュアルバンド受信に戻ります。モノバンドで運用中に、FUNCスイッチを押しながら (MAIN) または (SUB) を押しと周波数表示が小さく (普通文字) になります。メモリーモードのときにタグ (メモリーの名前) を表示することができます。

# ディスプレイの説明

MAIN/バンドのVFOモードやメモリーモードなどの動作状態を表示します。

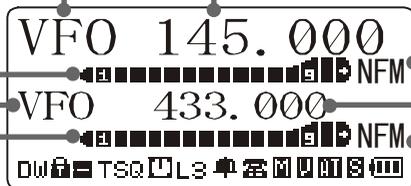
MAIN/バンドのS/POメーターを表示します。

SUB/バンドのVFOモードやメモリーモードなどの動作状態を表示します。

SUB/バンドのS/POメーターを表示します。

MAIN/バンド周波数を表示します。

MAIN/バンド運用モードを表示します。



SUB/バンド周波数を表示します。

SUB/バンド運用モードを表示します。

## アイコン部分

アイコン	動作説明	アイコン	動作説明
	デュアルレシーブ時に点灯します。		ベル機能がオンのとき点灯します。
	LOCK機能がオンのときに点灯します。		DTMF機能がオンのとき点灯します。
	レピーター運用時にシフト方向を表示します。 : マイナスシフト : プラスシフト : スプリットメモリー		ミュートがオンのとき点灯します。
			VOX機能がオンのとき点灯します。
			ATTがオンのとき点灯します。
	トーンスケルチ運用時に点灯します。 <b>T</b> : トーンエンコーダーがオンのときに点灯 <b>TSQ</b> : トーンスケルチがオンのときに点灯 <b>DCS</b> : DCSがオンのときに点灯		バッテリーセーブ機能が動作中（セーブ中）に点滅します。
	APO機能が動作しているときに点灯します。		バッテリーの状態を表示します。 なし : ほぼ一杯に充電されています。 : 十分使えます。 : まだ使えます。 : 残りわずかです。 : 空になりました。 : すぐに充電してください。 (点滅)
	送信出力を表示します。 なし : ハイパワー <b>L3</b> : LOW3 <b>L2</b> : LOW2 <b>L1</b> : LOW1		電池/パック使用時

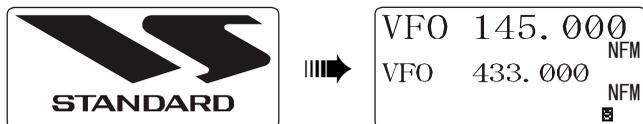
お使いになる前に

# 基本操作

## 電源を入れる

Ⓜを2秒以上押すと電源がオンになります。

電源をオンすると下図のような表示がディスプレイに表れ、2つの周波数を同時に受信します。工場出荷時には、上段側(MAIN/バンド)に145.000MHz、下段側(SUB/バンド)に433.000MHzが設定されています。

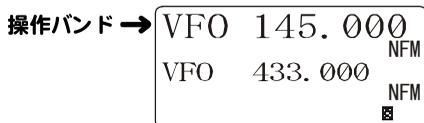


もう一度、Ⓜを2秒以上押すと電源がオフになります。

## ■ 操作するバンド

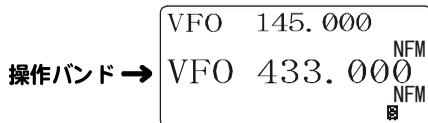
大きな文字で表示されている周波数を“操作バンド”といい、“周波数の変更操作”や“送信操作”などが行なえます。Ⓜ(MAIN)またはⓂ(SUB)を押して操作バンドを選びます。

基本操作



Ⓜ(MAIN)を押すと

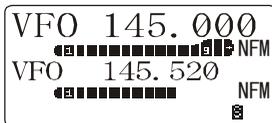
上段側をMAIN/バンドといい、MAIN/バンドが“操作バンド”になります



Ⓜ(SUB)を押すと

下段側をSUB/バンドといい、SUB/バンドが“操作バンド”になります

- MAIN/バンドは50MHz帯、144MHz帯、430MHz帯のアマチュア無線の周波数帯で送受信が行なえる他に、ラジオやテレビ、情報無線などの受信機としても使える機能が搭載されています。
- SUB/バンドは50MHz帯、144MHz帯、430MHz帯のアマチュア無線の周波数帯で、FM(NFM)のみ送受信することができます。
- MAIN/バンドとSUB/バンドを同時受信できますので、ラジオを聞きながらアマチュア無線を受信したり、同じ周波数帯のアマチュア無線を2波同時に受信することができます(2波同一バンド受信)。



MAIN, SUB/バンド周波数帯表

MAIN/バンド	SUB/バンド
50MHz帯	50MHz帯
144MHz帯	144MHz帯
430MHz帯	430MHz帯
航空無線帯	--
情報無線帯(1)	--
情報無線帯(2)	--
AMラジオ放送帯	--
短波帯	--
FMラジオ放送帯	--
TV放送帯	--

## 音量を調節する

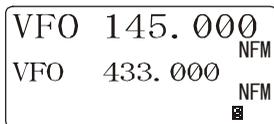
VOLツマミをまわして、受信音を調節します。

音量を調節するときスピーカから何も聞こえていない場合は、<sup>SOLY</sup>MONIを押してザーという雑音を聞きながらVOLツマミをまわしてください。

○ MAIN/バンドとSUB/バンドの音量を同時に調節しますので、聞きづらい場合は音声ミュート機能のご使用をお勧めします(20ページ参照)。

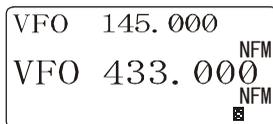
# バンドを選ぶ

**MAIN** または **SUB** を押して、“操作バンド”を選びます。



**MAIN** を押したとき

MAIN/バンド(上段側)の145.000MHz  
が操作/バンドになります



**SUB** を押したとき

SUB/バンド(下段側)の433.000MHz  
が操作/バンドになります

**MAIN** または **SUB** を0.5秒以上押すと・・・押したバンドで“モノバンド受信”になります。

ディスプレイに「Main」「Sub」の表示が点灯し  
て、どちらのバンドを使用しているかわかります。



**MAIN** を0.5秒以上押したとき



**SUB** を0.5秒以上押したとき

## モノバンド受信のときに

**FUNC**スイッチを押しながら **MAIN** または **SUB** を押すと・・・周波数の表示を小さく(普通文字)します。

もう一度押すと、倍角の文字  
に戻ります。



- モノバンド受信時に、時刻が表示されますので、お早めに現在の時刻をセットすることをお勧めします。時計のセット方法は12ページ参照してください。
- 信号を受信していないときの消費電流を少なくすることができる、バッテリーセーブ機能が搭載されています。セーブ中は“☒”が点滅します。なお、セットモードの『Save関連:2RXセーブ時間』により、セーブ時間を変更することができます。

# 周波数帯を選ぶ

**BND DN (BAND)** を押して、操作バンドの周波数帯を選びます。

**FUNC**スイッチを押しながら **BND DN (BAND)** を押すと、反対方向に切り替わります。

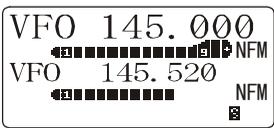
MAIN/バンド(上段側) : 144MHz帯⇄430MHz帯⇄航空無線帯⇄情報無線帯(1)⇄情報無線帯(2)  
を操作バンドにしたとき

⇄AMラジオ放送帯⇄短波帯⇄FMラジオ放送帯

⇄TV放送帯⇄50MHz帯⇄(144MHz帯に戻る)

SUB/バンド(下段側) : 430MHz帯⇄50MHz帯⇄144MHz帯⇄(430MHz帯に戻る)  
を操作バンドにしたとき

- 工場出荷時には、MAIN/バンドに145.000MHz、SUB/バンドに433.000MHzが設定されています。
- 50MHz帯、144MHz帯、430MHz帯は、MAIN/バンドとSUB/バンド両方同じ周波数帯を選択することができます(2波同一バンド受信)。



- **EMG (HW/RV)** を押すと、周波数帯のホームチャンネルが呼び出されます(24ページ参照)。
- 自動的に周波数帯に適したモードに切り替わる“**AUTO**(オートモード)”に設定されていますが、マニュアルで設定することもできます(セットモードの『基本設定 :4 RX モード』)。

基本操作

# 周波数をあわせる

**DIAL**つまみまたは**テンキー**で操作バンドの周波数をあわせませす。

**DIAL**つまみを右にまわすと操作バンドの周波数は高くなり、左にまわすと低くなります。

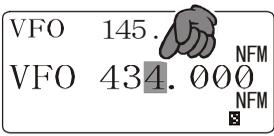
○テンキーで選択する場合は、100MHzの位から6桁の数字で指定します。

《例》 51.52MHzの場合 : **SET** **0** **S.SCH** **5 JKL** **SCAN** **1** **S.SCH** **5 JKL** **DW** **2 ABC** **SET** **0**

ただし、右の桁がすべて“0”の場合は次のように省略できます。

《例》 433.00MHzの場合 : **ARTS** **4 GH** **TV** **3 DEF** **TV** **3 DEF** **WRITE MT** **V/M**

- **FUNC**スイッチを押しながら**DIAL**つまみをまわすと、1MHz単位で変化します。



- **DIAL**つまみや**テンキー**で周波数を直接選択できる状態を**VFO**モードといいます。
- セットモードの『基本設定 :3 チャンネルステップ』により、**DIAL**つまみをまわしたときの、周波数変化量を変更することができます。
- セットモードの『特殊設定 :9 BAND リンク』により、**DIAL**つまみをまわして**MAIN**バンドと**SUB**バンドの周波数を同時に可変することができます。
- セットモードの『特殊設定 :10 VFO モード』により、周波数帯のエッジに達してさらに**DIAL**つまみをまわすと、現在の周波数帯の他端になります。
- 右表の周波数帯は受信することができません。

253 ~ 276MHz, 412 ~ 416MHz, 860 ~ 901MHz  
380 ~ 383MHz, 810 ~ 846MHz, 915 ~ 961MHz

## 送信する

### 1. PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話します。

操作/バンドの周波数で送信します。マイクと口元の間隔は、5cm位が適当で、普通の声で話します。

### 2. PTTスイッチを離すと受信に戻ります。

- FMモードおよびAMモード（MAIN/バンドの50MHz帯のみ）で送信することができます。
- セットモードの『Save関連 :3 TX セーブ 設定』により、相手局の信号強度に合わせて送信出力が自動的に下がりバッテリーをセーブすることができます。
- セットモードの『特殊設定 :1 ビジー TX 禁止』により、信号を受信中に送信しようとするとき送信を禁止することができます（BCLO）。
- 長時間送信し続けると過熱防止回路が働き、送信出力が自動的にローパワーになります。また、過熱防止回路が働いているときにさらに送信を続けると、強制的に受信状態に戻ります。セット内部の温度が下がるまで本機をよく休ませてから送信してください。
- アンテナを取り付けられない状態で送信しないでください。送信回路が損傷する場合があります。

## レピータで交信する

ARS（Automatic Repeater Shift）機能により、受信周波数をレピータの周波数（439.000～440.000MHz）に合わせるだけで、自動的にレピータを使った交信ができます。



### 1. 受信周波数をレピータの周波数に合わせます。

ディスプレイの下部に“■T”の表示が点灯します。

### 2. PTTスイッチを押しながら送信します。

送信時は88.5Hzのトーン信号を併いながら受信周波数より5MHz低い周波数で電波が発射されます。

VFO	145.000	
VFO	439.000	NFM
		NFM
	■T	■



- セットモードの『基本設定 :6 シフト 幅設定』により、レピータのシフト幅を変更することができます。
- セットモードの『基本設定 :7 レピータ シフト』により、レピータのシフト方向を設定することができます。
- セットモードの『基本設定 :5 ARS 機能』により、ARS機能の動作をオフにすることができます。

## リセットするときは

すべての設定やメモリーをクリアしてお買い上げ時の状態に戻すことができます（オールリセット）。

### 1. BAND、WRITE MT、ARTS の3つのキーを押しながら◎を押して電源をオンにします。

「ピッポッパツ」とビーブ音が鳴ると同時に、キーから指を放してください。

### 2. "PUSH F KEY!"の表示が出ましたら、FUNCスイッチを押します。

「ピッポッパツ」とビーブ音が鳴ります。

FUNCスイッチ以外のキーまたはスイッチを押せば、リセットを中止することができます。



オールリセットを行うと、メモリーした内容は全て消去されます。メモリー内容は必ず紙などに控えておくようになしてください。

## 音声をミュートする

デュアル受信の時に、MAIN/バンドとSUB/バンドの音声重複して聞きづらいときは、操作バンド以外のバンドの音声をミュートすることができます。

### 1. FUNCスイッチを押しながら を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

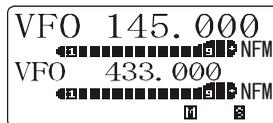
### 2. DIALツマミをまわして『基本設定 :8 MUTE設定』を選択します。



### 3. または を押して「ON」を選択します。

### 4. FUNCスイッチを押しながら を押します。

ミュートを解除するには、手順3.の項目を「OFF」にします。



基本操作

- ミュート機能がオンでも操作バンドに信号がないときには、ミュートしません。
- ミュート機能がオンのときには “” が表示されます。

## 送信出力を切り替える

VX-7の送信出力は最大5W（50MHzのAMは1W）ですが、距離の近い相手と交信するときや、バッテリーの消耗を抑えるときには、送信出力を下げることができます。

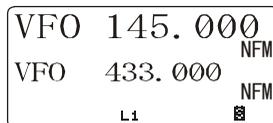
電源の種類ごとの送信出力は右のとおりです。

電池の種類	ハイパワー	L3	L2	L1
電池/パック				
外部電源(DC13.8V)	5W	2.5W	1W	0.05W
乾電池ケース (アルカリ乾電池)		0.3W		0.05W

※ AMは1W固定です。

### FUNCスイッチを押しながら を押します。

FUNCスイッチを押しながら  を押すたびに、送信出力が切り替わり、送信出力に応じたアイコンがディスプレイに表示されます。



- MAIN/バンドとSUB/バンドを個別に設定することができます。
- バッテリーの消耗を抑えるためにも、必要最低限の送信出力で使用してください。
- 送信出力を下げているときでも、FUNCスイッチを押しながらPTTスイッチを押すとハイパワーで送信できます（一時ハイパワー送信）。
- お買い上げ時の状態では「ハイパワー」に設定されています。

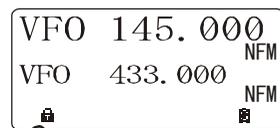
## 状態が変わらないようにロックする

誤って周波数などが変わってしまったりしないように、テンキーと **MAIN** **SUB** をロックできます。

**TX POLK**  
**☒** を2秒以上押します。

ロックを解除するときは、もう一度 **TX POLK**  
**☒** を2秒以上押します。

ロックされているときには、“**☒**”がディスプレイに表示されます。



○ セットモードの『基本設定 :10 ロックモード』により、DIALツマミやPTTスイッチをロックするように設定することができます。

## スケルチのレベルを調節する

信号が入感していないときに出る、耳障りなノイズを消すことができます。

NFM/AM用と、WFM用の2種類のスケルチがあり、受信しているモードのスケルチを調節することができます。

スケルチレベルを上げるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください。

1. **FUNC**スイッチを押しながら **SQLV (MON)** を押します。

スケルチのレベル (LEVEL) を表示します。



2. **MAIN** または **SUB** を押してレベルを調節します。

NFM/AMのときには、“LEVEL 0” ~ “LEVEL 15” まで調節できます。

WFMのときには、“LEVEL 0” ~ “LEVEL 8” まで調節できます。

3. **FUNC**スイッチを押しながら **SQLV (MON)** を押して完了します。

○ セットモードでも、NFM/AMのスケルチレベルとWFMのスケルチレベルを個別に設定することができます。受信モードがNFM/AMのときには『基本設定 :1 スケルチNFM』を、WFMのときには『基本設定 :2 スケルチWFM』を選択して調節してください。

○ MAINバンドとSUBバンドを個別に設定することができます。

# メモリーを使う

## 多彩なメモリー機能

VX-7には、通常のメモリーチャンネル（メモリー番号1～450）の他に、

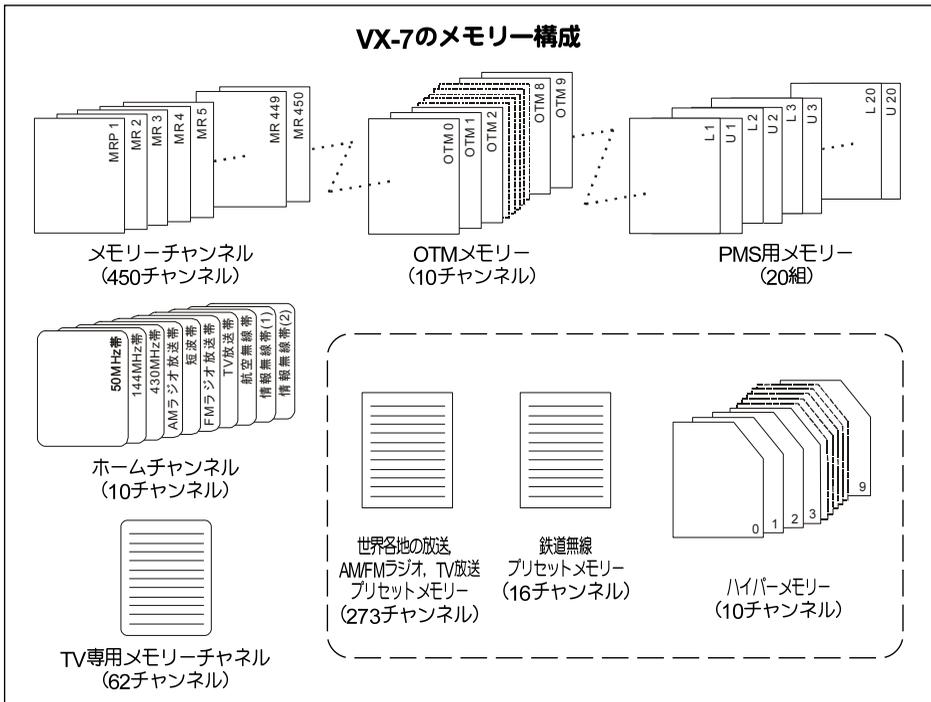
- 各周波数帯ごとに独立してワンタッチ呼び出し可能なホームチャンネル
- 簡単操作の10チャンネル受令機のような使い方ができるワンタッチメモリー
- 20組のプログラマブルメモリースキャン（PMS）用メモリーチャンネル
- 各地域に合わせて受信できるチャンネルを選択できるTV専用メモリーチャンネル（62チャンネル）
- AM/FMラジオやTV放送、世界各地の主な放送などの周波数や放送局名が、あらかじめ登録されているプリセットメモリー（273チャンネル）
- 鉄道無線のチャンネルと周波数が、あらかじめ登録されているプリセットメモリー（16チャンネル）

を搭載しております。

なお、通常のメモリーチャンネルとホームチャンネル、ワンタッチメモリー（OTM）、PMSメモリーチャンネルには、各チャンネルごとに個別に、運用周波数の他に、運用モード（電波型式）やその他運用情報などのデータも同時にメモリーすることができます。

- 運用周波数
- トーン情報
- 運用モード
- DCS情報
- メモリータグ
- メモリースキップ情報
- レピータ情報
- 送信出力

また、上記で紹介しましたメモリー以外に、運用周波数や運用情報だけでなく、現在設定してある状態をそのままメモリーし、ワンタッチでその状態を呼び出すことができる**ハイパーメモリー**を搭載しております。



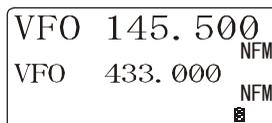
# メモリーに書き込む

VX-7には450チャンネル（メモリー番号1～450）のメモリーがあります。

1. VFOモードにします（メモリーモードの時は<sup>WRITE MT</sup>**V/M**を押します）。

2. メモリーする周波数を選択します。

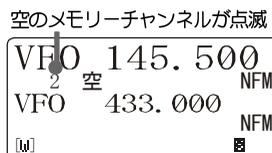
DIALツマミまたはテンキーで周波数を選択します。



3. FUNCスイッチを押しながら<sup>WRITE MT</sup>**V/M**を押します。

書き込みモードになり、ディスプレイに“W”が表示されます。また、何もメモリーされていない最も小さい番号のメモリーチャンネルが点滅するとともに“空”が表示されます。

PTTスイッチを押すと、書き込みモードをキャンセルすることができます。



空のメモリーチャンネルが点滅

4. メモリーチャンネル番号を指定して書き込む場合は、DIALツマミをまわして希望するメモリーチャンネル番号を選択します。

5. <sup>WRITE MT</sup>**V/M**を押してメモリー書き込みを完了します（もとの周波数表示に戻ります）。

○ はじめてメモリーの書き込みをすると、あらかじめメモリーチャンネル1に登録してある145.000MHzが表示されますので、書き込みたい周波数に書き替えてください。次回メモリーの書き込みをするときは、“空”のメモリーチャンネルが呼び出されます。

○ すでに登録されているメモリーチャンネルに再度書き込み操作を行うと、新しい周波数に書き替えることができます。

○ セットモードの『基本設定 :12 MW設定』により、メモリー書き込み時に、以前書き込んだメモリー番号の次のメモリー番号を表示することができます。

○ 1つのメモリーチャンネルに異なる受信周波数と送信周波数を登録することもできます。

1. 受信周波数をメモリーします。

2. VFOモードで送信周波数を選択します。

3. FUNCスイッチを押しながら<sup>WRITE MT</sup>**V/M**を押します。

4. DIALツマミをまわして、受信周波数をメモリーしたチャンネル番号を選択します。

5. PTTスイッチを押しながら<sup>WRITE MT</sup>**V/M**を押します。

異なる受信周波数と送信周波数を登録したメモリーチャンネルは、メモリーを呼び出したときにディスプレイに“**■**”が表示されます（スプリットメモリー）。

● メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。

また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は、必ず紙などに控えておくようにしてください。

## ■メモリーを消すときは

1. メモリーモードにします（VFOモードの時は<sup>WRITE MT</sup>**V/M**を押します）。

2. FUNCスイッチを押しながら<sup>WRITE MT</sup>**V/M**を押します。

3. DIALツマミをまわして、消したいメモリーチャンネルを選択します。

4. <sup>SQLV</sup>**(MONI)**を押して消去を完了します。

○ 消したメモリーチャンネルに周波数などを新たに書き込む前であれば、上記のメモリー消去の操作をもう一度行うことによって消去した内容を復活できます。

● メモリーチャンネル1は消去できません。

# メモリーを呼び出す

## ■メモリーを呼び出す

1. メモリーモードにします (VFOモードの際は <sup>WRITE MT</sup> **V/M** を押します)。

最後に使用したメモリーチャンネルが呼び出されます。

2. DIALツマミをまわして呼び出すメモリーチャンネルを選択します。

テンキーでメモリーチャンネル番号を入力して <sup>WRITE MT</sup> **V/M** を押すことによって呼び出すこともできます。

(例: <sup>SCAN</sup> **1** <sup>S.SCH</sup> **5** <sup>WRITE MT</sup> **V/M**)

MR	433.200	NFM
<sup>15</sup> VFO	433.000	NFM
		<b>⊗</b>

- DIALツマミをまわしたときは、周波数が書き込まれていないメモリーチャンネルはスキップされます。
- SUB/バンド側でメモリーを呼び出すと、ハムバンド (50MHz帯、144MHz帯、430MHz帯) 内のメモリーチャンネルだけ、呼び出すことができます。
- 工場出荷時では、メモリーチャンネル1(MR1)にデュアルレシーブの優先チャンネルとして使用されるプライオリティメモリーチャンネルが設定されています。メモリー番号にはMRP1と表示されます(42ページ参照)。
- <sup>WRITE MT</sup> **V/M** を0.5秒以上押すと“MR”の表示が“MT”(メモリーチューン)に変わり、メモリーチャンネルの内容を一時的に変更できます。もう一度 <sup>WRITE MT</sup> **V/M** を0.5秒以上押すと、もとの周波数に戻ります (“MR”表示に戻ります)。
- <sup>WRITE MT</sup> **V/M** を押すと、VFOモードに戻り、メモリーモードに移行する前に選択していた周波数になります。
- FUNCスイッチを押しながら <sup>WRITE MT</sup> **V/M** を押した後 <sup>TX POLK</sup> **⊗** を押すと、周波数は変わらずにVFOモードに戻ります (メモリーVFO転送)。
- メモリーモードだけで運用することもできます。モノバンド受信にし、<sup>BND DN</sup> **BAND** を押しながら電源をオンにすると、メモリーチャンネルだけを使える状態 (メモリーオンリーモード) になります。もう一度 <sup>BND DN</sup> **BAND** を押しながら電源をオンにすると、メモリーオンリーモードは解除されます。

MT	433.200	NFM
<sup>15</sup> VFO	433.000	NFM
		<b>⊗</b>

メモリーを使う

## ■ホームチャンネルを呼び出す

<sup>EMG</sup> **HM/RV** を押します。

<sup>EMG</sup> **HM/RV** を押したときに選択されていた周波数帯のホームチャンネル (右下表) が呼び出されます。

HM	145.000	NFM
VFO	433.000	NFM
		<b>⊗</b>

- 23ページのメモリーに書き込む操作で、手順**5.**のかわりに <sup>EMG</sup> **HM/RV** を押すとホームチャンネルの周波数を変更できます (手順**4.**は不要)。
- DIALツマミをまわして周波数を選択するとVFOモードに戻ります。
- もう一度 <sup>EMG</sup> **HM/RV** を押すと、ホームチャンネルを呼び出す前に選択していた周波数になります。

周波数帯	周波数
50MHz帯	51.000MHz
144MHz帯	145.000MHz
430MHz帯	433.000MHz
AMラジオ放送帯	540kHz
短波帯	1.800MHz
FMラジオ放送帯	76.000MHz
TV放送帯	95.750MHz
航空無線帯	108.000MHz
情報無線帯 (1)	380.000MHz
情報無線帯 (2)	860.000MHz

## メモリーグループを使う

メモリーチャンネルを使用目的ごとのグループに分けておくことができます。VX-7では9種類のメモリーグループを利用でき、1つのメモリーグループには最大48個のメモリーチャンネルを登録できます。

### ■メモリーグループに登録する

1. メモリーモードにします (VFOモードの時は<sup>WRITE MT</sup>V/Mを押します)。
2. メモリーグループに登録するメモリーチャンネルを呼び出します。

DIALツマミやテンキーでメモリーチャンネルを選択します。

MR	433.200	NFM
<sup>15</sup> VFO	433.000	NFM
		☑

3. FUNCスイッチを押しながら<sup>WRITE MT</sup>V/Mを押します。  
書き込みモードになります。
4. 登録するメモリーグループの番号(1~9)をテンキーで指定します。  
 <<例>> メモリーグループ“2”に登録するときは<sup>DW</sup>2ABCを押します。

### ■メモリーグループ内のメモリーチャンネルを呼び出す

1. あらかじめMAINバンドで受信します。
2. メモリーモードにします (VFOモードの時は<sup>WRITE MT</sup>V/Mを押します)。
3. FUNCスイッチを押しながら<sup>SPCL</sup>9 WXを押します。  
特殊メモリーに切り替わります。
4. DIALツマミをまわして「2 メモリーグループ」を選択します。

特殊メモリー  
2 メモリーグループ

5. FUNCスイッチを押しながら<sup>SPCL</sup>9 WXを押して確定します。
6. DIALツマミをまわしてメモリーグループ(MG1~MG9)を選択し、<sup>WRITE MT</sup>V/Mを押します。

メモリーグループを選択している間は、“MG”が点滅します。

MG2	433.200	NFM
<sup>15</sup> VFO	433.000	NFM
		☑

7. DIALツマミをまわして呼び出すメモリーを選択します。  
メモリーグループ内のメモリーチャンネルだけを選択することができます。  
他のメモリーグループを選択するときは、<sup>WRITE MT</sup>V/Mを押します。
8. 通常のメモリーモードに戻るときは、上記の操作(手順3.~手順5.)を繰り返し、手順4.の項目で「1 OFF」を選択します。

# メモリータグを使う (1)

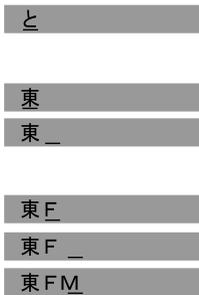
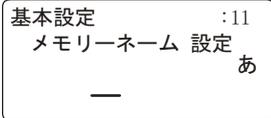
## ■ メモリーに名前をつける

メモリーチャンネル、メモリーグループ内のメモリーチャンネル、ホームチャンネル、TVチャンネルにコールサインや放送局名などの名前(メモリータグ)をつけることができます(最大8文字)。

入力できる文字(文字種)は、ひらがな、カタカナ、漢字(約200種類)、英字、数字、記号があります。

### 《例》「東FM」を入力する場合

- メモリーモードにします (VFOモードの時は **WRITE MT** を押します)。
- 名前をつけるメモリーチャンネルまたはメモリーグループを呼び出します。  
メモリーグループ内のメモリーチャンネルの場合は、25ページの「メモリーグループ内のメモリーチャンネルを呼び出す」を参照してください。
- FUNCスイッチを押しながら **SET** を押します (各種の設定を行なえるセットモードになります)。
- DIALツマミをまわして『基本設定 :11メモリーネーム設定』を選択します。
- BND DN** を押します。
- WRITE MT** を押して文字種を「あ」(または「ア」)に指定します。  
A, 0 → あ → ア → A, 0 . . .
- ARTS** を5回押して「と」の文字を入力します。  
漢字は字音で呼び出します。
- EMG** を押し漢字呼び出しモードにします。
- MAIN** を5回押して「東」を選択します。
- DIALツマミを右に1クリックまわしてカーソルを移動します。
- WRITE MT** を押して文字種を「A,0」に指定します。
- TV** を3回押して「F」を選択します。
- DIALツマミを右に1クリックまわしてカーソルを移動します。
- SP-ANA** を1回押して「M」を選択します。
- BND DN** を押して確定します。
- FUNCスイッチを押しながら **SET** を押して完了します。  
メモリーチャンネルにメモリータグが書き込まれます。



メモリーを使う

- 記号を入力するときはFUNCスイッチを押し、**MAIN** (または **SUB**) でいろいろな記号を選択できます。
- “ひらがな” および “カタカナ” は **SCAN** : 1 : あ行, **DW** : 2ABC : か行, **TV** : 3DEF : さ行, **ARTS** : 4 GHI : た行, **S.SCH** : 5 JKL : な行, **SP-ANA** : 6 MNO : は行, **CH.CNT** : 7 RS : ま行, **TAP** : 8 TUV : や行, **SPCL** : 9 VW : ら行, **SET** : 0 : わ行で呼び出すことができます。
- 濁点/半濁点の文字、句点、読点、小文字などの文字を入力するときは、**SET** を押し「わ」行を呼び出し **MAIN** (または **SUB**) を押していくと、いろいろな文字が選択できます。
- **TX POLK** : カーソル位置の文字を消します。 **WRITE MT** : 文字種を変更します。 **EMG** : 漢字モードになります。
- 入力できる文字(文字種)は、“フォント一覧表”をご覧ください(78ページ参照)。
- 入力する漢字がない場合は、フォントエディターで作成することができます(5文字まで; 60ページ参照)。

## メモリータグを使う (2)

### ■ メモリータグを表示する

1. モノバンド受信にします (デュアルバンド受信のときは (MAIN) または (SUB) を2秒以上押します)。
2. 倍角文字を普通文字にします (FUNCスイッチを押しながら (MAIN) または (SUB) を押します)。  
設定されているメモリータグが表示されます。

- デュアルバンド受信をしているときは、メモリータグは表示できません。  
○ 倍角文字で表示されているときは、メモリータグは表示できません。

漢字一覧表

読み	漢字																
あ	愛	か	賀	<	空	こ	根	し	手	せ	船	て	田	は	八	ほ	幌
い	庄																
え	伊	き	隔	け	栗	こ	災	し	酒	そ	総	と	戸	ひ	尾	み	万
お	井	基	学	け	群	こ	埼	し	州	た	送	と	土	ふ	百	み	無
か	一	機	間	こ	郡	し	坂	し	集	ち	測	な	島	ふ	秒	め	名
か	英	氣	岩	こ	限	し	察	し	重	ち	隊	に	東	ふ	富	や	野
か	越	城	岩	こ	限	し	札	し	小	ち	大	な	道	ふ	武	よ	陽
か	遠	機	岩	こ	限	し	沢	し	消	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡
か	横	機	岩	こ	限	し	三	し	上	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡
か	沖	機	岩	こ	限	し	山	し	新	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡
か	温	機	岩	こ	限	し	森	し	神	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡
か	化	機	岩	こ	限	し	神	し	水	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡
か	河	機	岩	こ	限	し	水	し	制	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡
か	香	機	岩	こ	限	し	石	し	静	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡
か	鹿	機	岩	こ	限	し	設	し	設	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡
か	鹿	機	岩	こ	限	し	千	し	川	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡
か	鹿	機	岩	こ	限	し	線	し	線	ち	大	な	徳	ふ	武	り	絡

# ワンタッチメモリー (OTM) を使う

OTM機能を動作させると、あらかじめ登録しておいた10個のメモリーを、テンキーで呼び出すことができます。多チャンネルのメモリーの中から必要とする周波数を探し出すという手間が省け、簡単操作の10チャンネル受令機のような使いかたができます。

OTM機能をONにする前に、希望の周波数を専用メモリーのOTM0～OTM9へメモリーします。

## ■ OTMをメモリーする

1. VFOモードにします (メモリーモードの時は <sup>WRITE MT</sup> **[VM]** を押します)。
2. メモリーする周波数を選択します。  
DIALツマミまたはテンキーで周波数を選択します。
3. FUNCスイッチを押しながら <sup>WRITE MT</sup> **[VM]** を押します。  
書き込みモードになり、ディスプレイに“W”が表示されます。
4. DIALツマミをまわして希望するメモリーチャンネル番号 (OTM0～OTM9) を選択します。  
OTM0～OTM9は、メモリーチャンネルの最後の方にあります。DIALツマミを左にまわすと早く選択できます。
5. <sup>WRITE MT</sup> **[VM]** を押してメモリー書き込みを完了します。  
もとの周波数表示に戻ります。

VFO	145.500	
OTM1		NFM
VFO	433.000	NFM
		<input checked="" type="checkbox"/>

## ■ OTMを呼び出す

1. あらかじめ、MAINバンドのモノバンド受信にします。
2. FUNCスイッチを押しながら <sup>SPCL</sup> **[9 WX]** を押します。  
特殊メモリーに切り替わります。
3. DIALツマミをまわして「3 ワンタッチメモリー」を選択します。
4. FUNCスイッチを押しながら <sup>SPCL</sup> **[9 WX]** を押して確定します。
5. テンキーでメモリーを選択します。  
〈例〉 <sup>SCAN</sup> **[1]** を押し、OTM1にメモリーした周波数が呼び出されます。
6. ワンタッチメモリーを解除するときは、上記の操作 (手順2.～手順4.) を繰り返し、手順3. の項目で「1 OFF」を選択します。

特殊メモリー  
3 ワンタッチメモリー

OTM	145.500	
1		
	時刻	12:00
Main		NFM
		<input checked="" type="checkbox"/>

# TV専用メモリーでTV放送を聴く

MAINバンドで受信中に、TV専用メモリーを呼び出すとTV放送の音声を簡単な操作で聴くことができます。ディスプレイにはTV放送の周波数とチャンネルが同時に表示されるので簡単に選択できます。また、現在いる場所で受信できるTV放送だけを自動的にスキャンし、選択することができます。

## ■ TV放送をチャンネル番号で選択する

1. あらかじめMAINバンドで受信します。
2. FUNCスイッチを押しながら **TV** (3 DEF) を押します。  
TV専用メモリーが呼び出されます。



3. DIALツマミをまわします。  
TV放送の選択をチャンネルで行うことができます。  
(表示例は、東京地方のNHK教育：3チャンネルです)



4. TV放送の受信を終了するときには、**WRITE MT** (V/M) を押します。

## ■ 現在いる場所で受信できるTVチャンネルを選択する

次の操作を行うと、現在いる場所で受信できるTV放送だけを選択できるようになります。

1. あらかじめMAINバンドで受信します。
2. FUNCスイッチを押しながら **TV** (3 DEF) を押します。  
TV専用メモリーが呼び出されます。

3. FUNCスイッチを押しながら **SCAN** (1) を押します。

TV放送のすべてのチャンネルをスキャンした後自動的にスキャンは停止し、受信信号のなかったチャンネルは表示しないように設定されます。

4. 上記の方法でTV放送の選択を行うと、受信できるTV放送だけを選択することができます。

- 放送のないチャンネルが表示される場合は、スケルチレベルを上げてからもう一度上記の操作を行ってください。
- TV放送のチャンネルを選択しているときに、FUNCスイッチを押しながら **WRITE MT** (V/M) を押した後に **SQLV** (MON E) を押すと、そのチャンネルをスキップさせることができます。
- 受信する地域が変わった場合は、上記の操作を繰り返して設定しなおしてください。
- 全チャンネル受信できる状態（工場出荷時と同じ状態）に戻すには、FUNCスイッチを押しながら **SQLV** (MON E) を押して、スケルチレベルを“0”にセットしてからスキャンをしてください。
- 各チャンネルごとに放送局名をメモリーすることができます（「メモリーに名前をつける」：26ページ参照）。

# プリセットメモリーを呼び出して世界各地の放送、AM/FMラジオ、TV放送を聴く

放送局専用のプリセットメモリーから世界各地の主な放送局、AM/FMラジオ放送局、TV放送局の音声を聴くことができます。全部で273チャンネルあります。

よく聴く放送局を普通のメモリーに書き込むことができます。周波数だけでなく放送局名もメモリーします。

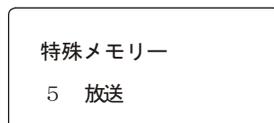
プリセットされている周波数は、「プリセットされている放送局周波数一覧表」を参照してください（74ページ参照）。

## ■ 聴きたい放送局を選択する

1. あらかじめ、MAINバンドのモノバンド受信にします。

2. FUNCスイッチを押しながら  を押します。

特殊メモリーに切り替わります。



3. DIALツマミをまわして「5 放送」を選択します。

4. FUNCスイッチを押しながら  を押して確定します。

放送局のリストチャンネルと周波数などが表示されます。



5. DIALツマミをまわして聴きたい放送局を選択します。

6. 放送局の受信を中止するときは、上記の操作（手順2.～手順4.）を繰り返し、手順3.の項目で「1 OFF」を選択します。

○ 周波数の表示が倍角文字のときは、FUNCスイッチ押ししながら  または  を押すと普通文字になり、放送局名が表示されます。

○ プリセットメモリーは他の周波数のデータに書き換えることはできません。

● 受信する時間帯や電波の状態が悪いときは、受信できない場合があります。

● 各放送局は74ページに示す一覧表以外にも受信できる周波数があります。詳しくは市販されている周波数帳などを参考にしてください。

## ■ 聴きたい放送局をメモリーに書き込む

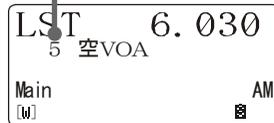
よく聴く放送局を普通のメモリーやワンタッチメモリーに書き込むことができます。

1. DIALツマミをまわして聴きたい放送局を選択します。

2. FUNCスイッチを押しながら  を押します。

空のメモリーチャンネルが点滅

書き込みモードになり、ディスプレイに“W”が表示されます。



また、何もメモリーされていない最も小さい番号のメモリーチャンネルが点滅するとともに“空”が表示されます。

PTTスイッチを押すと、書き込みモードをキャンセルすることができます。

3. メモリーチャンネル番号を指定して書き込む場合は、DIALツマミをまわして希望するメモリーチャンネル番号を選択します。

ワンタッチメモリーに書き込む場合は、メモリーチャンネル番号をOTM0～OTM9に選択してください。

4.  を押してメモリー書き込みを完了します（選択していた周波数表示に戻ります）。

○ メモリーに書き込んだ放送局は、MAINバンド側でのみ呼び出すことができます。

○ メモリーを呼び出したときに、周波数表示が倍角文字になっているときは、FUNCスイッチを押しながら

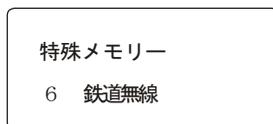
 または  を押すと周波数表示が普通文字の大きさになり、放送局名を表示することができます。

# プリセットメモリーを呼び出して鉄道無線を聴く

主要な鉄道無線のチャンネルがあらかじめ専用のプリセットメモリーに登録されています。よく聴く鉄道無線のチャンネルを普通のメモリーに書き込むことができます。また、2280Hzの空線信号の音を消して、待ち受け受信をすることができます。プリセットされている周波数は、“鉄道無線周波数一覧表”を参照してください（78ページ参照）。

## ■鉄道無線のチャンネルを選ぶ

1. あらかじめ、MAINバンドのモノバンド受信にします。
2. FUNCスイッチを押しながら $\text{SPCL}$   
 $\text{9}$ を押します。  
特殊メモリーに切り替わります。
3. DIALツマミをまわして「6 鉄道無線」を選択します。
4. FUNCスイッチを押しながら $\text{SPCL}$   
 $\text{9}$ を押して確定します。  
鉄道無線のチャンネルと周波数が表示されます。



5. DIALツマミをまわして希望の鉄道チャンネルの周波数を選択します。
6. 鉄道無線の受信を中止するときは、上記の操作（手順2～手順4）を繰り返し、手順3の項目で「1 OFF」を選択します。

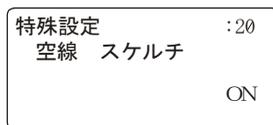


- 周波数の表示が倍角文字のときは、FUNCスイッチ押しながら $\text{MAIN}$ または $\text{SUB}$ を押すと普通文字になり、チャンネル名が表示されます。
- プリセットメモリーは、他の周波数のデータに書き換えることはできません。
- 鉄道無線の周波数を普通のメモリーやワンタッチメモリーに書き込むことができます（23、28ページ参照）。

## ■空線信号の音を消す（空線スケルチ機能）

通話が行なわれていないときに聞こえる、「ピー」という2280Hzの空線信号音を消すことができます。

1. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   
 $0$ を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『特殊設定 :20 空線スケルチ』を選択します。
3.  $\text{MAIN}$ または $\text{SUB}$ を押して「ON」を選択します。
4. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   
 $0$ を押します。  
空線スケルチを解除するには、上記の操作を繰り返し、手順3の項目で「OFF」を選択します。



- 2280Hzの空線信号を受信すると、スケルチが動作し空線信号音を消します。また、2280Hzの空線信号がなくなるとスケルチが解除されます。
- トーンスケルチ/DCS機能が動作中に空線スケルチ機能を“ON”にしても、トーンスケルチ/DCS機能が優先されるため、空線スケルチ機能は動作しません。
- 信号が弱いときやノイズが多いときなどは、動作しないことがあります。
- 2280Hz以外の空線信号には対応していません。

# ハイパーメモリーを使う(1)

ハイパーメモリーとは、周波数だけでなく、現在設定してある運用状態をそのままメモリーすることができ、ワンタッチでその運用状態（たとえばデュアル受信やスキャン状態）を呼び出すことができます。なお、ハイパーメモリーは通常のメモリーチャンネルとは異なる専用メモリーのチャンネル（10チャンネル）です。

ハイパーメモリーを呼び出し後、周波数や各種の設定などを一時的に変えることができますが、変更した状態は保存されません。再度、同じハイパーメモリーを呼び出すと変更する前の状態が呼び出されます。変更した状態を保存したい場合は、ハイパーメモリーに上書きしてください。

## ■ ハイパーメモリーに運用状態を書き込む

登録したいハイパーメモリーのチャンネル番号をテンキーで指定するだけで、現在の運用状態を書き込むことができます。

**登録したいハイパーメモリーのチャンネル番号をテンキーで指定します。**

＜例＞ ハイパーメモリー“1”に登録するときは  を2秒以上押します。

- セットモードの『基本設定:14 ハイパー書き込み』により、ハイパーメモリーに書き込み後、誤って上書きしないように登録を禁止することができます。
- 以下の運用状態のときはハイパーメモリーに書き込むことができません。
  - ・セットモード選択中
  - ・スマートサーチがサーチ中
  - ・アーツが動作中
  - ・スペアナがスキャン中
  - ・チャンネルカウンターがスキャン中
  - ・盗聴器発見機能サーチがサーチ中

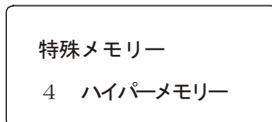
## ハイパーメモリーを使う(2)

### ■ ハイパーメモリーを呼び出す

1. FUNCスイッチを押しながら<sup>SPCL</sup>(9 WX)を押します。

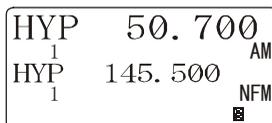
特殊メモリーに切り替わります。

2. DIALツマミをまわして「4 ハイパーメモリー」を選択します。



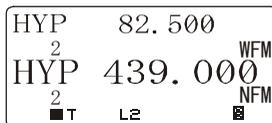
3. FUNCスイッチを押しながら<sup>SPCL</sup>(9 WX)を押して確定します。

メモリー番号が一番小さいハイパーメモリーが呼び出されます。



4. 表示されている以外のハイパーメモリーを呼び出すときは、ハイパーメモリーチャンネルの番号をテンキーで指定します。

<<例>> <sup>DW</sup>(2 ABC)を押すと、ハイパーメモリー“2”に書き込んだ運用状態が呼び出されます。



5. 周波数や各種の設定などを一時的に変えることができます。

6. ハイパーメモリーを解除するときは、上記の操作(手順1.~手順3.)を繰り返し、手順2.の項目で「1 OFF」を選択します。

○ 周波数や各種の設定などを一時的に変えることができますが、変更した状態は保存されません。変更した状態を保存したい場合はハイパーメモリーに上書きしてください。

# スキャンを使う

VX-7は、" VFOスキャン ", " プログラマブルメモリスキャン ", " メモリスキャン " および " 特定のメモリーチャンネルだけをスキャン " の4つのスキャンを行うことができます。

## VFOスキャン

1. VFOモードにし、スキャンするバンドを選択します。

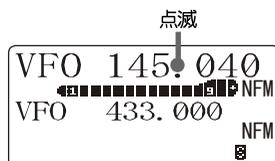
2. FUNCスイッチを押しながら  を押します。

スキャンが開始されます。

スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。

スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイが点灯します。

5秒経過すると、スキャンが再開されます。



3. スキャンの方向を変える場合はDIALツマミをまわします。

右にまわすと周波数が高くなる方向に、左にまわすと低くなる方向に変わります。

4. スキャンを中止するときは、PTTスイッチまたは  を押します。

- MAIN/バンドとSUB/バンドを同時にスキャンすることができます。
- スキャン中に、FUNCスイッチを押しながら  を押し、DIALツマミをまわすと、スケルチを調節することができます。
- 周波数帯のエッジに達したときには「ピピッ」とピーブ音が鳴って隣りの周波数帯に移り、その周波数帯をスキャンします。
- セットモードの『スキャン関連 :4 スキャンランプ』により、スキャンストップ時の照明点灯をオフにすることができます。
- セットモードの『特殊設定 :10 VFOモード』により、現在のバンド内のみをスキャンします。

### スキャンストップ時の受信方法を設定するには

スキャンが停止したときの動作を設定できます。設定できる動作は次の5種類です。

- 3秒間受信し、スキャンを再開する（選択時の表示は“3SEC”）。
- 5秒間受信し、スキャンを再開する（選択時の表示は“5SEC”）。
- 10秒間受信し、スキャンを再開する（選択時の表示は“10SEC”）。
- 信号がなくなるまで受信し、信号がなくなってから2秒後にスキャンを再開する（選択時の表示は“BUSY”）。
- スキャンを中止し、その周波数を受信する（選択時の表示は“HOLD”）。

1. FUNCスイッチを押しながら  を押します。

2. DIALツマミをまわして『スキャン関連 :3 スキャンストップ』を選択します。

3.  または  を押して、使用する受信方法を“3~10SEC”、“BUSY”、“HOLD”のいずれから選択します。

4. FUNCスイッチを押しながら  を押して完了します（もとの周波数表示に戻ります）。

- この設定は、VFOスキャン、プログラマブルメモリスキャン、メモリスキャン、デュアルレシーブに共通です。



# メモリスキャン

メモリーされている周波数をメモリーチャンネル番号順にスキャンします。

## 1. メモリーモードにし、メモリーチャンネルを呼び出します。

## 2. FUNCスイッチを押しながら<sup>SCAN</sup>1を押します。

スキャンが開始されます。

スキャン中に信号を受信するとスキャンは5秒間停止し、その周波数を受信します。

スキャンが停止しているときには、デシマルポイントが点滅し、ディスプレイが点灯します。

5秒経過すると、スキャンが再開されます。



## 3. スキャンを中止するときは、PTTスイッチまたは<sup>WRITE MT</sup>V/Mを押します。

- スキャン中にDIALツマミをまわすと、スキャンの方向を変更できます。
- スキャン中に、FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup>0を押し、DIALツマミをまわすと、スケルチを調節することができます。
- スキャンが停止中に、FUNCスイッチを押しながら<sup>WRITE MT</sup>V/Mを押すと、一時的にそのチャンネルをスキャンしないようにすることができます。
- スキャンするメモリーチャンネルはメモリー番号1～450で、ワンタッチメモリーOTM0～OTM9とプログラムブルメモリーチャンネル(L1/U1～L20/U20)はスキャンしません。
- メモリーグループを呼び出しているときは、メモリーグループ内のメモリーチャンネルのみをスキャンします。
- メモリーグループを選択しているとき(25ページ“メモリーグループ内のメモリーチャンネルを呼び出す”の手順5)にスキャン操作を行うと、各メモリーグループの先頭に登録されているメモリーチャンネルのみを順番にスキャンします。
- スキャン中にメモリー1を通過したときには「ピピッ」とビーブ音が鳴り、スキャンが繰り返されます。このビーブ音をセットモードの『スキャン関連:2 エッジビーブ』により、オフにすることができます。
- セットモードの『スキャン関連:4 スキャンランプ』により、スキャンストップ時の照明点灯をオフにすることができます。

## スキャンストップ時の受信方法を設定するには

スキャンが停止したときの動作を設定できます。設定できる動作は次の5種類です。

- 3秒間受信し、スキャンを再開する(選択時の表示は“3SEC”)。
- 5秒間受信し、スキャンを再開する(選択時の表示は“5SEC”)。
- 10秒間受信し、スキャンを再開する(選択時の表示は“10SEC”)。
- 信号がなくなるまで受信し、信号がなくなってから2秒後にスキャンを再開する(選択時の表示は“BUSY”)。
- スキャンを中止し、その周波数を受信する(選択時の表示は“HOLD”)。

### 1. FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup>0を押します。

### 2. DIALツマミをまわして『スキャン関連:3 スキャンストップ』を選択します。

### 3. (MAIN)または(SUB)を押して、使用する受信方法を“3～10SEC”、“BUSY”、“HOLD”のいずれから選択します。

### 4. FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup>0を押して完了します(もとの周波数表示に戻ります)。

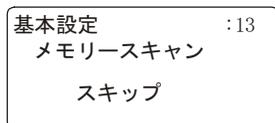
- この設定は、VFOスキャン、プログラムブルメモリスキャン、メモリスキャン、デュアルレシーブに共通です。

## 特定のメモリーチャンネルのみをスキヤンする

メモリースキヤン時にスキヤンする必要のないメモリーチャンネルにはスキップメモリーを、特定のメモリーチャンネルのみをスキヤンしたいときには特定メモリーを設定しておく、特定のメモリーチャンネルのみをスキヤンできます。

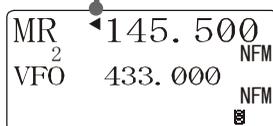
### ■スキップメモリー／特定メモリーを設定するには

1. メモリーモードにし、スキップメモリーまたは特定メモリーを設定するメモリーチャンネルを呼び出します。
2. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
3. DIALツマミをまわして『基本設定 :13メモリースキヤン』を選択します。
4. **MAIN** または **SUB** を押して「スキップ」または「特定」を選択します。

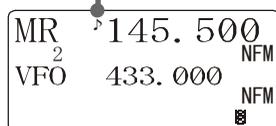


5. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

スキップメモリーの時に表示



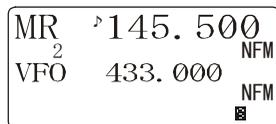
特定メモリーの時に表示



スキップメモリー／特定メモリーを解除するには、上記の操作を繰り返し、手順4.の項目で「OFF」を選択します。

### ■特定メモリーを設定したメモリーチャンネルのみをスキヤンするには

1. メモリーモードにし、“特定メモリー”が設定されているメモリーチャンネルを呼び出します。



2. FUNCスイッチを押しながら **SCAN 1** を押します。

特定メモリーが設定されているメモリーチャンネルのみをメモリースキヤンします。

# 各種の便利な機能

## ストロボの設定を変える (1)

VX-7がMAIN/バンドまたはSUB/バンドのどちらのバンドを受信しているか、あるいは同時受信しているかなどをストロボの色で判断することができます。また、エマージェンシーモードのときは、白色ストロボが間欠的に点灯し緊急を知らせます。

なお、MAIN/バンドやSUB/バンドの送受信状態を知らせる「状態設定色」を変えたり、すでに設定されている色の中で好みの色がないときは色成分を調節して、好みの色に変えることができます。

### ■状態設定色を変えたいとき

1. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します (各種の設定を行なえるセットモードになります)。
2. DIALツマミをまわして『表示設定 :7 LEDカラー2』を選択します。
3. **BND DN** **BAND** を押します。
4. **MAIN** または **SUB** を押して変更したい項目を選択します。

```
表示設定          : 7
LED カラー 2
Main BUSY        1
```

- ・ Main BUSY: MAIN/バンドで受信したときに点灯する色を変更することができます (工場出荷時: LED1(緑))。
- ・ Sub BUSY: SUB/バンドで受信したときに点灯する色を変更することができます (工場出荷時: LED2(青))。
- ・ DUAL BUSY: デュアルバンドで同時に信号を受信したときに点灯する色を変更することができます (工場出荷時: LED3(橙))。
- ・ Main TX: MAIN/バンドで送信したときに点灯する色を変更することができます (工場出荷時: LED4(赤))。
- ・ Sub TX: SUB/バンドで送信したときに点灯する色を変更することができます (工場出荷時: LED5(紫))。
- ・ CHG Complete: 充電が終了したときに点灯する色を変更することができます (工場出荷時: LED2(青))。

5. DIALツマミを右に1クリックまわします。
6. **MAIN** または **SUB** を押して、ストロボを見ながら色を指定します。
7. **BND DN** **BAND** を押して確定します。
8. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します。

```
表示設定          : 7
LED カラー 2
Main BUSY         6
```

○ セットモードの『表示設定 :1 BUSY LED』の設定により、受信時に点灯するストロボの動作をオン/オフすることができます。

○ 工場出荷時のストロボ状態設定色は右図のように設定されています。

LED番号	LED色	LED色登録モード
LED1	緑	Main BUSY
LED2	青	Sub BUSY CHG Complete
LED3	橙	DUAL BUSY
LED4	赤	Main TX
LED5	紫	Sub TX
LED6	水色	(未設定)
LED7	黄緑	(未設定)
LED8	乳白	(未設定)
LED9	青紫	(未設定)
LED10	白色	(未設定)

## ストロボの設定を変える (2)

### ■色を変えたいとき

10種類の色を赤 (R) , 緑 (G) , 青 (B) の三原色を調節して、好みの色に変更することができます。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET** (0) を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. DIALツマミをまわして『表示設定 :6 LEDカラー1』を選択します。

3. **BND DN** (BAND) を押します。

4. **MAIN** または **SUB** を押して変更したい色を選択します。

選択項目に合わせてストロボが点灯します。

5. DIALツマミを右に1クリックまわします。

6. **MAIN** または **SUB** を押してストロボを見ながら、赤色 (R) の成分を調節します (256段階)。

FUNCスイッチを押しながら **MAIN** または **SUB** を押すと、1回押すごとに10段階変化します。

表示設定	: 6
LED カラー 1	
LED <u>1</u> R G B	0

LED番号	LED色	三原色* (256段階設定可)		
		赤(R)	緑(G)	青(B)
LED1	緑	0	45	0
LED2	青	0	0	48
LED3	橙	57	46	0
LED4	赤	51	0	0
LED5	紫	50	0	44
LED6	水色	0	42	44
LED7	黄緑	47	44	0
LED8	乳白	50	43	44
LED9	青紫	50	0	49
LED10	白色	255	255	255

※：工場出荷時のデータです。

7. 手順5. 6.を繰り返し緑色 (G) と青色 (B) の成分を調節します。

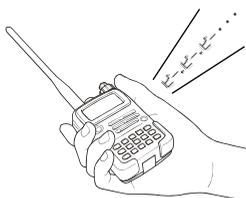
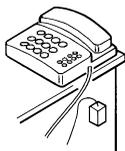
表示設定	: 6
LED カラー 1	
LED 2 <u>R</u> G B	0

8. **BND DN** (BAND) を押して確定します。

9. FUNCスイッチを押しながら **SET** (0) を押します。

# 盗聴器を探し出す (盗聴器発見機能サーチ)

「盗聴器が仕掛けられているかも知れない」と困っている人がいるような場合、手助けをする機能です。盗聴で使用されていると思われる電波を自動的に探し出し、ピーブ音の変化(4段階)でおおよその設置場所を発見することができます。



1. あらかじめ、MAINバンドのモノバンド受信にします。
2. VFOモードにします (メモリーモードの時は **WRITE MT (VM)** を押す)。
3. FUNCスイッチを押しながら **TAP (8 TU)** を押します。

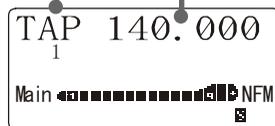
盗聴周波数を表示しながらサーチします。

盗聴波と思われる電波を発見したとき・・・一番強い信号を専用のメモリー(盗聴器発見機能サーチメモリー:最大20チャンネル)に書き込み、その周波数を表示してサーチが止まります。

サーチが終了後、DIALツマミをまわすと盗聴器発見機能サーチメモリーに書き込まれた周波数を信号の強かった順に呼び出すことができます。

盗聴波と思われる電波がなかったとき・・・VFOモードに戻ります。プライバシーを侵害する盗聴器は無いとされます。

盗聴器発見機能サーチのメモリー番号  
サーチした周波数を表示



◎ 盗聴波と思われる電波を探し出すことができたなら、次は盗聴器が設置されている場所を探し出します。

4. **WRITE MT (VM)** を押します。

ディスプレイに「🔍」が表示され、アッテネーター (ATT:約20dB) とピーブの機能が自動的に「オン」になります。

5. ピープの音が「ピー、ピー、ピー・・・」と高い音で鳴る場所を探し出します。

「プーッ、プーッ、プーッ・・・」と低い音で鳴る場合は、盗聴器が設置されている場所から離れていることを示し、さらに離れると、「ブッ、ブッ、ブッ・・・」と短い音に変わります。

6. 盗聴器に近づくと、ピーブのピー音が長く鳴りますので、**WRITE MT (VM)** を押してアッテネーター (約50dB) を動作させます。

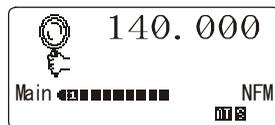
さらにVX-7が盗聴器に近づくと、VX-7のスピーカーがハウリングをおこし、盗聴器が設置されている場所を発見することができます。

7. **WRITE MT (VM)** を押すと盗聴器発見機能は解除されます (盗聴周波数の表示に戻ります)。

8. 再度、FUNCスイッチを押しながら **TAP (8 TU)** を押すと盗聴器発見機能サーチは中止します。

アッテネーターはオフになり通常の感度に戻ります。

盗聴器発見機能サーチメモリーに書き込まれた周波数は消去されます。



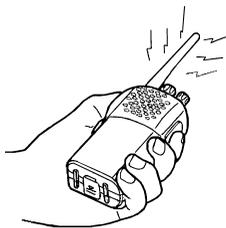
この機能は、盗聴器の発見を補助するための機能で、全ての盗聴器を探し出せるわけではありません。また本機能を使用して生じたトラブルについては、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

## 周波数を調べる (チャンネルカウンター)

おおよその周波数しかわからないトランシーバー (たとえば特定小電力のようなチャンネル表示のトランシーバーなど) の周波数を知りたいときに、本機を送信しているトランシーバーに近づけて周波数を測定することができます。

設定した周波数から“ $\pm 5\text{MHz}$ ”の範囲内を高速でサーチし、最も強い信号を探し出して周波数を表示し、専用のチャンネルカウンタメモリへ書き込みます。

このチャンネルカウンターはあくまでも簡易的なものであり、測定した周波数は概略値です。



1. あらかじめ、MAINバンドのモノバンド受信にします。
2. VFOモードにします (メモリーモードの時は **WRITE MT** / **V/M** を押す)。
3. おおよその周波数にあわせ、送信しているトランシーバーに本機を近づけます。
4. FUNCスイッチを押しながら **CH.CNT** / **(7 RS)** を押します。

サーチ中はチャンネルカウンターのアイコンが表示されます。  
約50dBのアッテネーターが自動的に入り、至近距離で発射している電波のみ受信します。

サーチ終了後、アイコンと周波数を表示します。  
信号を探し出せなかったときは、VFOモードに戻ります。



5. チャンネルカウンターを中止するときは、FUNCスイッチを押しながら **CH.CNT** / **(7 RS)** を押します。  
チャンネルカウンターメモリに書き込まれた周波数は消去されます。

- チャンネルカウンターメモリに書き込まれた周波数は、通常のメモリーチャンネルに書き込むことができます。
- トランシーバーの送信出力が大きい場合は、VX-7が不要な電波で誤動作しないようトランシーバーとの距離を調節してください。

### サーチ幅を変更する

1. FUNCスイッチを押しながら **SET** / **(0)** を押します (各種の設定を行なえるセットモードになります)。
2. DIALツマミをまわして『スキャン関連 :1 CHカウンター』を選択します。
3. **(MAIN)** または **(SUB)** を押して、希望のサーチ幅を選択します。  
 $\pm 5\text{MHz}$  /  $\pm 10\text{MHz}$  /  $\pm 50\text{MHz}$  /  $\pm 100\text{MHz}$  から選択することができます (工場出荷時:  $\pm 5\text{MHz}$ )。  
サーチ幅を狭くするほど、探し出す時間は短くなります。
4. FUNCスイッチを押しながら **SET** / **(0)** を押します。

# 集音機能を使う

VX-7に内蔵されているマイクで、周囲の音声などを集音し、イヤピースマイク(VC-27)で聴くことができます。

1. VX-7にイヤピースマイク(VC-27)を取り付けます。
2. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
3. DIALツマミをまわして『特殊設定 :19 集音機能』を選択します。
4.  $\text{MAIN}$ または $\text{SUB}$ を押して「ON」を選択します。  
セットモードが終了し、集音機能が動作します。
5. 集音機能を解除するには、上記の操作を繰り返し、手順4.の項目で「OFF」を選択したあと、FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。

特殊設定 集音機能	:19  ON
--------------	---------------

○ イヤピースマイクを付けないと「ピピッ」とエラー音出て、集音機能は動作しません。

# デュアルレシーブ

希望するメモリーチャンネルを5秒間に1回優先的に受信できます。

1. メモリーモードにします。
2. FUNCスイッチを押しながら $\text{WRITE MT}$   $\text{VM}$ を押します。  
書き込みモードになり、ディスプレイに“W”が表示されます。
3. 優先的に受信したいメモリーチャンネル(プライオリティメモリーチャンネル)を選択し、 $\text{BND DN}$   $\text{BAND}$ を押します。
4. 常時受信する周波数を選択します。  
VFOモード、メモリーモード、またはホームチャンネルの周波数を選択します。
5. FUNCスイッチを押しながら $\text{DW}$   $\text{2ABC}$ を押します。  
デュアルレシーブが始まり、“DW”が表示されます。
6. デュアルレシーブを終了するときは $\text{WRITE MT}$   $\text{VM}$ を押します。

MRP	145.500	NFM
$\text{VFO}^2$	433.000	NFM
DW		$\text{DW}$

- MAIN/バンドとSUB/バンドを同時にデュアルレシーブすることができます。
- 工場出荷時には、メモリーチャンネル1(MR1)にプライオリティメモリーチャンネルが設定されています。
- MAIN/バンドで設定したプライオリティメモリーチャンネルには“MR”に“P”が追加表示され、SUB/バンドで設定したプライオリティメモリーチャンネルには“MR”に“p”周波数帯やモードの組み合わせに制限はありません。たとえば、AMラジオ放送を聞きながらレピーターを定期的に受信することができます。
- プライオリティメモリーチャンネルで信号を受信すると、その周波数を5秒間受信して再びデュアルレシーブが始まります。プライオリティメモリーチャンネルを受信しているときに、PTTスイッチを押すとその周波数で送信することができます。(操作/バンドのみ)。
- デュアルレシーブの再開条件はセットモードの『スキャン関連 :3スキャンストップ』で変更することができます。

## スマートサーチ

モノバンド受信で、選択したバンド内をスキャンし、信号を受信した周波数を一時的なメモリー（スマートメモリー）に書き込みます。

スマートメモリーは、DIALツマミをまわすと選択できます。

1. モノバンド受信でVFOモードにし、スマートサーチを開始する周波数を選択します。
2. FUNCスイッチを押しながら<sup>S.SCH</sup>(5 JKL)を押します。

スマートサーチモードになります。

3. <sup>WRITE MT</sup>(VM)を押します。

スマートサーチが開始されます。

バンド内を1回スキャンするとスマートサーチは終了します。

ただし、バンド内を1回スキャンする前にスマートメモリーが一杯になると、スマートサーチは終了します。



4. DIALツマミをまわして、スマートメモリーを呼び出します。

5. スマートサーチモードを終了するとき、FUNCスイッチを押しながら<sup>S.SCH</sup>(5 JKL)を押します。

- スマートメモリーはメモリーチャンネルとは別に31個あり、スマートサーチを開始した周波数よりも高い側/低い側用に各15個ずつ使用されます(1個はスマートサーチを開始した周波数)。

ただし、バンドエッジ(各バンドの最上下限周波数:たとえば、144MHz帯では“144.000MHz”と“146.000MHz”)をスマートサーチの開始周波数とすると、スマートメモリーは片側の15個しか使用できません。

- バンド内を1回スキャンする前にスマートメモリーがいっぱいになると、スマートサーチは終了します。
- セットモード『スキャン関連:5スマートサーチ』の設定により、スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返しスキャンするように変更できます。
- スマートメモリーに書き込まれた周波数は次の時点で消去されます。
  - ・再度スマートサーチを開始したとき
  - ・電源をオフにしたとき
  - ・電池パックまたは乾電池ケースを取り外したとき
  - ・電池パックまたは乾電池ケースが取り付けられていないときに外部電源を取り外したとき
- スマートメモリーの周波数は、メモリーに書き込む操作(23ページ)を行うとメモリーチャンネルにメモリーできます。
- 再びスマートサーチを開始するとき、いったんVFOモードまたはメモリーモードに戻ってから行ってください。

### ■指定した周波数の範囲をスマートサーチするときは

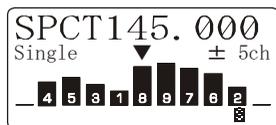
あらかじめプログラブルメモリスキャン(PMS)により、下限周波数と上限周波数を登録したのち、どちらか一方の周波数を呼び出してから、上記の手順2.以降を行うと、下限周波数と上限周波数の範囲内をスマートサーチできます。

## スペアナを表示する

モノバンド受信で、VFOモードまたはメモリーチューン時に、現在の周波数を中心「▼」に設定したチャンネルの使用状態をグラフで表示します。

### 1. あらかじめモノバンド受信にし、FUNCスイッチを押しながら $\text{SP-ANA}$ (6MNO) を押します。

現在の周波数を中心に、上下各5チャンネルの使用状態を調べ、信号強度がグラフで表示されます。



### 2. DIALツマミをまわして信号のある位置に▼をあわせませす。

### 3. FUNCスイッチを押しながら $\text{SP-ANA}$ (6MNO) を押します。

スペアナが解除され、中心周波数の信号を受信することができます。

- (MAIN) または (SUB) を押すと ±5 チャンネル以外に、スペアナチャンネルの設定を ±8, ±14, ±29, ±60 に替えることができます。
- スペアナチャンネルが ±5 または ±8 チャンネルの時は、信号強度をグラフの中に数字で表示します。
- スペアナがスキャン中に  $\text{WRITE MT}$  (VIM) を押すと、スキャンを停止することができます。再び  $\text{WRITE MT}$  (VIM) を押すとスキャンがスタートします。
- スペアナチャンネルの間隔は、VFOの周波数ステップと同じ間隔です。
- スペアナがスキャン中にテンキー、 $\text{BND DN}$  (BAND),  $\text{EMG}$  (CH/AV) を押しても動作しません。
- 工場出荷時の設定は、一度スキャンを行なった後に、チャンネルの使用状況をグラフで表示し、中心周波数に信号があった場合は、その音声を出します。DIALツマミをまわすと再度スキャンを開始します。
- セットモードの『スキャン関連 :6 スペアナモード1』により、“連続”を選択すると、繰り返しスキャンをして、最新の使用状態を表示するように変更できます。なお、繰り返しスキャンを行っているときに、 $\text{WRITE MT}$  (VIM) を押すとスキャンを停止することができます。スキャンが停止しているときにFUNCスイッチを押しながら  $\text{SP-ANA}$  (6MNO) を押すとスペアナを解除することができます。
- セットモードの『スキャン関連 :7 スペアナモード2』により、スペアナがハムバンド内をスキャンしているときに限り、中心周波数 (▼) の音声出力を出すことができます。

## 受信信号と変調信号の波形を表示する

モノバンドで運用中に、受信信号の音声波形と、送信時の変調波形を表示することができます。

### 1. あらかじめモノバンド受信にし、FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$ (0) を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

### 2. DIALツマミをまわして『測定関連 :1 センサー表示』を選択します。

### 3. (MAIN) または (SUB) を押して「WAVEモニター」を選択します。



### 4. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$ (0) を押します。

信号を受信しているときはその信号の波形が表示され、送信しているときは変調波形を表示します。

波形の表示を消したいときは、上記の操作を繰り返し、手順

3. の項目で「OFF」を選択します。



- セットモードの『測定関連 :2 ウェーブモニター』により、“受信信号の波形だけを表示する (RX Signal)” 、“送信している変調信号の波形だけを表示する (TX Modulation)” を選択することができます。

## 温度を表示する

モノバンド受信時に、VX-7内部の温度を表示します。

1. あらかじめモノバンド受信にし、FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『測定関連 :1センサー表示』を選択します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して「温度表示」を選択します。

測定関連	: 1
センサー 表示	
温度表示	

4. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

ディスプレイに温度が表示されます。

温度の表示を消したいときは、上記の操作を繰り返し、手順

3. の項目で「OFF」を選択します。

VFO	145.000	
Main	温度	25.0°C
		NFM

- VX-7内部の温度を把握する機能です。
- 温度上昇のない状況（待ち受け受信時など）では、外気温の目安とすることができます。
- セットモードの『測定関連 :3 温度表示単位』により、温度表示の単位を変更することができます。

## 天気予測を表示する（オプション）

オプションの気圧センサーユニット（SU-1）を取り付けている場合には、天気を予測して表示します。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『測定関連 :1センサー表示』を選択します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して「天気予測」を選択します。

測定関連	: 1
センサー 表示	
天気予測	

4. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

ディスプレイに天気アイコンが表示されます。

天気予測の表示を消したいときは、上記の操作を繰り返し、手順3. の項目で「OFF」を選択します。

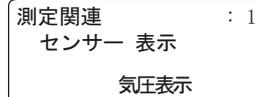
	145.000	
Main		NFM

- 気象庁から発表された天気予報と違う場合があります。あくまでも目安として使用してください。
- 高度差のない場所で使用する場合のみ正しく動作します。
- 前線の停滞する時期（梅雨、秋雨）や、台風接近時、冬の日本海側の地域などでは、天気の予測は困難です。
- 天気の予測外れなどによる二次災害や損害等については、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご承知ください。

## 気圧を表示する (オプション)

オプションの気圧センサーユニット (SU-1) を取り付けている場合には、モノバンド受信時に気圧を表示します。現在の気圧と、表示をオンにしてからの気圧の変化をグラフで表示します。

1. あらかじめモノバンド受信にし、FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup>0を押します。
2. DIALツマミをまわして『測定関連 :1センサー表示』を選択します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して「気圧表示」を選択します。



測定関連 : 1  
センサー表示  
気圧表示

4. FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup>0を押します。

ディスプレイに気圧が表示されます。

気圧の表示を消したいときは、上記の操作を繰り返し、手順

3.の項目で「OFF」を選択します。



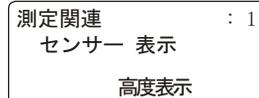
VFO 145.000  
気圧 1024hPa  
Main ----- NFM

- 正しい気圧が表示されるまで数秒間かかります。
- 約30分ごとの気圧の変化を“-”で表示します。1ドット当たり3hpaの変化量を示します。
- セットモードの『測定関連 :4気圧表示単位』により、気圧表示の単位を変更することができます。
- 周囲の温度により、実際の気圧と異なる場合があります。
- 表示された値が実際の気圧と違う場合は、セットモードの『測定関連 :5気圧オフセット』で補正してください。

## 高度を表示する (オプション)

オプションの気圧センサーユニット (SU-1) を取り付けている場合には、モノバンド受信時に高度を表示します。現在の気圧から算出された高度を表示します。

1. あらかじめモノバンド受信にし、FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup>0を押します。
2. DIALツマミをまわして『測定関連 :1センサー表示』を選択します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して「高度表示」を選択します。



測定関連 : 1  
センサー表示  
高度表示

4. FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup>0を押します。

ディスプレイに高度が表示されます。

高度の表示を消したいときは、上記の操作を繰り返し、手順

3.の項目で「OFF」を選択します。



VFO 145.000  
高度 020 m  
Main ----- NFM

- 表示される高度は気圧が標準気圧 (1013hPa) のときに高度が0mになるように表示されます。表示された値が実際の高度と違う場合は、セットモードの『測定関連 :7高度オフセット』で補正してください。
- 3桁または4桁で表示します (4000メートル位までの高度を測ることができます)。
- セットモードの『測定関連 :6高度表示単位』により、高度表示の単位を変更することができます。

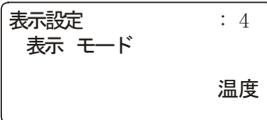
## 電源がオフのときに温度や天気予測などを表示させる

1. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. DIALツマミをまわして『表示設定 :4 表示モード』を選択します。

3. **MAIN** または **SUB** を押して電源がオフのときに表示する内容を選択します。



4. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

電源をオフにすると、手順3. で選択した項目を表示します。

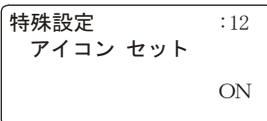


- 電源をオフにしているときに温度などを表示させると、電源がオフのときでも約20mAの電流を消費します。
- 充電中は、この機能は動作しません。
- 温度は“時計と温度”，気圧は“時計と気圧”，高度は“時計と高度”，温度+気圧は“時計/温度/気圧”，温度+高度は“時計/温度/高度”，ALLは“時計/温度/気圧/高度”，天気予測は“時計と天気”を表示するという意味です。またNONEを選択すると、電源をオフにしたときに温度などを表示しなくなります。
- 気圧、高度、天気予測を表示するためには、オプションの気圧センサーユニット(SU-1)が必要です。

## アイコンで表示する

モノバンド受信時に、周波数帯やモード、その他機能をアイコンで表示できます。

1. あらかじめモノバンド受信にし、FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『特殊設定 :12アイコンセット』を選択します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して「ON」を選択します。



4. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

ディスプレイにアイコンが表示されます。

左のアイコンは周波数帯、右のアイコンはモードを表します。



アイコンの表示を消したいときは、上記の操作を繰り返し、手順3. の項目で「OFF」を選択します。

- 各周波数帯やモードのアイコンを変更することができます（48ページ参照）。
- アイコンエディターで好みのアイコンを3種類作成することができます（61ページ参照）。
- アイコン表示がオンでも、デュアルバンド受信時には表示されません。

# 好みのアイコンを表示する

モノバンド受信時に、周波数帯やモードを好みのアイコンで表示することができます。

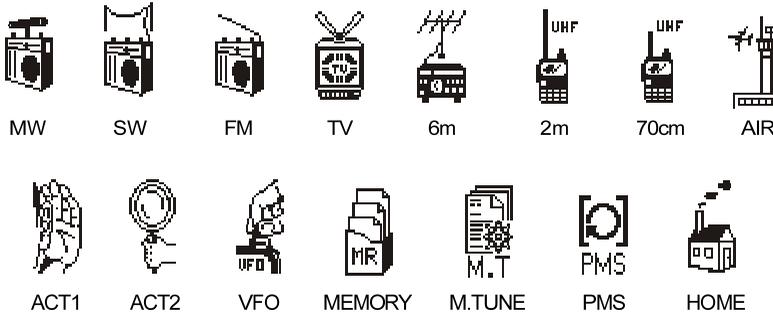
1. あらかじめモノバンド受信にし、FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup>0を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『特殊設定 :14アイコン設定』を選択し、<sup>BND DN</sup>BANDを押します。
3. MAIN または SUB を押してアイコンを換えたい表示モードを選択します。
4. DIALツマミを右に1クリックまわします。
5. MAIN または SUB を押して希望のアイコンを選択します。  
下表を参考に26種類のアイコンの中から希望のアイコンを選びます。
6. <sup>BND DN</sup>BANDを押して確定します。
7. FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup>0を押します。  
周波数帯やモードに希望のアイコンが表示されます。



- アイコン一覧表以外のアイコンをアイコンエディターで3種類作成することができます（61ページ参照）。
- アイコン表示がオンでも、デュアル受信時には表示されません。

## アイコン一覧表

下記のアイコンが周波数帯、モード、その他の機能にあらかじめセットされています。



上記以外に、下記のアイコンを選択することができます。



## 電池の電圧を表示する

モノバンド受信時に、使っている電池の種類と電圧を表示します。

1. あらかじめモノバンド受信にし、FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. DIALツマミをまわして『測定関連 :1 センサー表示』を選択します。

3.  $\text{MAIN}$  または  $\text{SUB}$  を押して「電圧表示」を選択します。

測定関連	: 1
センサー表示	
電圧表示	

4. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。

ディスプレイに電圧が表示されます。

電圧の表示を消したいときは、上記の操作を繰り返し、手順

3. の項目で「OFF」を選択します。

VFO	145.000
Main	Li-ION 7.4V
	NFM
	$\square$

○ 電池パックを使っているときには“Li-ION”，乾電池を使っているときには“Drycell”，外部DC電源を使っているときには“EXT DC”が表示されます。

## 音声で自動送信する (VOX)

オプションのVOXイヤピースマイク“VC-27”を使用すると、PTTスイッチを押さなくても、音声により送信/受信を自動的に切り替えることができます。話すると送信、話すのを止めると受信に戻ります。

1. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. DIALツマミをまわして『特殊設定 :7 VOX機能』を選択します。

3.  $\text{MAIN}$  または  $\text{SUB}$  を押して「HIGH」または「LOW」を選択します。

通常は“HIGH”で使用しますが、周囲の雑音で送信になってしまう場合は、“LOW”を選択してください。

4. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。

VOX機能をオフにしたいときは、上記の操作を繰り返し、手順3. の項目で「OFF」を選択します。

特殊設定	: 7
VOX 機能	
HIGH	

VFO	145.000
	NFM
VFO	433.000
	NFM
	$\square$



○ VOX機能が動作しているときは、“ $\square$ ”が表示されます。

○ VOXディレイ時間（話し終わってから受信状態に戻るまでの時間）をセットモードの『特殊設定 :8 VOX時間』で変更することができます。

○ スケルチが開いているときは送信できません。

## 自動的に電源をオフする (APO)

指定した時間何の操作も行わずにいると、電源スイッチの切り忘れと判断して自動的に電源をオフにします (オートパワーオフ機能)。

### 1. FUNCスイッチを押しながら を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

### 2. DIALツマミをまわして『Save関連 :1 APO設定』を選択します。

### 3. または を押して時間を選択します。

OFF/30分/1時間/3時間/5時間/8時間から選択することができます。

SAVE 関連	: 1
APO 設定	
	30分

### 4. FUNCスイッチを押しながら を押します。

オートパワーオフ機能が設定され、もとの表示に戻ります。

設定した時間何の操作もしないと、自動的に電源がオフになります。

VFO 145.000	NFM
VFO 433.000	NFM
	



- オートパワーオフ機能がオンのときには、“”が表示されます。
- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- 設定した時間は、手順**3.**の操作で“OFF”を選択するまで、そのまま保持されます (次に電源をオンにしたときも、設定した時間何の操作もしないと、自動的に電源がオフになります)。

## 連続送信時間を制限する (TOT)

指定した時間連続送信を行なうと、自動的に受信状態に戻るようにすることができます。誤動作による不要電波の送出やバッテリーの消耗を防ぐことができます (タイムアウトタイマー機能)。

### 1. FUNCスイッチを押しながら を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

### 2. DIALツマミをまわして『Save関連 :4 TX時間制限』を選択します。

### 3. または を押して時間を選択します。

OFF/1分/2.5分/5分/10分から選択することができます。

SAVE 関連	: 4
TX 時間制限	
	10分

### 4. FUNCスイッチを押しながら を押します。

タイムアウトタイマー機能が設定され、もとの表示に戻ります。

- タイムアウトタイマー機能がオンのときには、設定した時間に近づくと「ピポ、ピポ、ピポ」とピープ音が鳴り、約10秒後に受信状態に戻ります。
- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- 設定した時間は、手順**3.**の操作で“OFF”を選択するまで、そのまま保持されます。

## 指定した時刻に電源をオン/オフする

### ■指定した時刻で電源をオフにするには

指定した時刻になると、自動的に電源をオフにします（オフタイマー機能）。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します。各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『Save関連 :6 オフタイマー』を選択し、**BND DN** **BAND** を押します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して「時」を選択します。
4. DIALツマミを右に1クリックまわします。
5. **MAIN** または **SUB** を押して「分」を選択します。
6. DIALツマミを右に1クリックまわします。
7. **MAIN** または **SUB** を押して「ON」を選択します。
8. **BND DN** **BAND** を押して確定します。
9. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します。

オフタイマー機能が設定され、もとの表示に戻ります。

設定した時刻になると、自動的に電源がオフになります。

SAVE 関連	: 6
オフ タイマー	
	<u>1</u> :00 OFF

SAVE 関連	: 6
オフ タイマー	
	1:30 <u>ON</u>

○ 設定できる時刻は1分間隔です。

○ 設定した時刻は、手順7.の操作で"OFF"を選択するまで、そのまま保持されます（次に電源をオンにしたときも、設定した時刻になると、自動的に電源がオフになります）。

### ■指定した時刻で電源をオンにするには

指定した時刻になると、自動的に電源をオンにします（オンタイマー機能）。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します。各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『Save関連 :5 オンタイマー』を選択し、**BND DN** **BAND** を押します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して「時」を選択します。
4. DIALツマミを右に1クリックまわします。
5. **MAIN** または **SUB** を押して「分」を選択します。
6. DIALツマミを右に1クリックまわします。
7. **MAIN** または **SUB** を押して「ON」を選択します。
8. **BND DN** **BAND** を押して確定します。
9. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します。

オンタイマー機能が設定され、もとの表示に戻ります。

10. **Ⓞ** を押し続け、電源をオフにします。

設定した時刻になると、自動的に電源がオンになります。

SAVE 関連	: 5
オン タイマー	
	<u>2</u> :00 OFF

SAVE 関連	: 5
オン タイマー	
	2:30 <u>ON</u>

○ 設定できる時刻は1分間隔です。

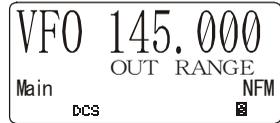
○ 設定した時刻は、手順7.の操作で"OFF"を選択するまで、そのまま保持されます（次に電源をオフにしたときも、設定した時刻になると、自動的に電源がオンになります）。

# ARTS機能を使う

ARTS機能とは、相手局が交信可能範囲内にいるかどうかを調べることができる機能です。モノバンド受信時に動作します。

1. あらかじめ、モノバンド受信にします。
2. FUNCスイッチを押しながら<sup>ARTS</sup><sub>4 GHz</sub>を押します。

相手局が交信可能な範囲内にいるときは“IN RANGE”が表示されます。



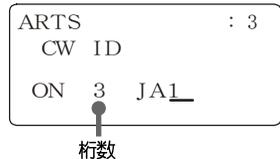
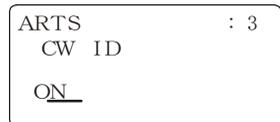
FUNCスイッチを押しながら<sup>ARTS</sup><sub>4 GHz</sub>を押すと、ARTS機能を使う直前の状態に戻ります。

- 相手局が交信範囲の外にいるときは、“OUT RANGE”が表示されます。
- 同じDCSコードをセットしてください。ARTS機能に使用するDCSコードは、セットモードの『TSQ/DCS/DTMF :3 DCSコード設定』で変更できます。
- ARTS機能をオンにすると、周波数を変更できなくなります。
- ARTS機能は、ARTS機能のあるトランシーバーどうしで利用できます。
- ARTS機能がオンの状態のままPTTスイッチを押すことにより、相手局と交信できます。
- セットモードの『ARTS :1 ARTSビープ』の設定により、相手局からのDCSコードの受信を知らせるビープ音の鳴るタイミングを変更できます。
- セットモードの『ARTS :2 ARTS間隔』の設定により、チェックの間隔（相手局が交信可能範囲内にいるかどうかを調べる間隔）を変更できます。工場出荷時では、チェック間隔は25秒に設定されています。

## ■ARTS使用時に自局のIDを送出するには

CW IDを設定すると、ARTS機能がオンのときに自分のコールサインを自動的に、約10分間に1回CWで送出します。

1. FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup><sub>0</sub>を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『ARTS :3 CW ID』を選択します。
3. <sup>BND DN</sup><sub>(BAND)</sub>を押します。
4. (MAIN) または (SUB) を押して「ON」を選択します。
5. DIALツマミを右に1クリックまわします。
6. テンキーでコールサインを入力します。
7. DIALツマミを右に1クリックまわしカーソルを移動します。
8. 手順6, 7.を繰り返しコールサインを入力します (最大16文字)。
9. <sup>BND DN</sup><sub>(BAND)</sub>を押して確定します。
10. FUNCスイッチを押しながら<sup>SET</sup><sub>0</sub>を押します。  
CW IDが設定され、もとの表示に戻ります。



- CW IDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2の電波型式の免許が必要です。
- コールサインを入力中にFUNCスイッチを押すと、記号を入力することができます。
- コールサインを入力中に<sup>EMG</sup><sub>(HW/M)</sub>を押すと、カーソルの文字とその文字以降を削除することができます。
- コールサインを入力後、手順1.~手順3.を行いFUNCスイッチを押すと、設定したCW IDをCW音で確認することができます。
- CW IDを送出するときには、設定したCW IDの前後に“DE”と“K”が自動的に追加されます (DE “CW ID (コールサイン)” K と送出されます)。
- CW ID送出時にはDCSコードを含みませんので、当人同士はCW IDを聞くことはできません。

## DTMF機能を使う

フォーンパッチから公衆回線に接続するときに使う電話番号などを、最大16桁のDTMFコードで登録することができます（9チャンネル分）。

### ■DTMFコードを登録するには

1. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『TSQ/DCS/DTMF :8 DTMF設定』を選択します。
3. **BND DN** **BAND** を押します。
4. **MAIN** または **SUB** を押してチャンネルを選択します。
5. DIALツマミを右に1クリックまわします。
6. テンキーでDTMFコードを入力します。
7. DIALツマミをまわしてカーソルをチャンネル番号にあわせ、**BND DN** **BAND** を押して確定します。
8. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します。  
DTMFコードが設定され、もとの表示に戻ります。

TSQ/DCS/DTMF : 8  
DTMF 設定  
CH 1

TSQ/DCS/DTMF : 8  
DTMF 設定  
CH2- 5 0123  
桁数

- 手順6でDTMFコードを修正したいときは、DIALツマミをまわして修正したい桁にあわせ、テンキーで入力します。
- 手順6でDTMFコードを登録するとき、**MAIN** を押すとポーズデータ（-）を入力できます。さらに**MAIN** を押すとポーズデータ以降のDTMFコードをクリアできます。
- 手順6でDTMFコードを登録するとき、「\*」は“E”、「#」は“F”とディスプレイに表示されます。

### ■登録したDTMFコードを送出するには

1. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『TSQ/DCS/DTMF :7 DTMFダイアラー』を選択します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して「ON」を選択します。  
登録したDTMFコードが送出できる状態になります。
4. FUNCスイッチを押しながら **SET** **0** を押します。  
もとの表示に戻り、“**空**”が表示されます。
5. PTTスイッチを押しながら、送出したいDTMFコードが登録されているDTMFメモリーの番号（1~9）をテンキーで指定します。  
登録したDTMFコードが送出されます。また、スピーカーから送出するDTMF音が聞こえます。

TSQ/DCS/DTMF : 7  
DTMF ダイアラー  
ON

VFO 145.000 NFM  
VFO 433.000 NFM



- DTMFコードが送出されているときには、PTTスイッチを離しても送信状態を保ちます。

# 特定の相手局との交信

## トーンスケルチまたはDCSを使う (1)

トーンスケルチを使うと、こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

また、デジタルコードスケルチ(DCS)を使うと、こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

これらの機能を使うと、長時間にわたって特定の局からの呼び出しを待ち受けているときに、他局の交信にわずらわされることがなくなります。

### 1. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

### 2. DIALツマミをまわして『TSQ/DCS/DTMF :1 スケルチ タイプ』を選択します。

### 3. **MAIN** または **SUB** を押してスケルチの種類を選択します。

### 4. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

スケルチの種類が設定され、もとの表示に戻ります。

TSQ/DCS/DTMF : 1  
スケルチ タイプ  
TONE SQL

- トーンスケルチがオンのときには“TSQ”が表示されます。また、DCSがオンのときにはDCSが表示されます。
- トーンスケルチやDCSはスキャン時やスマートサーチにも有効です。トーンスケルチまたはDCSがオンの状態でスキャンすると、一致する周波数のトーンまたはDCSコードが含まれている信号を受信したときのみスキャンが停止します。
- **SQL MON** を押すと、トーンまたはDCSコードが含まれていない（または異なる）信号を聞くことができます。
- セットモードの『TSQ/DCS/DTMF :4 DCS位相』により、位相を反転したDCSコードを受信することができます。
- セットモードの『TSQ/DCS/DTMF :6 スプリットトーン』により、送受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。

## トーンの周波数を設定するときは

トーンの周波数は、67.0Hz～254.1Hzの50種類から選択できます。

### 1. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

### 2. DIALツマミをまわして『TSQ/DCS/DTMF :2 トーン設定』を選択します。

### 3. **BAND** を押して確定します。

### 4. **MAIN** または **SUB** を押して希望のトーン周波数を選択します。

### 5. **BAND** を押し確定します。

### 6. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

トーン周波数が設定され、もとの表示に戻ります。

TSQ/DCS/DTMF : 2  
トーン 設定  
88.5 Hz

- 上記の操作で設定したトーンの周波数は、トーンの送受のみを行う場合にも有効です。
- 工場出荷時の状態では88.5Hzに設定されています。

## トーンスケルチまたはDCSを使う(2)

### ■DCSコードを設定するときは

DCSコードは、023～754の104種類から選択できます。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『TSQ/DCS/DTMF :3 DCSコード設定』を選択します。
3. **BND DN BAND** を押して確定します。
4. **MAIN** または **SUB** を押して希望のDCSコードを選択します。
5. **BND DN BAND** を押して確定します。
6. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。  
DCSコードが設定され、もとの表示に戻ります。

TSQ/DCS/DTMF : 3  
 DCS コード 設定  
023

○ 工場出荷時の状態では "023" に設定されています。

### ■相手局が使用しているトーンの周波数やDCSコードがわからないときには 下記の操作により、トーンの周波数やDCSコードを探して表示することができます。

1. トーン周波数を知りたいときは、左記の「トーンの周波数を設定するときは」の手順 1. から手順4. を行ない、DCSコードを知りたいときは、上記の「DCSコードを設定するときは」の手順 1. から手順4. を行ないます。
2. 相手局の信号を受信している間に **SCAN 1** を2秒以上押すと、トーン周波数またはDCSコードをサーチして表示します。

## ベル機能を使う

相手局からの呼び出しをベル音と“車”の点滅で知らせることができます。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『TSQ/DCS/DTMF :5 ベル機能』を選択します。
3. **MAIN** または **SUB** を押してベル音の回数を選択します。  
OFF, 1回, 3回, 5回, 8回, 連続を選択することができます。
4. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。  
ベル音の回数が設定され、もとの表示に戻ります。

TSQ/DCS/DTMF : 5  
 ベル 機能  
1回

- ベル機能を使用するためには、トーンスケルチまたはDCSをオンにしてください。
- ベル機能はレピータでは使用できません。
- 手順3. で“OFF”以外を選択するとベル機能がオンになります。
- ベル機能がオンのときには“車”が表示されます。また、相手局からの信号を受信したときには“車”が点滅表示されます。

# 必要に応じて使う機能

## 緊急を知らせる (エマージェンシー機能)

ストロボの点滅とビーブ音で緊急を知らせることができます (エマージェンシー機能)。

**EMG (HW/RV) を0.5秒以上押します。**

白色ストロボが間欠的に点灯し、ビーブ音が鳴ります。

周波数は430MHz帯のホームチャンネルが自動的に選択されます。

このときにPTTスイッチを押すとエマージェンシー機能が一旦停止し、ホームチャンネルで送信することができます。送信が終了すると再びエマージェンシー機能が動作します。

**エマージェンシー機能を解除するときは、もう一度 EMG (HW/RV) を0.5秒以上押します。**

430MHz帯のホームチャンネルに戻ります。

○ セットモードの『特殊設定 :5 EMGモード』により、エマージェンシー機能動作時の、ストロボとビーブ音の動作を変更することができます。ビーブを鳴らしながら、ストロボが白色で点滅する以外に、下記の動作に変更することができます。

- ・ビーブ音のみ鳴らします。
- ・ストロボが7種類の色を順番に点滅します。
- ・ストロボが7種類の色を、連続的に変化させながら点灯します。
- ・ストロボが白色で点滅し、ストロボの点滅速度を替えることができます。
- ・ストロボが白色で点灯します。

## ディスプレイのコントラストを調節する

ディスプレイのコントラストを、周囲の状況に応じて変更することができます。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET (0)** を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. DIALツマミをまわして『表示設定 :2 表示濃度』を選択します。

3. **(MAIN)** または **(SUB)** を押して見やすいコントラストに調節します。

4. FUNCスイッチを押しながら **SET (0)** を押します。

表示設定	: 2
表示濃度	
	LEVEL 7

## ディスプレイやテンキーの照明輝度を調節する

ディスプレイのバックライトやテンキーの照明輝度を、周囲の状況に応じて変更することができます。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET (0)** を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. DIALツマミをまわして『表示設定 :3 デイマー設定』を選択します。

3. **(MAIN)** または **(SUB)** を押して照明の輝度を調節します。

4. FUNCスイッチを押しながら **SET (0)** を押します。

表示設定	: 3
デイマー設定	
	LEVEL 10

## 照明が自動的に点灯しないようにする

キーやDIALツマミを操作すると自動的にディスプレイとテンキーの照明が5秒間だけ点灯します。この機能を連続で点灯したり、オフにすることができます。

1. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『表示設定 :5 ランプモード』を選択します。
3.  $\text{MAIN}$ または $\text{SUB}$ を押して希望の点灯方法を選択します。  
KEY(5秒間点灯)/連続(連続点灯)/OFFを選択できます。
4. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。

表示設定	: 5
ランプモード	
	KEY

## 受信感度を下げる(ATT)

信号が強すぎるときや、近くに強力な信号があり、目的の信号が聞きにくい場合、アッテネーター(ATT)を動作させると聞きやすくなることがあります。

1. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『特殊設定 :18 ATT』を選択します。
3.  $\text{MAIN}$ または $\text{SUB}$ を押して「ON」を選択します。

特殊設定	: 18
ATT	
	ON

4. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。  
ディスプレイに“III”が表示されます。  
アッテネーターをオフにしたいときは、上記の操作を繰り返し、手順3.の項目で「OFF」を選択します。

VFO 145.000	NFM
VFO 433.000	NFM
	III



必要に応じて使う機能

○ アッテネーター(ATT)の減衰量は約20dBです。

## 操作音がならないようにする

キー操作等に発する、操作確認音(ビープ音)をオフにすることができます。

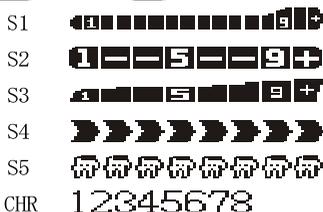
1. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『基本設定 :9 ビープ』を選択します。
3.  $\text{MAIN}$ または $\text{SUB}$ を押して「OFF」を選択します。
4. FUNCスイッチを押しながら $\text{SET}$   $\text{0}$ を押します。  
ビープ音をオンにしたいときは、上記の操作を繰り返し、手順3.の項目で「ON」を選択します。

基本設定	: 9
ビープ	
	OFF

# S/POメーターの表示を変更する

VX-7には6種類のS/POメーターがありますので、好みのメーターを選択することができます。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET** (0) を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『表示設定 :8 Sパターン設定』選択します。
3. **BND DN** (BAND) を押します。
4. **MAIN** または **SUB** を押して希望のS/POメーターを選択します。



CHR 12345678 (“CHR”は数字、英文字、記号、漢字などを表示することができます。入力方法は下記を参照してください)

5. **BND DN** (BAND) を押します。
6. FUNCスイッチを押しながら **SET** (0) を押します。

○ S/POメーターはMAIN/バンドとSUB/バンドを個別に選択することができます。

## CHRを選択したときのS/POメーターの作成方法

1. 手順4. でCHRを選びます。
2. DIALツマミを右に1クリックまわします。

表示設定	: 8
S パターン 設定	A, 0
CHR	<u>1</u> 2345678
3. 「メモリーに名前をつける」操作と同じ要領で,
  - 1) **WRITE MT** (V/M) を押して文字種を選び、
  - 2) テンキー, **MAIN** または **SUB** で希望する文字等を入力、
  - 3) DIALツマミをまわしてカーソル移動 (8文字入力可能) .
4. **BND DN** (BAND) を押して確定します。
5. FUNCスイッチを押しながら **SET** (0) を押します。

- 入力できる文字 (文字種) は, “フォント一覧表” をご覧ください (78ページ参照) .  
○ 好みの文字等がない場合は, フォントエディターで作成することができます (60ページ参照) .

## マイキー (TX POLK) の登録を変更する

マイキーで呼び出せるセットモードを変更することができます。

工場出荷時には『測定関連 :1センサー表示』のセットモードが呼び出されるように設定されています。

1. FUNCスイッチを押しながら  を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. DIAL ツマミをまわしてマイキーで呼び出したいセットモードを選択します。

3.  を0.5秒以上押します。

4. FUNCスイッチを押しながら  を押します。

マイキーに希望のセットモードが登録されます。

## マイキー (TX POLK) の動作をインターネットキーに変更する

マイキーをインターネットキーとして変更することができます。

将来インターネット等を接続する機能を動作させるキーです。

-  を押しながらか  を押して電源をオンにします。

マイキーがインターネットキーに変更されます。



- マイキーの動作に戻す場合は、 を押しながらか  を押して電源をオンにします。

# フォントエディターで文字を作る

漢字や記号などのフォント（縦11ドット、横10ドット）を、ご自分で5種類作成することができます。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET** (0) を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

2. DIALツマミをまわして『特殊設定 :11 フォントエディタ』を選択します。

3. **BND DN** (BAND) を押します。

4. **MAIN** または **SUB** を押してフォントを登録する番号 (C1~C5) を選択します。



5. テンキー (2:上, 8:下, 4:左, 6:右) を操作すると、点滅するドットが移動するので書き込む位置まで移動させます。

6. **S.SCH** (5 JKL) を押して確定します。

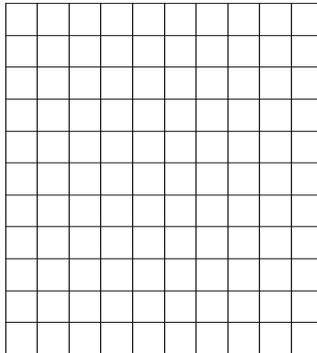
すでに確定してある場所で **S.SCH** (5 JKL) を押すと、確定したドットを削除することができます。

7. 手順5. 手順6.を繰り返しフォントを作成します。

下図のフォント作成表を利用してフォントをデザインしてから操作すると簡単に作成できます。

8. **BND DN** (BAND) を押します。

9. FUNCスイッチを押しながら **SET** (0) を押します。

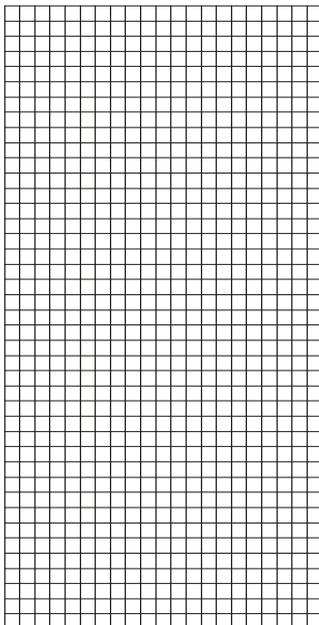
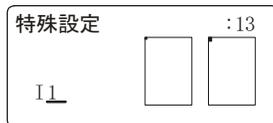


フォント作成表

# アイコンエディターでアイコンを作る

ご自分で3種類のアイコン（縦41ドット、横21ドット）を作成することができます。

1. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。  
各種の設定を行なえるセットモードになります。
2. DIALツマミをまわして『特殊設定 :13 アイコンエディタ』を選択します。
3. **BND DN BAND** を押します。
4. **MAIN** または **SUB** を押してアイコンを登録する番号（I1, I2, I3）を選択します。
5. テンキー（2：上、8：下、4：左、6：右）を操作すると、点滅するドットが移動するので書き込む位置まで移動させます。
6. **S.SCH 5 JKU** を押して確定します。  
すでに確定してある場所で **S.SCH 5 JKU** を押すと、確定したドットを削除することができます。
7. 手順5. 手順6.を繰り返しアイコンを作成します。  
下図のアイコン作成表を利用して、アイコンをデザインしてから操作すると簡単に作成できます。
8. **BND DN BAND** を押します。
9. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。



アイコン作成表

# セットモードの項目一覧表 (1)

セットモードとは、一度設定してしまえばその後変更する機会の少ない機能や動作などの設定を行なう状態をいい、73種類の設定を行なうことができます。

## 1. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押します。

各種の設定を行なえるセットモードになります。

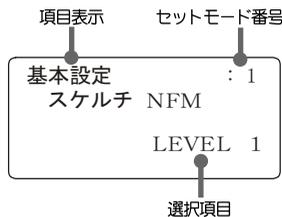
## 2. DIALツマミをまわして設定したいセットモードを選択します。

下表に記載されている☆のセットモードを選択した場合は **BND/DN BAND** を押します (●のセットモードを選択した場合は **BND/DN BAND** を押し、次に **TX/PO/LS** を押します)。

## 3. **MAIN** または **SUB** を押しして設定する項目を選択します。

下表に記載されている☆のセットモードを選択している場合は、設定する項目を選択した後 **BND/DN BAND** を押します (●のセットモードを選択している場合は、設定する項目を選択した後 **WRITE MT VM** を押し、次に **BND/DN BAND** を押します)。

## 4. FUNCスイッチを押しながら **SET 0** を押して、セットモードを終了します。



## セットモードのリセット

すべてのセットモードの設定値を、一度に工場出荷時の値に戻すことができます。

### 1. **BND/DN BAND** **WRITE MT VM** の2つのキーを押しながら **Ⓞ** を押して電源をオンにします。

「ピポッパッ」とピープ音が鳴ると同時に、キーから指を放してください。

### 2. “PUSH F KEY!” が表示されたら、FUNCスイッチを押します。

「ピポッパッ」とピープ音が鳴ります。

FUNCスイッチ以外のキーを押せば、リセットを中止することができます。

項目表示	番号,機能表示	動作説明	初期値
基本設定	1 スケルチ NFM	NFM/AMのスケルチレベル設定	1
基本設定	2 スケルチ WFM	WIDE FMのスケルチレベル設定	2
基本設定	3 チャンネル ステップ	チャンネルステップの設定	各周波数帯による
基本設定	4 RX モード	受信モードの切り替え	AUTO
基本設定	5 ARS 機能	ARS機能のON/OFF	ON
基本設定	6 シフト 幅設定	レピータシフト幅の設定	5MHz (430MHz帯)
基本設定	7 レピータ シフト	レピータシフト方向の設定	-RPT (430MHz帯)
基本設定	8 MUTE 設定	操作/バンド側に信号入感時、非操作側の音声をMUTEするかの設定	OFF
基本設定	9 ビープ	キー操作時のビープ	ON
基本設定	10 ロック モード	ロックモードの設定	KEY
☆ 基本設定	11 メモリーネーム 設定	メモリータグの書き込み	-
基本設定	12 MW 設定	メモリー書き込み時のオートインクリメント設定	LOWER CH
基本設定	13 メモリースキャン	メモリースキャンの設定	OFF
基本設定	14 ハイパー 書き込み	ハイパーメモリーへの書き込み許可/禁止	ENABLE
表示設定	1 BUSY LED	BUSYランプのON/OFF	ON
表示設定	2 表示濃度	LCDのコントラスト調整	LEVEL 7
表示設定	3 デイマー 設定	バックライト、テンキー照明の輝度調整	LEVEL 10
表示設定	4 表示 モード	電源オフ時の表示機能	NONE
表示設定	5 ランプ モード	LCD/KEY/パッド照明モードの設定	KEY
☆ 表示設定	6 LED カラー 1	LEDカラーの変更	-
☆ 表示設定	7 LED カラー 2	登録済みのLEDカラーを各モードへ設定	-
☆ 表示設定	8 S パターン 設定	S/PO-メーターの表示/パターンの選択	S1
TSQ/DCS/DTMF	1 スケルチ タイプ	スケルチタイプの設定	OFF
☆ TSQ/DCS/DTMF	2 トーン 設定	トーン周波数の設定	88.5Hz

## セットモードの項目一覧表 (2)

項目表示	番号,機能表示	動作説明	初期値	
☆	TSQ/DCS/DTMF 3	DCS コード 設定	DCSコードの設定	023
	TSQ/DCS/DTMF 4	DCS 位相	DCS反転コード受信の許可/禁止	DISABLE
	TSQ/DCS/DTMF 5	ベル 機能	ベル呼び出し音の設定	OFF
	TSQ/DCS/DTMF 6	スプリット トーン	送受信で別々のスケルチタイプの設定	OFF
	TSQ/DCS/DTMF 7	DTMF ダイアラー	DTMF オートダイアラー	OFF
☆	TSQ/DCS/DTMF 8	DTMF 設定	DTMF オートダイアラーのチャンネル, コード (16桁) の設定	CH1
	スキャン関連 1	CH カウンター	チャンネルカウンターのサーチ幅の設定	±5 MHz
	スキャン関連 2	エッジビーブ	バンドエッジ, またはCH1通過時の確認音	OFF
	スキャン関連 3	スキャン ストップ	スキャンストップモードの設定	5秒
	スキャン関連 4	スキャン ランプ	スキャンストップ時のランプ点灯	ON
	スキャン関連 5	スマート サーチ	スマートサーチの動作切り替え	1回
	スキャン関連 6	スベアナ モード 1	スベアナの動作切り替え	1回
	スキャン関連 7	スベアナ モード 2	スベアナ連続動作時のハム/バンド内同時音声出力の設定	OFF
	測定関連 1	センサー 表示	センサー表示の選択	時刻表示
	測定関連 2	ウェーブ モニター	波形観測モードの選択	ALL
	測定関連 3	温度表示単位	温度表示の単位切り替え	°C
	測定関連 4	気圧表示単位	気圧表示の単位切り替え	hPa
●	測定関連 5	気圧 オフセット	気圧計の表示補正	—
	測定関連 6	高度表示単位	高度表示の単位切り替え	m
●	測定関連 7	高度オフセット	高度計の表示補正	—
	Save 関連 1	APO 設定	APO動作時間の設定	OFF
	Save 関連 2	RX セーブ 時間	受信セーブ時間の設定	200ms (1:1)
	Save 関連 3	TX セーブ 設定	送信セーブ設定	OFF
	Save 関連 4	TX 時間制限	タイムアウトタイマーの設定	OFF
☆	Save 関連 5	オン タイマー	何時何分に電源をONにするかを設定	0:00 OFF
☆	Save 関連 6	オフ タイマー	何時何分に電源をOFFにするかを設定	0:00 OFF
	ARTS 1	ARTS ビーブ	ARTS着信時のビーブ音設定	IN RANGE
	ARTS 2	ARTS 間隔	ARTS動作時のチェック間隔の設定	25秒
☆	ARTS 3	CW ID	CW ID送しの ON/OFFおよびID書き込みの設定	OFF
	特殊設定 1	ビジー TX 禁止	ビジーチャンネル・ロックアウトの選択	OFF
	特殊設定 2	HOME/REV	HOMEキーをREV動作キーにするかの選択	HOME
	特殊設定 3	MONI/T-CALL	MONIキーをMONキーにするかT-CALキーにするかの選択	MONI
	特殊設定 4	MON/F キー チェンジ	MONIキーをMONキーにするかFUNCキーにするかの選択	MONI
	特殊設定 5	EMG モード	エマージェンシーモード	ビーブ+ストロボ
	特殊設定 6	HALF DEV	送信変調レベルの設定	OFF
	特殊設定 7	VOX 機能	VOX機能の設定	OFF
	特殊設定 8	VOX 時間	VOXデレイ時間の設定	0.5秒
	特殊設定 9	BAND リンク	MAIN/バンドとSUB/バンドの周波数をリンクさせて可変する機能のON/OFF	OFF
	特殊設定 10	VFO モード	VFOモード時の周波数選択範囲の設定	オール
☆	特殊設定 11	フォント エディタ	文字 (外字) の作成	—
	特殊設定 12	アイコン セット	アイコン表示のON/OFF	OFF
☆	特殊設定 13	アイコン エディタ	アイコンの作成	—
☆	特殊設定 14	アイコン 設定	表示モードのアイコンを選択	—
	特殊設定 15	クロック シフト	クロックシフト (内部ビートキャンセル) の設定	OFF
☆	特殊設定 16	時間設定	時計や時報の設定	2001.01.01.月 00:00—
	特殊設定 17	言語設定	セットモード, メニュー等の日本語/英語切り替え	日本語
	特殊設定 18	ATT	アッテネーターのON/OFF	OFF
	特殊設定 19	集音機能	集音機能のON/OFF	OFF
	特殊設定 20	空線 スケルチ	鉄道無線空線スケルチ機能のON/OFF	OFF

# セットモードの動作一覧表 (1)

## 基本設定 :1 スケルチ NFM

NFM/AMのスケルチレベル設定

設定項目: 0~15

工場出荷時: 1

解説: 受信モードがNFMおよびAM時のスケルチのレベルを設定します。数字が大きくなるほどスケルチが深くなります。

## 基本設定 :2 スケルチ WFM

WIDE FM のスケルチレベル設定

設定項目: 0~8

工場出荷時: 2

解説: 受信モードがWFM時のスケルチのレベルを設定します。数字が大きくなるほどスケルチが深くなります。

## 基本設定 :3 チャンネル ステップ

チャンネルステップの設定

設定項目: 5 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50 / 100kHz

工場出荷時: 周波数帯により異なる

解説: ステップ幅 (DIAL ツマミで周波数選択時に1クリックで変化する周波数とVFOスキャン時の周波数変化量) を設定します。工場出荷時の状態では周波数帯ごとに最適値が設定されていますので、通常はそのままでお使いいただけます (AMラジオ放送帯は“9kHz”または“10kHz”のみ選択できます。また、“9kHz”はAMラジオ放送帯のみです)。なお、工場出荷時の各周波数帯によるステップ幅は、下表のようになります。

周波数帯	ステップ幅
50MHz帯	10kHz
144MHz帯	20kHz
430MHz帯	20kHz
AMラジオ放送帯	9kHz
短波帯	5kHz
FMラジオ放送帯	100kHz
TV放送帯	50kHz
航空無線帯	25kHz
情報無線帯 (1)	12.5kHz
情報無線帯 (2)	12.5kHz

## 基本設定 :4 RX モード

受信モードの切り替え

設定項目: AUTO / N-FM / AM / W-FM

工場出荷時: AUTO

解説: モード (電波型式) を変更することができます。AUTOに設定しておくとも自動的に周波数帯に適したモードに切り替わります。

## 基本設定 :5 ARS 機能

ARS機能のON/OFF

設定項目: ON / OFF

工場出荷時: ON

解説: ARS (レピータの周波数に合わせるだけで自動的にレピータを使える状態になる) 機能の動作をON/OFFすることができます。

## 基本設定 :6 シフト 幅設定

レピータシフト幅の設定

設定項目: 0~99.95MHz

工場出荷時: 5MHz (430MHz帯)

解説: レピータシフト幅を設定します。430MHz帯以外の周波数帯は0MHzに設定してあります。

## 基本設定 :7 レピータシフト

レピータシフト方向の設定

設定項目: SIMP / +RPT / -RPT

工場出荷時: -RPT (430MHz帯)

解説: レピータのシフト方向を設定します。

-RPT: マイナス方向

+RPT: プラス方向

SIMP: シフトなし

## 基本設定 :8 MUTE 設定

操作バンド側に信号入感時、非操作側の音声を

MUTEするかの設定

設定項目: ON / OFF

工場出荷時: OFF

解説: ONに設定すると、操作/バンド側に信号が入感しているときに、非操作側の音声をMUTEすることができます。

## 基本設定 :9 ビープ

キー操作時のビープ

設定項目: ON / OFF

工場出荷時: ON

解説: キー操作時等のビープ音をON/OFFすることができます。

## 基本設定 :10 ロック モード

ロックモードの設定

設定項目: KEY / DIAL / KEY+DIAL / PTT

/ KEY+PTT / DIAL+PTT / ALL

工場出荷時: KEY

解説: ロックする対象を設定します。

## セットモードの動作一覧表 (2)

### 基本設定 :11 メモリーネーム 設定

メモリータグの書き込み

解説：メモリーチャンネルに名前（メモリータグ）をつけます。

### 基本設定 :12 MW 設定

メモリー書き込み時のオートインクリメント設定

設定項目：LOWER CH / NEXT CH

工場出荷時：LOWER CH

解説：

LOWER CH；メモリーを最小チャンネルから順番に書き込んだとき、未書き込みの最小チャンネルを表示します。

NEXT CH；以前書き込んだメモリー番号の次の番号を表示します。メモリーチャンネルを最小チャンネルから順番にメモリーしてないときや、メモリーグループを利用してメモリーしてある場合に便利です。

### 基本設定 :13 メモリスキャン

メモリスキャンの設定

設定項目：OFF / スキップ / 特定

工場出荷時：OFF

解説：

OFF；スキップメモリーまたは指定メモリーをOFFにします。

スキップ；メモリスキャン時にスキャンする必要のないメモリーチャンネルを指定します。

特定；特定のメモリーチャンネルだけをスキャンしたいときに指定します。

### 基本設定 :14 ハイパー 書き込み

ハイパーメモリーへの書き込み許可/禁止

設定項目：ENABLE / DISABLE

工場出荷時：ENABLE

解説：登録した内容を上書きしたくないときは“DISABLE”にします。

### 表示設定 :1 BUSY LED

BUSYランプのON/OFF

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：ON

解説：受信時に点灯するストロボ（BUSYランプ）をOFFにすることができます。

### 表示設定 :2 表示濃度

ディスプレイ（LCD）のコントラスト調整

設定項目：LEVEL 1～LEVEL 10

工場出荷時：LEVEL 7

解説：LCDのコントラストを調節します。

### 表示設定 :3 デイマー 設定

ディスプレイのバックライト、テンキー照明の輝度調整

設定項目：LEVEL 0～LEVEL 12

工場出荷時：LEVEL 10

解説：ディスプレイのバックライト、テンキー照明輝度を調節します。

### 表示設定 :4 表示モード

電源オフ時の表示機能

設定項目：NONE/温度/気圧\*/高度\*/温度+気圧\*/  
/温度+高度\*/ALL\*/天気予測\*

工場出荷時：NONE

解説：時計と設定した機能を表示することができます。

NONE；全て非表示にします（時計も含む）。

温度；時計と温度を表示します。

気圧\*；時計と気圧を表示します。

高度\*；時計と高度を表示します。

温度+気圧\*；時計と温度と気圧を表示します。

温度+高度\*；時計と温度と高度を表示します。

ALL\*；全てを表示します。

天気予測\*；時計と天気を表示します。

※：オプションの気圧センサーユニット（SU-1）を取り付けると表示されます。

### 表示設定 :5 ランプモード

LCD/KEY/パッド照明モードの設定

設定項目：KEY / 連続 / OFF

工場出荷時：KEY

解説：照明の点灯方法を設定します。

KEY；キー操作をすると自動的に点灯し、キー操作を終了すると5秒後に自動的に消灯します。

連続；連続点灯します。

OFF；照明の点灯をOFFにすることができます。

## セットモードの動作一覧表 (3)

### 表示設定 :6 LED カラー 1

LEDカラーの変更

設定項目：LED1～LED10

解説：あらかじめ登録してある10種類のLED色(下表参照)を赤(R)、緑(G)、青(B)の三原色を調節して、好みの色に変更することができます。

設定方法は39ページを参照してください。

LED番号	LED色	三原色 (256段階設定可)		
		赤(R)	緑(G)	青(B)
LED1	緑	0	45	0
LED2	青	0	0	48
LED3	橙	57	46	0
LED4	赤	51	0	0
LED5	紫	50	0	44
LED6	水色	0	42	44
LED7	黄緑	47	44	0
LED8	乳白	50	43	44
LED9	青紫	50	0	49
LED10	白色	255	255	255

### 表示設定 :7 LED カラー 2

登録済みのLEDカラーを各モードへ設定

設定項目：Main BUSY/Sub BUSY  
/DUAL BUSY/Main TX/Sub TX  
/CHG Complete

解説：ストロボを状態別に、LED番号を指定して好みの色へ変更することができます。

設定方法は38ページを参照してください。

Main BUSY；

MAIN/バンドで受信したときの点灯色です。

Sub BUSY；

SUB/バンドで受信したときの点灯色です。

DUAL BUSY；

デュアル/バンド受信のときに同時に信号を受信したときの点灯色です。

Main TX；

MAIN/バンドで送信したときの点灯色です。

Sub TX；

SUB/バンドで送信したときの点灯色です。

CHG Complete；

充電が終了したときの点灯色です。

LED番号	LED色	LED色登録モード
LED1	緑	Main BUSY
LED2	青	Sub BUSY CHG Complete
LED3	橙	DUAL BUSY
LED4	赤	Main TX
LED5	紫	Sub TX
LED6	水色	(未設定)
LED7	黄緑	(未設定)
LED8	乳白	(未設定)
LED9	青紫	(未設定)
LED10	白色	(未設定)

### 表示設定 :8 S パターン 設定

S/POメーターの表示/パターンの選択

設定項目：S1, S2, S3, S4, S5, CHR

工場出荷時：S1

解説：S/POメーターの表示/パターンを選択します。

S1；

S2；

S3；

S4；

S5；

CHR：12345678

“CHR”を選択するとS/POメーターの表示を数字、英文字、記号、漢字などで表示することができます。設定方法は58ページを参照してください。

### TSQ/DCS/DTMF :1 スケルチ タイプ

スケルチタイプの設定

設定項目：OFF / TONE / TONE SQL / DCS

工場出荷時：OFF

解説：

OFF； トーン送出、スケルチともにOFFにします。

TONE； トーン送出のみを行います(“T”が表示)。

TONE SQL； トーンスケルチをONにします(“T SQ”が表示)。

DCS； デジタルコードスケルチをONにします(“DCS”が表示)。

### TSQ/DCS/DTMF :2 トーン 設定

トーン周波数の設定

設定項目：67～254.1Hz (50トーン)

工場出荷時：88.5Hz

解説：トーンの周波数を設定します。

- を押します。
- またはを押して、希望のトーン周波数を選択します。
- を押して確定します(他のセットモードが選択できるようにります)。

選択できるトーン周波数(Hz)									
67.0	82.5	100.0	123.0	151.4	171.3	189.9	210.7	250.3	
69.3	85.4	103.5	127.3	156.7	173.8	192.8	218.1	254.1	
71.9	88.5	107.2	131.8	159.8	177.3	196.6	225.7	-	
74.4	91.5	110.9	136.5	162.2	179.9	199.5	229.1	-	
77.0	94.8	114.8	141.3	165.5	183.5	203.5	233.6	-	
79.7	97.4	118.8	146.2	167.9	186.2	206.5	241.8	-	

## セットモードの動作一覧表 (4)

### TSQ/DCS/DTMF :3 DCS コード 設定

DCSコードの設定

設定項目：023~754 (104種類)

工場出荷時：023

解説：DCSコードを設定します。

1. **[BAND]**を押します。
2. **[MAIN]**または**[SUB]**を押して、希望のDCSコードを選択します。
3. **[BAND]**を押して確定します (他のセットモードが選択できるようになります)。

選択できる DCS コード										
023	054	125	165	245	274	356	445	506	627	732
025	065	131	172	246	306	364	446	516	631	734
026	071	132	174	251	311	365	452	523	632	743
031	072	134	205	252	315	371	454	526	654	754
032	073	143	212	255	325	411	455	532	662	-
036	074	145	223	261	331	412	462	546	664	-
043	114	152	225	263	332	413	464	565	703	-
047	115	155	226	265	343	423	465	606	712	-
051	116	156	243	266	346	431	466	612	723	-
053	122	162	244	271	351	432	503	624	731	-

### TSQ/DCS/DTMF :4 DCS 位相

DCS反転コード受信の許可/禁止

設定項目：ENABLE / DISABLE

工場出荷時：DISABLE

解説：ENABLEを選択すると、位相の反転したDCSコードを受信することができます。

### TSQ/DCS/DTMF :5 ベル 機能

ベル呼び出し音の設定

設定項目：OFF / 1回 / 3回 / 5回 / 8回 / 連続

工場出荷時：OFF

解説：ベル機能の呼び出し音を設定します。

ベル機能が“OFF”以外に設定されているときには“**■**”が表示されます。

### TSQ/DCS/DTMF :6 スプリット トーン

送受信で別々のスケルチタイプの設定

設定項目：OFF / ON

工場出荷時：OFF

解説：送信と受信で別々のスケルチタイプを設定することができます。ONに設定すると、セットモードの『TSQ/DCS/DTMF :1 スケルチタイプ』にD CODE/TONE DC/DC TONEの設定項目が追加されます。

D CODE； 送信時のみDCSを送出します。

TONE DC； 送信時にトーン信号を送出し、受信時にDCSコードで待ち受けをします。

DC TONE； 送信時にDCSコードを送出し、受信時にトーン信号で待ち受けをします。

### TSQ/DCS/DTMF :7 DTMF ダイアラー

DTMFオートダイアラー

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：登録したDTMFコードを送出するときはONにします (“**■**”が表示)。

送出するには、PTTを押しながら、送出したいDTMFコードが登録されているDTMFメモリー番号 (1~9) をテンキーで指定します。

### TSQ/DCS/DTMF :8 DTMF 設定

DTMFオートダイアラーのチャンネル、コード (16桁) の設定

工場出荷時：CH1

解説：DTMFコード (16桁以内) をDTMFメモリー1~9に登録します。

登録方法は53ページを参照してください。

### スキャン関連 :1 CH カウンター

チャンネルカウンターのサーチ幅の設定

設定項目：±5MHz / ±10MHz / ±50MHz / ±100MHz

工場出荷時：±5MHz

解説：チャンネルカウンターのサーチ幅を選択します。

### スキャン関連 :2 エッジ ビープ

バンドエッジまたはCH1通過時の確認音

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：DIALツマミでの周波数選択時およびメモリースキャン時に、バンドエッジやメモリーチャンネル1を通過したときのビープ音をON/OFFすることができます。

### スキャン関連 :3 スキャン ストップ

スキャンストップモードの設定

設定項目：3秒 / 5秒 / 10秒 / BUSY / HOLD

工場出荷時：5秒

解説：

3秒； 3秒受信した後、スキャンを再開します。

5秒； 5秒受信した後、スキャンを再開します。

10秒； 10秒受信した後、スキャンを再開します

BUSY； 信号がなくなるまで受信し、信号がなくなるとスキャンを再開します。

HOLD； スキャンを中止して、その周波数を受信し続けます。

### スキャン関連 :4 スキャン ランプ

スキャンストップ時のランプ点灯

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：ON

解説：スキャンストップ時の照明の点灯をON/

## セットモードの動作一覧表 (5)

OFFすることができます。

### スキャン関連 :5 スマートサーチ

スマートサーチの動作切り替え

設定項目：1回 / 連続

工場出荷時：1回

解説：

1回：1回だけサーチします。

連続：スマートメモリーがいっぱいになるまで、繰り返しサーチします。

### スキャン関連 :6 スペアナモード 1

スペアナの動作切り替え

設定項目：1回 / 連続

工場出荷時：1回

解説：

1回：1回スキャンして、その結果を表示します。一度スキャンを行なった後、スキャンの使用状況をグラフで表します。中心周波数の信号があった場合は、その音声を出力します。DIALをまわすと再度スキャンを開始します。

連続：繰り返しスキャンして、最新の結果を表示します。

### スキャン関連 :7 スペアナモード 2

スペアナ連続動作時のハムバンド内同時音声出力の設定

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：ONにすると、スペアナがハムバンド内をスキャンしているときに限り、音声出力を出すことができます。

### 測定関連 :1 センサー表示

センサー表示の選択

設定項目：OFF / 時刻表示 / 電圧表示 / 温度表示 / WAVEモニター / 気圧表示\* / 高度表示\* / 天気予測\*

工場出荷時：時刻表示

解説：

OFF：センサー表示をOFFにします。

時刻表示：時間を表示します。

電圧表示：電圧を表示します。

温度表示：温度を表示します。

WAVEモニター：受信信号と変調信号を波形で表示します。

気圧表示\*：気圧を表示します。

高度表示\*：高度を表示します。

天気予測\*：天気予測を表示します。

※：オプションの気圧センサーユニット(SU-1)を取り付けると表示されます。

### 測定関連 :2 ウェーブモニター

波形観測モードの選択

設定項目：ALL / RX SIGNAL / TX MODULATION

工場出荷時：ALL

解説：

ALL：受信信号の波形と、送信しているときの変調信号の波形、両方を表示します。

RX SIGNAL：受信信号の波形のみを表示します。

TX MODULATION：送信している変調信号の波形のみを表示します。

### 測定関連 :3 温度表示単位

温度表示の単位切り替え

設定項目：°C / °F

工場出荷時：°C

解説：温度表示の単位を切り替えることができます。

### 測定関連 :4 気圧表示単位

気圧表示の単位切り替え

設定項目：hPa / mbar / mmHg / inch

工場出荷時：hPa

解説：気圧表示の単位を切り替えることができます。

### 測定関連 :5 気圧オフセット

気圧計の表示補正

解説：正確な気圧計の値を入力し、補正します。

《例》 正確な気圧計の表示が“1024hPa”のときに、VX-7の気圧表示が“1018hPa”を示しているときには、以下のように修正します。

1. **BND DN BAND** を押します。
2. **TX POK LK** を押して、気圧を表示します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して、正確な気圧“1024hPa”を入力します。
4. **WRITE M** を押して確定します。
5. **BND DN BAND** を押します（他のセットモードが選択できるようになります）。

### 測定関連 :6 高度表示単位

高度表示の単位切り替え

設定項目：m / ft

工場出荷時：m

解説：高度表示の単位を切り替えることができます。

## セットモードの動作一覧表 (6)

### 測定関連 :7 高度 オフセット

高度計の表示補正

解説：正確な高度計の値を入力し、補正します。

《例》 海辺(高度“0m”)でVX-7の高度表示が“2m”を示しているときには、以下のように修正します。

1. **BAND** を押します。
2. **TX POK** を押して、高度を表示します。
3. **MAIN** または **SUB** を押して、正確な高度“0m”を入力します。
4. **V/M** を押して確定します。
5. **BAND** を押します(他のセットモードが選択できるようになります)。

### Save 関連 :1 APO 設定

APO動作時間の設定

設定項目：OFF / 30分 / 1時間 / 3時間 / 5時間 / 8時間

工場出荷時：OFF

解説：APO(一定時間操作しないと自動的に電源をOFFにする)時間を設定します。APO時間が設定されているときには **□** が表示されます。

### Save 関連 :2 RX セーブ 時間

受信セーブ時間の設定

設定項目：200mS / 300mS / 500mS / 1S / 2S / OFF

工場出荷時：200ms

解説：

200mS (1:1)； 200mS受信して200mSセーブ  
 300mS (1:1.5)； 200mS受信して300mSセーブ  
 500mS (1:2.5)； 200mS受信して500mSセーブ  
 1S (1:5)； 200mS受信して1Sセーブ  
 2S (1:10)； 200mS受信して2Sセーブ  
 受信セーブがオンのときは、“**□**”が点滅します(信号受信中は点灯)

OFF：受信セーブしません(連続受信)。

### Save 関連 :3 TX セーブ 設定

送信セーブ設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：送信セーブ機能をONにすると、相手局の信号強度がフルスケールの場合、送信出力がハイパワーまたはL3のときにはL2に、L2のときにはL1に下がります。

### Save 関連 :4 TX 時間制限

タイムアウトタイマーの設定

設定項目：OFF / 1分 / 2.5分 / 5分 / 10分

工場出荷時：OFF

解説：タイムアウトタイマー(TOT：連続送信時間の制限)の時間を設定します。

### Save 関連 :5 オン タイマー

何時何分に電源をONにするかを設定

設定項目：OFF、および\*\*:\*:(数字入力)

工場出荷時：OFF

解説：指定時刻になると、自動的に電源がONになります。1分単位で設定します。

設定方法は51ページを参照してください。

### Save 関連 :6 オフ タイマー

何時何分に電源をOFFにするかを設定

設定項目：OFF、および\*\*:\*:(数字入力)

工場出荷時：OFF

解説：指定時刻になると、自動的に電源をOFFにします。1分単位で設定します。

設定方法は51ページを参照してください。

### ARTS :1 ARTS ビープ

ARTS着信時のビープ音設定

設定項目：IN RANGE / ALWAYS / OFF

工場出荷時：IN RANGE

解説：

IN RANGE：初めて交信可能範囲内にあることが確認されたときだけ、

"ピピッ"とビープ音を鳴らし、初めて交信可能範囲外になったときだけ

"ピピッ"とビープ音を鳴らします。

ALWAYS：交信可能範囲内にいるときはいつも"ピピッ"とビープ音を鳴らし、初めて交信可能範囲外になったときだけ

"ピピッ"とビープ音を鳴らします。

OFF：ARTSのビープ音をOFFにします。

### ARTS :2 ARTS 間隔

ARTS動作時のチェック間隔の設定

設定項目：25秒 / 15秒

工場出荷時：25秒

解説：ARTS動作時のチェック間隔を設定します。

### ARTS :3 CW ID

CW ID送出のON/OFFおよびID書き込みの設定

工場出荷時：OFF

解説：ARTS機能を使用しているときに動作する、CWによるID送出を設定します。

CW IDの設定方法は52ページを参照してください。

CWでIDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2の電波型式の免許が必要です。

## セットモードの動作一覧表 (7)

### 特殊設定 :1 ビジー TX 禁止

ビジーチャンネル・ロックアウトの選択

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：ビジーチャンネルロックアウト（BCLO：すでに使われている周波数での送信禁止）をON/OFFすることができます。

### 特殊設定 :2 HOME/REV

HOMEキーをREV動作キーにするかの選択

設定項目：HOME/REV

工場出荷時：HOME

解説：

HOME：ホームチャンネルの呼び出しとして動作します

REV：リバース設定として動作します

### 特殊設定 :3 MONI/T-CALL

<sup>SOLV</sup>  
(MONI)の動作選択

設定項目：MONI/T-CALL

工場出荷時：MONI

解説：

MONI：モニターとして動作します

T-CALL：トーンコールとして動作します

### 特殊設定 :4 MON/F キー チェンジ

<sup>SOLV</sup>  
(MONI)の動作切り替え

設定項目：MONI / FUNC

工場出荷時：MONI

解説：

MONI；<sup>SOLV</sup>  
(MONI)がモニターとして動作します。

FUNC；<sup>SOLV</sup>  
(MONI)がFUNCスイッチとして動作します。

- ・ファンクション操作は“FUNCスイッチを押しながら”から“<sup>SOLV</sup>  
(MONI)を押した後に”操作するキーを押す方法に替わります。

- ・メモリーの書き込み/消去方法が替わります。

#### ◎書き込み方法

1. <sup>SOLV</sup>  
(MONI)を0.5秒以上押すと“メモリー書き込みモード”になります。

2. メモリーチャンネル番号を指定する場合は、DIALツマミで指定します。

3. <sup>SOLV</sup>  
(MONI)を押して書き込みを完了します。

#### ◎消去方法

1. <sup>SOLV</sup>  
(MONI)を0.5秒以上押すと“メモリー書き込みモード”になります。

2. DIALツマミをまわして、消去したいメモリーチャンネル番号を指定します。

3. <sup>WRITE</sup>  
(V/M)を押して消去を完了します。

### 特殊設定 :5 EMG モード

エマージェンシーモード

設定項目：ビーブ+ストロボ / ビーブ

/ ストロボ1 / ストロボ2 / ストロボ3

/ ストロボ4 / ストロボ5 / ビーム

工場出荷時：ビーブ+ストロボ

解説：エマージェンシー機能動作時の、ビーブ音とストロボ動作の設定を替えることができます。

ビーブ+ストロボ：ビーブを鳴らしながら、ストロボが白色で点滅します。

ビーブ；ビーブ音のみ鳴らします。  
ストロボ1；ストロボが7種類の色を順番に点滅します。

ストロボ2；ストロボが7種類の色を、連続的に変化させながら点滅します。

ストロボ3~ストロボ5；ストロボが白色で点滅します。数字が大きくなるほど速く点滅します。

ビーム；白色で点灯します。

### 特殊設定 :6 HALF DEV

送信変調レベルの設定

設定項目：ON/OFF

工場出荷時：OFF

解説：送信変調度が通常の約半分になります。

通常は“OFF”のままで使用してください。

### 特殊設定 :7 VOX 機能

VOX機能の設定

設定項目：OFF / HIGH / LOW

工場出荷時：OFF

解説：VOX回路の動作感度を設定します。

### 特殊設定 :8 VOX 時間

VOXディレイ時間の設定

設定項目：0.5秒 / 1秒 / 2秒

工場出荷時：0.5秒

解説：VOX運用時に、送信状態から受信状態に戻るまでの復帰時間（ディレイ時間）を設定します。

### 特殊設定 :9 BAND リンク

MAIN/バンドとSUB/バンドの同一周波数帯の周波数をリンクさせて可変する機能のON/OFF

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：『特殊設定 :10 VFO モード』を「バンド」に設定します。BANDリンクを「ON」に設定し、MAIN/バンドとSUB/バンドを同一周波数帯にします。DIALツマミをまわすと、周波数が同時に可変することができます。

## セットモードの動作一覧表 (8)

### 特殊設定 :10 VFO モード

VFOモード時の周波数選択範囲の設定

設定項目：オール / バンド

工場出荷時：オール

解説：VFOモード時の周波数選択範囲を設定します。

オール：バンドエッジに達すると、次のバンドに切り替わります。

バンド：バンドエッジに達すると、現在のバンドの他端となります。

### 特殊設定 :11 フォント エディタ

文字（外字）の作成

解説：5文字分の外字を作成することができます（60ページ参照）。

### 特殊設定 :12 アイコン セット

アイコン表示のON/OFF

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：ONにすると周波数帯、モード、各機能の表示をアイコンで表示するようになります。

なお、工場出荷時の状態でのアイコンの設定および使用できるアイコンの種類については48ページをご覧ください。

### 特殊設定 :13 アイコン エディタ

アイコンの作成

設定項目：エディタのON/OFF

解説：3種類のアイコンを作成することができます（61ページ参照）。

### 特殊設定 :14 アイコン 設定

表示モードのアイコンを選択

解説：周波数帯、モード、各機能の表示に対応するアイコンを、希望のアイコンに設定することができます。

なお、工場出荷時の状態でのアイコンの設定および使用できるアイコンの種類については48ページをご覧ください。

### 特殊設定 :15 クロック シフト

クロックシフトの設定

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：

マイコンのクロックを高調波による内部スプリアスとして受信された時は“ON”にします。

通常は“OFF”で使用してください。

### 特殊設定 :16 時間設定

工場出荷時：2001年1月1日、月曜日、00時00分、---

解説：時計の時間や、時報の設定をすることができます（12ページ参照）。

### 特殊設定 :17 言語設定

セットモードメニュー等の日本語/英語切り替え

設定項目：日本語/英語

工場出荷時：日本語

解説：セットモードでの表示言語を切り替えます。

### 特殊設定 :18 ATT

アッテネーターのON / OFF

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：アッテネーター（減衰量：20dB）をON / OFFします。

### 特殊設定 :19 集音機能

集音機能のON / OFF

設定項目：ON / OFF

工場出荷時：OFF

解説：集音機能をON / OFFします。

### 特殊設定 :20 空線 スケルチ

鉄道無線空線スケルチ機能のON / OFF

設定項目：ON / OFF

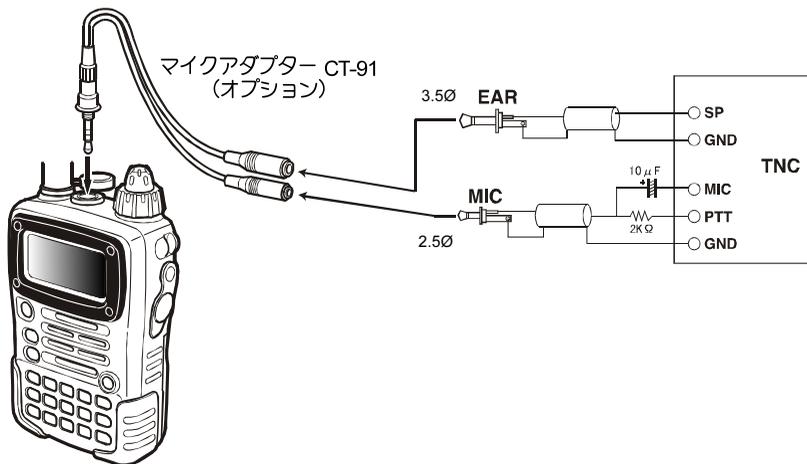
工場出荷時：OFF

解説：鉄道無線の空線スケルチをON / OFFします。

## パケット通信に使うときは

オプションのマイクアダプター (CT-91) を使用すると、お手持ちのTNC (ターミナルノードコントローラー) を接続してパケット通信を行うことができます。

MIC/SP端子に接続

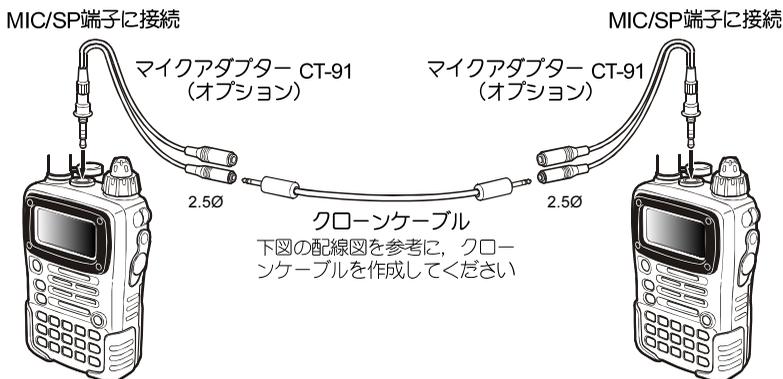


接続後、VOLツマミをまわして、VX-7からTNCへの出力レベルを調節してください。また、TNC側の出力レベル調節用ボリュームでTNCからVX-7への入力レベルを調節してください (VX-7側では入力レベルは調節できません)。

- 大量のデータを転送するときには送信時間が長くなり、本機の発熱が大きくなります。長時間送信し続けると、過熱防止回路が作動して送信出力が下がります。さらに送信を続けると、過熱による故障を防ぐために、送信が中止されて受信状態になります。過熱防止回路が作動して受信状態になったときには、電源をオフまたは受信状態のまま、温度が下がるまでお待ちください。
- パケット通信時には受信セーブ機能はオフに設定してください (セットモードの『Save関連:2RXセーブ時間』)。
- パーソナルコンピューターで発生する雑音によって、受信が妨害される場合があります。正常に受信できない場合は、パーソナルコンピューターをVX-7から離し、フォトカブラーやノイズフィルターを介して接続してください。
- TNCとパーソナルコンピューターの接続方法については、ご使用になるTNCの取扱説明書をご覧ください。

# クローン操作

メモリーされているデータや各種の設定などをもう1台のVX-7にコピーできます。



1. 2台のVX-7の電源をオフにし、自作のクローンケーブル(下図参照)をオプションのマイクアダプター (CT-91) を使ってMIC/SP端子に接続します。

2. 2台のVX-7を、**SQLV** (MON) を押しながらか**Ⓞ**を押して電源をオンにします。

クローンモードになります。

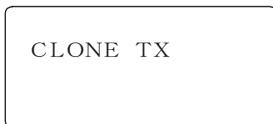


3. 受け側のVX-7の**WRITE MT** (VM) を押し、続いて送り側のVX-7の**BND DN** (BAND) を押します。

データのコピーが開始されると、受け側の表示が“CLONE

WAIT” から“CLONE RX” に替わります。

コピーが終了すると、受け側のVX-7が通常モードに戻ります (送り側のVX-7は“CLONE TX”のままです)。



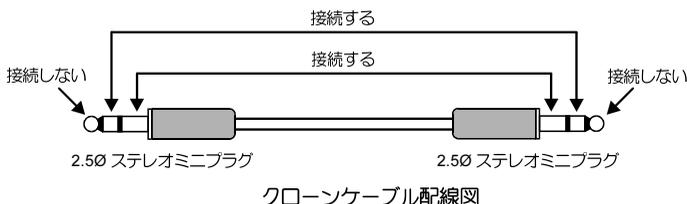
(送り側)



(受け側)

4. 2台のVX-7の電源をオフにし、クローンケーブルとマイクアダプターを外します。

- データの転送中に“CLONE ERROR”が表示された場合はエラーです。クローンケーブルの接続を確認してもう一度やりなおしてください。
- 時計は専用回路で構成されているため、時刻のデータをコピーすることはできません。



必要に応じて使う機能

## プリセットされている放送局周波数一覧表 (1)

『プリセットメモリーを呼び出して世界各地の放送、AM/FMラジオ、TV放送を聴く』の項目で放送局を呼び出したときの一覧表です。

1. MAINバンドのモノバンド受信とし、FUNCスイッチを押しながら  を押します。
2. 特殊メモリーの表示になりますので、DIALツマミをまわして「5 放送」を選択します。
3. FUNCスイッチを押しながら  をして確定します。
4. DIALツマミをまわしてリストチャンネルを合わせると、各放送局を呼び出すことができます。

リストチャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リストチャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
1	6.030	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	30	9.925	AM	Belgium	Radio Vlaanderen International	ベルギー
2	6.160	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	31	11.780	AM	Belgium	Radio Vlaanderen International	ベルギー
3	9.760	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	32	13.740	AM	Belgium	Radio Vlaanderen International	ベルギー
4	11.930	AM	VOA	Voice of America	アメリカ	33	5.955	AM	Holland	Radio Nederland	オランダ
5	5.995	AM	Canada	Radio Canada International	カナダ	34	6.020	AM	Holland	Radio Nederland	オランダ
6	7.235	AM	Canada	Radio Canada International	カナダ	35	9.895	AM	Holland	Radio Nederland	オランダ
7	9.735	AM	Canada	Radio Canada International	カナダ	36	11.655	AM	Holland	Radio Nederland	オランダ
8	11.705	AM	Canada	Radio Canada International	カナダ	37	9.590	AM	Denmark	Radio Denmark	デンマーク
9	6.195	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	38	9.985	AM	Denmark	Radio Denmark	デンマーク
10	9.410	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	39	13.800	AM	Denmark	Radio Denmark	デンマーク
11	12.095	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	40	15.735	AM	Denmark	Radio Denmark	デンマーク
12	15.310	AM	BBC	British Broadcasting Corporation	イギリス	41	9.780	AM	Portugal	Radio Portugal	ポルトガル
13	6.045	AM	France	Radio France International	フランス	42	11.960	AM	Portugal	Radio Portugal	ポルトガル
14	9.790	AM	France	Radio France International	フランス	43	15.555	AM	Portugal	Radio Portugal	ポルトガル
15	11.670	AM	France	Radio France International	フランス	44	21.655	AM	Portugal	Radio Portugal	ポルトガル
16	15.525	AM	France	Radio France International	フランス	45	7.270	AM	Spain	Radio Exterior de Espana	スペイン
17	3.955	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	46	9.520	AM	Spain	Radio Exterior de Espana	スペイン
18	6.075	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	47	11.920	AM	Spain	Radio Exterior de Espana	スペイン
19	9.545	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	48	15.585	AM	Spain	Radio Exterior de Espana	スペイン
20	9.735	AM	DW	Deutsche Welle	ドイツ	49	6.090	AM	Luxemburg	Radio Luxembourg	ルクセンブルグ
21	6.060	AM	Italy	Italian Radio International	イタリア	50	7.485	AM	Norway	Radio Norway International	ノルウェー
22	7.175	AM	Italy	Italian Radio International	イタリア	51	9.590	AM	Norway	Radio Norway International	ノルウェー
23	9.515	AM	Italy	Italian Radio International	イタリア	52	9.985	AM	Norway	Radio Norway International	ノルウェー
24	17.710	AM	Italy	Italian Radio International	イタリア	53	13.800	AM	Norway	Radio Norway International	ノルウェー
25	3.985	AM	Swiss	Swiss Radio International	スイス	54	6.065	AM	Sweden	Radio Sweden	スウェーデン
26	6.165	AM	Swiss	Swiss Radio International	スイス	55	9.490	AM	Sweden	Radio Sweden	スウェーデン
27	9.885	AM	Swiss	Swiss Radio International	スイス	56	13.625	AM	Sweden	Radio Sweden	スウェーデン
28	15.220	AM	Swiss	Swiss Radio International	スイス	57	17.505	AM	Sweden	Radio Sweden	スウェーデン
29	5.985	AM	Belgium	Radio Vlaanderen International	ベルギー	58	6.120	AM	Finland	Radio Finland	フィンランド

## プリセットされている放送局周波数一覧表 (2)

- 受信する時間帯や電波の状態が悪いときは、受信できない場合があります。
- 各放送局は下表以外にも受信できる周波数があります。詳しくは市販されている周波数帳などを参考にしてください。

リストチャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リストチャンネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
59	9.630	AM	Finland	Radio Finland	フィンランド	89	12.080	AM	Australi	Radio Australia	オーストラリア
60	11.755	AM	Finland	Radio Finland	フィンランド	90	0.567	AM	NHK第1札幌	NHK第1札幌	北海道
61	9.795	AM	Finland	Radio Finland	フィンランド	91	0.747	AM	NHK第2札幌	NHK第2札幌	北海道
62	5.940	AM	Russia	Voice of Russia	ロシア	92	1.287	AM	HBCラジオ	北海道放送	北海道
63	5.920	AM	Russia	Voice of Russia	ロシア	93	1.440	AM	STVラジオ	STVラジオ	北海道
64	7.205	AM	Russia	Voice of Russia	ロシア	94	80.400	WFM	AIR-G'	FM北海道	北海道
65	12.030	AM	Russia	Voice of Russia	ロシア	95	82.500	WFM	ノースウェーブ	FMノースウェーブ	北海道
66	9.435	AM	Israel	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	96	85.200	WFM	NHK-FM札幌	NHK-FM札幌	北海道
67	11.585	AM	Israel	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	97	95.750	WFM	HBC北海道放送	北海道放送	北海道
68	15.615	AM	Israel	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	98	107.750	WFM	NHK総合テレビ	NHK総合	北海道
69	17.545	AM	Israel	Israel Broadcasting Authority	イスラエル	99	181.750	WFM	STV	STV	北海道
70	6.045	AM	India	All India Radio (AIR)	インド	100	221.750	WFM	NHK教育テレビ	NHK教育	北海道
71	9.595	AM	India	All India Radio (AIR)	インド	101	499.750	WFM	TVh	テレビ北海道	北海道
72	11.620	AM	India	All India Radio (AIR)	インド	102	559.750	WFM	uhb	北海道文化放送	北海道
73	15.020	AM	India	All India Radio (AIR)	インド	103	607.750	WFM	北海道テレビ	北海道テレビ放送	北海道
74	7.190	AM	China	China Radio International (CRI)	中国	104	1.233	AM	RABラジオ	青森放送	東北
75	5.250	AM	China	China Radio International (CRI)	中国	105	80.000	WFM	エフエム青森	FM青森	東北
76	9.855	AM	China	China Radio International (CRI)	中国	106	0.684	AM	IBC岩手放送	岩手放送	東北
77	11.685	AM	China	China Radio International (CRI)	中国	107	76.100	WFM	エフエム岩手	FM岩手	東北
78	5.975	AM	Korea	Radio Korea	韓国	108	0.936	AM	ABS秋田放送	秋田放送	東北
79	7.275	AM	Korea	Radio Korea	韓国	109	82.800	WFM	エフエム秋田	FM秋田	東北
80	9.570	AM	Korea	Radio Korea	韓国	110	0.918	AM	YBCラジオ	山形放送	東北
81	13.670	AM	Korea	Radio Korea	韓国	111	80.400	WFM	Boy-FM	FM山形	東北
82	6.155	AM	Japan	Radio Japan	日本	112	1.458	AM	r/cラジオ福島	ラジオ福島	東北
83	7.200	AM	Japan	Radio Japan	日本	113	81.800	WFM	ふくしまFM	ふくしまFM	東北
84	9.750	AM	Japan	Radio Japan	日本	114	0.891	AM	NHK第1仙台	NHK第1仙台	東北
85	11.850	AM	Japan	Radio Japan	日本	115	1.089	AM	NHK第2仙台	NHK第2仙台	東北
86	5.995	AM	Australi	Radio Australia	オーストラリア	116	1.260	AM	ラジオTBC	東北放送	東北
87	9.580	AM	Australi	Radio Australia	オーストラリア	117	77.100	WFM	Date fm	FM仙台	東北
88	9.660	AM	Australi	Radio Australia	オーストラリア	118	82.500	WFM	NHK-FM仙台	NHK-FM仙台	東北

# プリセットされている放送局周波数一覧表 (3)

リスト チャネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
119	95.750	WFM	TBC	東北放送	東北	158	86.300	WFM	FMぐんま	FMぐんま	関東
120	107.750	WFM	NHK総合テレビ	NHK総合	東北	159	95.750	WFM	NHK総合テレビ	NHK総合テレビ	関東
121	181.750	WFM	NHK教育テレビ	NHK教育	東北	160	107.750	WFM	NHK教育テレビ	NHK教育テレビ	関東
122	221.750	WFM	OX-TV	仙台放送	東北	161	175.750	WFM	日本テレビ	日本テレビ	関東
123	589.750	WFM	KHB東日本放送	東日本放送	東北	162	187.750	WFM	TBS	TBS	関東
124	601.750	WFM	ミヤギテレビ	宮城テレビ放送	東北	163	197.750	WFM	フジテレビ	フジテレビ	関東
125	1.116	AM	BSNラジオ	新潟放送	信越	164	209.750	WFM	テレビ朝日	テレビ朝日	関東
126	77.500	WFM	FM新潟	FM新潟	信越	165	221.750	WFM	テレビ東京	テレビ東京	関東
127	1.098	AM	SBCラジオ	信越放送	信越	166	481.750	WFM	MX-TV	MX-TV	関東
128	79.700	WFM	FM長野	FM長野	信越	167	493.750	WFM	放送大学	放送大学	関東
129	0.738	AM	KNB北日本放送	北日本放送	北陸	168	625.750	WFM	テレビ埼玉	テレビ埼玉	関東
130	82.700	WFM	FMとやま	FMとやま	北陸	169	649.750	WFM	TVK	TVK	関東
131	1.107	AM	MROラジオ	北陸放送	北陸	170	673.750	WFM	千葉テレビ	千葉テレビ	関東
132	80.500	WFM	エフエム石川	FM石川	北陸	171	685.750	WFM	群馬テレビ	群馬テレビ	関東
133	0.864	AM	FBC福井放送	福井放送	北陸	172	0.729	AM	NHK第1名古屋	NHK第1名古屋	東海
134	76.100	WFM	FM福井	FM福井	北陸	173	0.909	AM	NHK第2名古屋	NHK第2名古屋	東海
135	0.594	AM	NHK第1東京	NHK第1東京	関東	174	1.053	AM	CBCラジオ	CBCラジオ	東海
136	0.693	AM	NHK第2東京	NHK第2東京	関東	175	1.332	AM	東海ラジオ	東海ラジオ放送	東海
137	0.765	AM	YBSラジオ	山梨放送	関東	176	1.431	AM	岐阜放送	岐阜ラジオ	東海
138	0.810	AM	AFN東京	AFN東京	関東	177	77.800	WFM	ZIP FM	FM名古屋	東海
139	0.954	AM	TBSラジオ	TBS	関東	178	78.900	WFM	FM三重	FM三重	東海
140	1.134	AM	文化放送	文化放送	関東	179	79.500	WFM	RADIO i	愛知国際放送	東海
141	1.197	AM	IBS茨城放送	茨城放送	関東	180	80.000	WFM	岐阜FM	岐阜FM	東海
142	1.242	AM	ニッポン放送	ニッポン放送	関東	181	80.700	WFM	FM AICHI	FM愛知	東海
143	1.422	AM	RFラジオ日本	RFラジオ日本	関東	182	82.500	WFM	NHKFM名古屋	NHK-FM名古屋	東海
144	1.530	AM	CRT栃木放送	栃木放送	関東	183	95.750	WFM	東海テレビ	東海テレビ	東海
145	76.100	WFM	Inter FM	Inter FM	関東	184	107.750	WFM	NHK総合テレビ	NHK総合テレビ	東海
146	76.400	WFM	レディオ・ベロー	FM栃木	関東	185	181.750	WFM	CBC	中部日本放送	東海
147	77.100	WFM	放送大学	放送大学	関東	186	203.750	WFM	NHK教育テレビ	NHK教育テレビ	東海
148	78.000	WFM	BAY FM	BAY FM	関東	187	215.750	WFM	名古屋テレビ	名古屋テレビ	東海
149	78.600	WFM	FM FUJI	FM富士	関東	188	547.750	WFM	テレビ愛知	テレビ愛知	東海
150	79.500	WFM	NACK 5	NACK 5	関東	189	607.750	WFM	中京テレビ	中京テレビ	東海
151	80.000	WFM	TOKYO FM	TOKYO FM	関東	190	1.404	AM	SBS静岡放送	静岡放送	東海
152	80.700	WFM	NHK-FM千葉	NHK-FM千葉	関東	191	76.100	WFM	FM Haro!	浜松FM放送	東海
153	81.300	WFM	J-WAVE	J-WAVE	関東	192	79.200	WFM	K-MIX	静岡FM放送	東海
154	81.900	WFM	NHK-FM横浜	NHK-FM横浜	関東	193	0.558	AM	AM KOBE	ラジオ関西	近畿
155	82.500	WFM	NHK-FM東京	NHK-FM東京	関東	194	0.666	AM	NHK第1大阪	NHK第1大阪	近畿
156	84.700	WFM	FMヨコハマ	FMヨコハマ	関東	195	0.828	AM	NHK第2大阪	NHK第2大阪	近畿
157	85.100	WFM	NHK-さいたま	NHK-FMさいたま	関東	196	1.008	AM	ABCラジオ	朝日放送	近畿

# プリセットされている放送局周波数一覧表 (4)

リスト チャネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方	リスト チャネル	周波数 (MHz)	モード	表示	放送局名	国/地方
197	1.143	AM	KBS京都	京都放送	近畿	236	79.200	WFM	FM山口	FM山口	中国
198	1.179	AM	MBSラジオ	毎日放送	近畿	237	1.449	AM	RNC西日本放送	西日本放送	四国
199	1.314	AM	ラジオ大阪	大阪放送	近畿	238	78.600	WFM	FM香川	FM香川	四国
200	76.500	WFM	FMCOCOLO	関西インターメディア	近畿	239	1.116	AM	RNBラジオ	南海放送	四国
201	80.200	WFM	FM802	FM802	近畿	240	79.700	WFM	FM愛媛	FM愛媛	四国
202	82.800	WFM	NHK-FM京都	NHK-FM京都	近畿	241	1.269	AM	JRTラジオ	四国放送	四国
203	85.100	WFM	fm osaka	FM大阪	近畿	242	80.700	WFM	エフエム徳島	FM徳島	四国
204	86.500	WFM	NHK-FM神戸	NHK-FM神戸	近畿	243	0.900	AM	RKC高知放送	高知放送	四国
205	88.100	WFM	NHK-FM大阪	NHK-FM大阪	近畿	244	81.600	WFM	FM高知	FM高知	四国
206	89.400	WFM	Astation	FM京都	近畿	245	0.612	AM	NHK第1福岡	NHK第1福岡	九州
207	89.900	WFM	KISS FM	兵庫FMラジオ放送	近畿	246	1.017	AM	NHK第2福岡	NHK第2福岡	九州
208	101.750	WFM	NHK総合テレビ	NHK総合	近畿	247	1.278	AM	RKBラジオ	RKB毎日放送	九州
209	175.750	WFM	毎日放送	毎日放送	近畿	248	1.413	AM	KBCラジオ	九州朝日放送	九州
210	187.750	WFM	ABCテレビ	朝日放送	近畿	249	76.100	WFM	Love FM	九州国際FM	九州
211	197.750	WFM	関西テレビ	関西テレビ	近畿	250	78.700	WFM	CROSS FM	FM九州	九州
212	209.750	WFM	よみうりテレビ	読売テレビ	近畿	251	80.700	WFM	FM福岡	FM福岡	九州
213	221.750	WFM	NHK教育テレビ	NHK教育	近畿	252	84.800	WFM	NHK-FM福岡	NHK-FM福岡	九州
214	511.750	WFM	テレビ大阪	テレビ大阪	近畿	253	95.750	WFM	KBC	九州朝日放送	九州
215	613.750	WFM	サンテレビ	サンテレビ	近畿	254	107.750	WFM	NHK総合テレビ	NHK総合	九州
216	77.000	WFM	e-radio	FM滋賀	近畿	255	175.750	WFM	RKB	RKB毎日放送	九州
217	1.431	AM	WBS和歌山放送	和歌山放送	近畿	256	187.750	WFM	NHK教育テレビ	NHK教育	九州
218	1.494	AM	RSK山陽放送	山陽放送	中国	257	203.750	WFM	TNC	テレビ西日本	九州
219	76.800	WFM	FM岡山	FM岡山	中国	258	511.750	WFM	TVQ	TXN九州	九州
220	0.702	AM	NHK第2広島	NHK第2広島	中国	259	619.750	WFM	FBS福岡放送	福岡放送	九州
221	1.071	AM	NHK第1広島	NHK第1広島	中国	260	77.900	WFM	FM-SAGA	FM佐賀	九州
222	1.350	AM	RCC中国放送	中国放送	中国	261	1.233	AM	NBC長崎放送	長崎放送	九州
223	78.200	WFM	広島エフエム	広島FM放送	中国	262	79.500	WFM	Smile-FM	FM長崎	九州
224	88.300	WFM	NHK-FM広島	NHK-FM広島	中国	263	1.098	AM	OBS大分放送	大分放送	九州
225	107.750	WFM	NHK総合テレビ	NHK総合	中国	264	88.000	WFM	FM OITA	FM大分	九州
226	175.750	WFM	RCC	中国放送	中国	265	0.936	AM	MRT宮崎放送	宮崎放送	九州
227	193.750	WFM	NHK教育テレビ	NHK教育	中国	266	83.200	WFM	JOY FM	FM宮崎	九州
228	221.750	WFM	広島テレビ	広島テレビ	中国	267	1.197	AM	RKK熊本放送	熊本放送	九州
229	583.750	WFM	テレビ新広島	テレビ新広島	中国	268	77.400	WFM	エフエム中九州	FM中九州	九州
230	607.750	WFM	広島ホームテレビ	広島ホームテレビ	中国	269	1.107	AM	MBCラジオ	南日本放送	九州
231	1.431	AM	BSSラジオ鳥取	山陰放送(鳥取)	中国	270	79.800	WFM	μ-FM	FM鹿児島	九州
232	78.800	WFM	V-air	FM山陰(鳥取)	中国	271	0.738	AM	RBCラジオ	琉球放送	沖縄
233	0.900	AM	BSSラジオ島根	山陰放送(島根)	中国	272	0.864	AM	ROKラジオ沖縄	ラジオ沖縄	沖縄
234	77.400	WFM	V-air	FM山陰(島根)	中国	273	87.300	WFM	エフエム沖縄	FM沖縄	沖縄
235	1.458	AM	KRY山口放送	山口放送	中国	-	-	-	-	-	-

# 鉄道無線周波数一覧表

『プリセットメモリーを呼び出して鉄道無線を聴く』の項目で鉄道無線を呼び出したときの一覧表です。

1. MAINバンドのモノバンド受信にし、FUNCスイッチを押しながら<sup>SPL</sup>9を押します。
2. 特殊メモリーになりますので、DIALツマミをまわして「6 鉄道」を選択します。
3. FUNCスイッチを押しながら<sup>SPL</sup>9を押して確定します。
4. DIALツマミをまわしてチャンネルを合わせると、鉄道無線の周波数を呼び出すことができます。

チャンネル	表示	周波数 (MHz)									
1	JR-1	352.5375	5	JR-3	352.5625	9	JR-5	352.5875	13	JR-7	352.6125
2	JR-1 T	336.0375	6	JR-3 T	336.0625	10	JR-5 T	336.0875	14	JR-7 T	336.1125
3	JR-2	352.5500	7	JR-4	352.5750	11	JR-6	352.6000	15	JR-8	352.6250
4	JR-2 T	336.0500	8	JR-4 T	336.0750	12	JR-6 T	336.1000	16	JR-8 T	336.1250

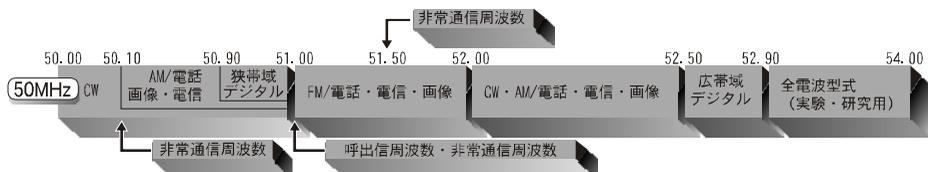
# フォント一覧表

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	ス	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
l	m	n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	.	,	:	;	!	"	#	\$	%
&	'	(	)	*	+	-	/	=	<	>	?	@	[	¥	]	^	_	\	{		}	→	←
▲	▼	~	!!	÷	×	√	λ	μ	π	φ	ω	Ω	°	°	°	°	°	°	°	°	°	°	°
・	♂	♀	〒	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	し	す	せ	そ	た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の	は	ひ	ふ	へ	ほ	ま	み	む	め	も	や	ゆ	よ	ら	り	る	れ	ろ	わ
を	ん	。	、	が	ぎ	ぐ	げ	ご	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	だ	ぢ	づ	で	ど	ば	び	ぶ	べ	ぼ
ば	び	ぶ	べ	ぼ	あ	い	う	え	お	や	ゆ	よ	っ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ
モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	ロ	ワ	ヲ	ン	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	ダ	ヂ	ヅ
デ	ド	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	パ	ピ	プ	ペ	ポ	ァ	ィ	ゥ	ェ	ォ	ャ	ュ	ョ	ッ	愛	圧	伊
位	井	育	一	茨	英	衛	越	円	遠	横	岡	沖	屋	温	音	化	歌	河	火	香	鹿	賀	海
柿	隔	学	淵	間	関	菅	岩	基	機	気	城	岐	急	救	九	京	教	橋	玉	禁	金	区	空
熊	栗	群	郡	形	警	月	県	原	言	限	庫	込	古	五	語	口	広	航	高	合	刻	国	黒
根	佐	災	埼	西	坂	崎	察	札	沢	澤	三	山	四	土	市	止	紙	滋	児	時	示	自	七
取	手	殊	酒	州	秋	集	十	重	書	小	消	上	新	森	神	水	制	青	静	石	設	仙	千
川	線	船	相	総	送	東	測	続	村	隊	台	大	第	滝	単	知	中	庁	朝	町	聴	長	鳥
定	鉄	天	田	電	戸	都	度	土	島	東	盗	藤	道	徳	特	読	栃	奈	縄	二	日	沼	濃
能	馬	売	船	八	阪	飯	尾	媛	百	表	秒	浜	富	府	阜	武	部	幅	福	分	文	聞	兵
並	放	芳	防	北	幌	本	毎	万	宮	無	名	木	谷	野	葉	陽	絡	梨	良	林	鈴	連	路
六	和																						

フォントエディター (5種類)  

 C1 C2 C3 C4 C5

# 周波数の使用区分



注：50.00MHz から50.10MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局との狭帯域デジタル通信にも使用することができる  
51.00MHzから51.50MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局とのAM・SSB・AM系電音およびCWによる通信にも使用することができる



伝送情報および用途等	アマチュア業務に使用する電波型式
CW	A1
AM/電話・電信	A2 <sup>*1</sup> , A3, A3A, A3H, A3J (SSB), A9 <sup>*2</sup>
AM/データ・画像	A2 <sup>*3</sup> , A4, A5, F <sup>*4</sup> , A9 (FAX), A9C (FAX), F1 <sup>*3</sup> , F4 <sup>*6</sup> , F5 <sup>*6</sup>
FM/電話・電信	F2 <sup>*1</sup> , F3
FM/データ・画像	F2 <sup>*3</sup> , F4 <sup>*7</sup> , F5 <sup>*8</sup> , F9 (FAX)
衛星 <sup>*9</sup>	A1, A3A, A3H, A3J (SSB), F1 <sup>*3</sup> , F2 <sup>*3</sup>
EME <sup>*10</sup>	A1, A2 <sup>*1</sup> , A3, A3A, A3H, A3J (SSB)
レーザー <sup>*11</sup>	F2, F3, F4 <sup>*7</sup> , F5 <sup>*8</sup> , F9 (FAX)
全電波型式 <sup>*12</sup>	A1, A2, A3, A3A, A3H, A3J, A4, A5, A5C, A5J, A9, A9C, F1, F2, F3, F4, F5, F9 P0, P1, P2D, P2E, P2F, P3D, P3F, P9
狭帯域デジタル <sup>*13</sup>	F1
広帯域デジタル <sup>*14</sup>	F1 <sup>*3</sup> , F2 <sup>*3</sup>

- \*1 A2およびF2は、モールス無線電音による通信に使用する電波とする。
- \*2 A3は、抑圧搬送波両側帯の無線電話の電波とする。
- \*3 A2, F1, およびF2は、データ伝送(機械によって、処理される情報または処理された情報の伝達)を行う電波とする。
- \*4 A5Jは、主搬送波を変調した副搬送波で振幅変調(抑圧搬送波単側帯の場合に限る)してテレビジョン伝送を行うF5に該当しない電波とする。ただし、占有周波数帯幅は、3kHz以下とする。
- \*5 F4は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調(抑圧搬送波単側帯の場合に限る)してファクシミリ伝送を行う電波とする。ただし、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

- \*6 F5は、主搬送波を周波数変調した副搬送波で振幅変調(抑圧搬送波単側帯の場合に限る)してテレビジョン伝送を行う電波とする。ただし、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- \*7 F4は、主搬送波を直接にまたは周波数変調した副搬送波で周波数変調してファクシミリ伝送を行う電波とする。ただし、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- \*8 F5は、テレビジョン伝送を行う電波で、変調信号の帯域幅は3kHz以下とする。
- \*9 衛星は、衛星通信に使用する電波をいう。
- \*10 EMEは、月面反射通信に使用する電波をいう。
- \*11 レーザーは、社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)のアマチュア業務の中継無線局(レーザー局)との通信に使用する電波をいう。
- \*12 全電波型式とは、各アマチュア局に指定されているすべての電波型式とする。
- \*13 占有周波数帯幅が6kHz以下のものに限る。
- \*14 占有周波数帯幅が6kHzを超えるものに限る。



# アマチュア無線局免許申請書類の書きかた (2)

## 「アマチュア局の無線設備の保証認定願」/「アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願」の書きかた (付属装置がある場合)

VX-7にTNCなどの付属設備を接続する場合には「保証認定」で申請します。

### 《例：新規開局の場合》

**B** 保証期  
技術証明があるトランシーバーだけで申請する場合は、この用紙は必要ありません。  
アマチュア局の無線設備の保証願書

(出願用紙)

50	
200	

**TSS 株式会社 殿**

私は、アマチュア局の免許申請に係る保証を受けたもので、別紙の書類を添えて

出願者

①呼出符号	マロボ	マロボ
②社団の名称	社団の場合に限り	③氏名
④住所	⑤郵便番号	⑥連絡先電話番号
社団の場合は、事務局の所在地		

使用するトランシーバー (送信装置)

送信機番号	⑦送信機の型式等 (注1)	⑧接続するアンテナの型式等 (注2)	⑨付属装置 (注3)	⑩
記入部	131-55911X	特許アズマ	有	有
第1送信機			有	有
第2送信機			有	有
第3送信機			有	有
第4送信機			有	有
第5送信機			有	有
第6送信機			有	有
第7送信機			有	有

⑩ この機は、  
私の  
替り込  
替り込

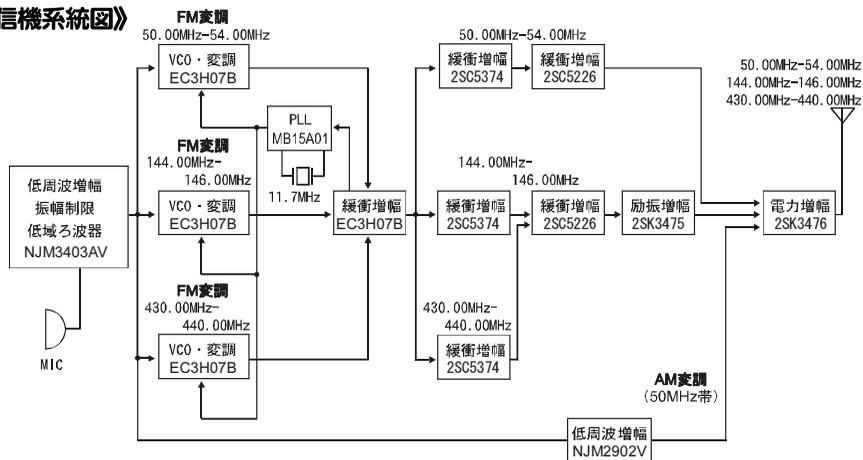
(注1) 技術  
種の符  
合は機  
(注2) ア  
ズマ

付属装置

名称	方式・規格 (注)	備忘欄に記載する送信機番号
⑬ VFOトランスミッター	⑬①方式、 ⑬②増設出力増幅 ⑬③自動調波	⑬④
⑭ RTTY装置	⑭①方式、 ⑭②増設出力増幅	⑭③
⑮ ファクシミリ装置	⑮①方式、 ⑮②増設出力増幅 ⑮③増設出力増幅 ⑮④受信機出力の最高増幅率	⑮⑤
⑯ テレビジョン装置	⑯①方式、 ⑯②音声伝送の最高増幅率 ⑯③映像増幅率	⑯④
⑰	⑰①方式、 ⑰②増設出力増幅	⑰③
⑱	⑱①方式、 ⑱②増設出力増幅	⑱③

- 技術基準適合外の無線機と一緒に保証認定で申請（アマチュア局の無線設備の保証認定願/アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願）する場合であっても、VX-7に関しては技術基準適合機として申請できます。
- VX-7の技術基準適合番号は、背面の技術基準適合証明シールに記載されています。
- 『方式・規格』の記入事項については、お使いのTNCの取扱説明書を参照してください。

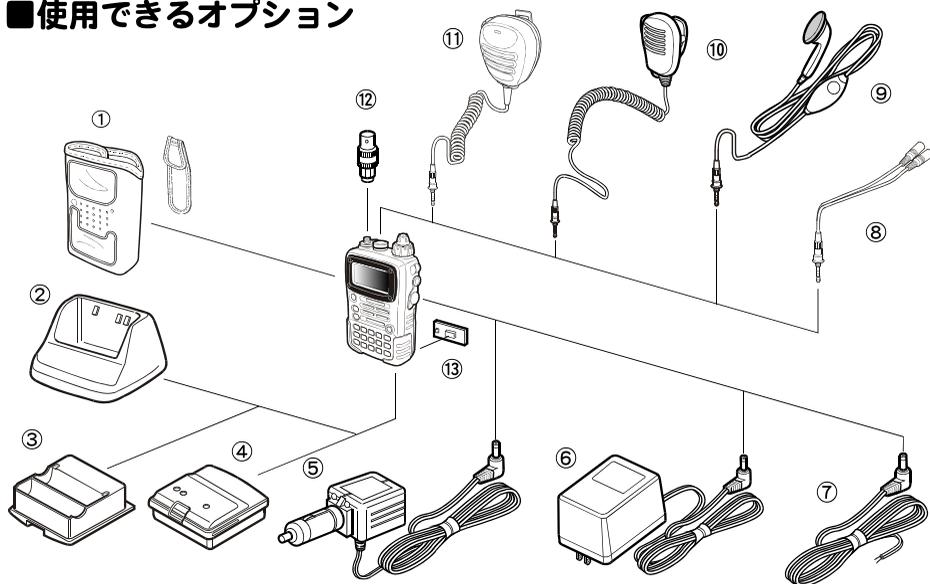
### 《送信機系統図》



付  
録

# オプション

## ■使用できるオプション



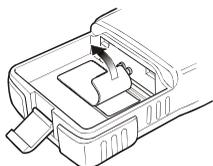
- ① ソフトケース(CSC-88)
- ② 急速充電器(CD-15A)
- ③ 乾電池ケース(FBA-23)
- ④ 電池パック(FNB-80LI)
- ⑤ シガープラグ付き外部電源アダプター (E-DC-5B)
- ⑥ ACアダプター(NC-72A)
- ⑦ 外部電源ケーブル(E-DC-6)
- ⑧ マイクアダプター(CT-91)
- ⑨ VOX対応イヤピースマイク(VC-27)
- ⑩ スピーカーマイク(MH-57 A4B)
- ⑪ 防水型スピーカーマイク(CMP460A)
- ⑫ アンテナ変換コネクタ(CN-3)
- ⑬ 気圧センサーユニット(SU-1)

## ■気圧センサーユニットの取り付け

気圧センサーユニット (SU-1) は、本格的な測定を目的として製造されたものではありません。測定された値は、あくまで目安の値として使用してください。

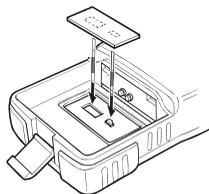
気圧センサーユニット (SU-1)

1



電池パックを取り外し、シールをはがします。

2



気圧センサーユニットをコネクタに差し込んで、付属のシールを貼り、電池パックを取り付けます。

# 故障かな？と思ったら 修理を依頼される前に、次の事項を確認してください。

## ■電源が入らない

- バッテリー（電池パックまたはアルカリ乾電池）が消耗していませんか？（9ページ）
- アルカリ乾電池は正しく乾電池ケースにセットしてありますか？（10ページ）  
指定どおりにプラス(+)/マイナス(-)の極性を間違えず、正しく乾電池ケースに入れてください。
- 外部電源の接続は間違っていないですか？（11ページ）  
外部電源を使用するときには、必ずオプションの外部電源ケーブル“E-DC-6”またはシガープラグ付き外部電源アダプター“E-DC-5B”を使用してください。
- バッテリーまたは外部電源の電圧は正常ですか？（9ページ、10ページ、11ページ）  
バッテリーの場合は残量があること、外部電源入力の場合は電圧がDC12～14Vであることを確認してください。

## ■音が出ない

- スケルチのレベル設定が大きくなっていませんか？（21ページ）  
モニタースイッチを押して、ザーという音が出ることを確認してください。  
弱い信号を受信するときには、スケルチレベルを調整してください。
- VOLツマミを左方向にまわしすぎていませんか？（16ページ）
- トーンスケルチまたはDCSがオンになっていませんか？（54ページ）  
トーンスケルチまたはDCSがオンのときには、設定したトーン周波数またはDCSコードと同じ信号が含まれた信号を受信するまで音は出ません。

## ■電波が出ない

- PTTスイッチは確実に押していますか？
- PTTロックがオンになっていませんか？（21ページ）
- ビジーTX禁止（BCLO機能）がオンになっていませんか？（70ページ）  
ビジーTX禁止（BCLO機能）がオンのときには、信号を受信しているときにPTTスイッチを押しても電波は出ません。信号がなくなるの待ってからPTTスイッチを押してください。
- 送信周波数はアマチュアバンドですか？  
AMラジオ放送帯/短波帯/FMラジオ放送帯/TV放送帯/情報無線帯では送信できません。
- バッテリーまたは外部電源の電圧は正常ですか？（9ページ、10ページ、11ページ）  
バッテリーの残量を確認してください。  
また、送信時に電圧降下を起こすような電源では、VX-7の性能を十分に発揮することはできません。

## ■キーやDIALツマミを操作できない

- キーロックやDIALロックがオンになっていませんか？（21ページ）
- AM/バンドでは放送局の正しい周波数を選択しましたか？（18ページ）

////////////////////////////////////  
同時受信時の組み合わせによって、内部発信器の高調波による内部ビート等の影響がありますが、故障ではありません。（下記計算式参照）。また、同時受信時に周波数の組み合わせによっては、受信感度の変動がある場合があります。

3.579545MHzのn倍（nは任意の整数）  
11.7MHzのn倍（nは任意の整数）

MAIN/バンド周波数=n×(SUB/バンドの周波数±46.35MHz)

SUB/バンドの周波数=n×(MAIN/バンドの周波数±47.25MHz)

SUB/バンドの周波数=n×(MAIN/バンドの周波数±45.8MHz)

MAIN/バンド、NFM時

MAIN/バンド、WFM時

# 索引

<b>A</b>	AMラジオ局を聞く	30
	AP0	50, 69
	ARS	64, 59
	ARTS	52, 69
	ARTSピープ	69
	ARTS間隔	69
	ARTS使用時に自局のIDを送出するには	52
	ATT	57, 71
	AUTOモード	18
<b>B</b>	BANDキー	14
	BANDリンク	70
	BCLO	70
	BUSY LED	65
<b>C</b>	CHカウンター	41, 67
	CW ID	52, 69
<b>D</b>	DCS	54
	DCSコード設定	55, 67
	DCS位相	67
	DIALツマミ	14
	DTMFコードを登録するには	53
	DTMFメモリー	53
	DTMF機能を使う	53
<b>E</b>	EXT DC端子	14
<b>F</b>	FMラジオ局を聴く	30
	FUNC (ファンクション)スイッチ	14
<b>I</b>	IN RANGE	52
<b>M</b>	MAINキー	14
	MC/SP端子	14
	MON/Fキーチェンジ	70
	MONI/T-CALL	70
	MW設定	65
<b>O</b>	OTMをメモリーする	28
	OTMを呼び出す	28
	OUT RANGE	52
<b>P</b>	PMS	35
	PTTスイッチ	14
<b>R</b>	RXセーブ時間	69
	RXモード	64
<b>S</b>	S/POメーターの表示を変更する	58
	SUBキー	14
<b>T</b>	TOT	50
	TV専用メモリーでTV放送を聴く	29
	TV放送を聴く	30
	TV放送をチャンネル番号で選択する	29
	TXセーブ設定	69
<b>V</b>	V/Mキー	14
	VFOスキャン	34
	VFOモード	18, 71
	VOLツマミ	14
	VOX	49, 70
<b>あ</b>	アイコンエディターでアイコンを作る	61
	アイコンで表示する	47
	アイコン一覧表	48
	アイコン作成表	61

	相手局が使用しているトーンの周波数や DCSコードがわからないときには	55
	アッテネーター	57
	アマチュア無線局免許申請書類の書きかた	80
	アンテナを取り付ける	8
	アンテナ端子(SMA)	14
<b>い</b>	一時ハイパワー送信	20
	インターネットキー	59
<b>う</b>	ウェーブモニター	68
<b>え</b>	エッジピープ	67
	エマージェンシー機能 (EMGモード)	56
<b>お</b>	オートパワーオフ機能	50
	オートモード	18
	オールリセット	19
	オプション	82
	オフタイマー	51, 69
	音声で自動送信する	49
	音声をミュートする	20
	オンタイマー	51, 69
	温度を表示する	45
	温度表示単位	68
	音量を調節する	16
<b>か</b>	各部の名前と働き	14
	下限周波数	35
	漢字一覧表	27
	漢字呼び出しモード	26
	乾電池ケースの使いかた	10
	外部電源を接続する	11
<b>き</b>	キー操作早見表	87
	気圧オフセット	68
	気圧センサーユニットの取り付け	82
	気圧表示単位	68
	気圧を表示する	46
	聴きたい放送局をメモリーに書き込む	30
	聴きたい放送局を選択する	30
	緊急を知らせる	56
<b>く</b>	空線信号の音を消す (空線スケルチ)	31
	クローン操作	73
<b>け</b>	言語設定	71
	現在いる場所で受信できるTVチャンネルを選択する	29
<b>こ</b>	故障かな?と思ったら	83
	好みのアイコン表示する	48
	高度オフセット	69
	高度を表示する	46
	高度表示単位	68
<b>し</b>	シガレットライターに接続する	11
	指定した時刻に電源をオン/オフする	51
	指定した周波数の範囲をスマートサーチするときは	43
	市販の安定化電源を接続する	11
	シフト幅設定	64
	周波数の使用区分	79
	周波数をあわせる	18
	周波数を調べる (チャンネルカウンタ)	41
	周波数帯を選ぶ	18
	集音機能	42, 71
	使用時間の目安と残量表示	10

消したメモリーを復活させる	23	トーンスケルチ	54
照明が自動的に点灯しないようにする	57	トーンの周波数を設定するときには	54
自動的に電源をオフする	50	トーン信号	19, 54
受信感度を下げる	57	同梱品を確認する	7
受信信号と変調信号の波形を表示する	44	<b>は</b> ハイパーメモリーに運用状態を書き込む	32
上限周波数	35	ハイパーメモリーを呼び出す	33
状態が変わらないようにロックする	21	ハイパー書き込み	65
<b>す</b> スキップメモリー	37	パケット通信に使うときには	72
スキャンストップ	67	倍角文字	17
スキャンストップ時の受信方法を設定するには	34	バンドを選ぶ	17
スキャンランプ	67	<b>ひ</b> ビジー-TX禁止 (BCL0)	70
スキャンを使う	34	<b>ふ</b> フォントエディター	60, 71
スケルチのレベルを調節する	21	フォントエディターで文字を作る	60
ストロボ	14	フォント一覧表	78
ストロボの設定を変える	38	フォント作成表	60
スピーカー	14	付属品を取り付ける	8
スプリットトーン	67	普通文字表示	17
スプリットメモリー	23	プライオリティメモリーチャンネル	42
スベアナモード	68	プリセットされている放送局一覧表	74
スベアナを表示する	44	プリセットメモリー	22
スマートサーチ	43, 68	世界各地の放送を聴く	30
スマートメモリー	43	プリセットメモリーを呼び出して鉄道無線を聴く	31
<b>せ</b> 世界各地の放送	30	プログラマブルメモリースキャン	22, 34, 35
セットモード	62	プログラマブルメモリーチャンネル	35
セットモードのリセット	62	<b>へ</b> ベルトクリップとハンドストラップを取り付ける	8
<b>そ</b> 操作バンド	16, 17	ベル機能	55, 67
操作音(ピープ音)がならないようにする	57	<b>ほ</b> ホームチャンネル	22, 24
送信する	19	防水(GIS保護等級7種防侵形相当)について	5
送信機系統図	81	<b>ま</b> マイキー	14
送信出力を切り替える	20	マイキーの登録を変更する	59
<b>た</b> タイムアウトタイマー機能	50	マイキーの動作をインターネットキーに変更する	59
多彩なメモリー機能	22	マイク	14
<b>ち</b> チャンネルカウンター	41	<b>め</b> メモリーオンリーモード	24
チャンネルステップ	64	メモリーグループに登録する	25
<b>て</b> 定格	86	メモリーグループを使う	25
鉄道無線のチャンネルを選ぶ	31	メモリーグループ内のメモリーチャンネルを呼び出す	25
鉄道無線周波数一覧表	78	メモリースキャン	34, 36, 65
テンキー	14	メモリータグを使う	26, 27
天気予測を表示する	45	メモリーチューン	24
ディスプレイ	14	メモリーに書き込む	23
ディスプレイのコントラストを調節する	56	メモリーに名前をつける	26
ディスプレイの説明	15	メモリーモード	23
ディスプレイやテンキーの照明輝度を調節する	56	メモリーを呼び出す	24
デジマルポイント	34, 35, 36	メモリーを使う	22
デュアルレシーブ	42	メモリーを消す	23
電源がオフのときに温度や天気予報などを表示させる	47	メモリー構成	22
電源キー	14	<b>も</b> モニターキー	14
電源を入れる	16	文字種	26
電池の電圧を表示する	49	モノバンド受信	17
電池/バックを取り付ける	9	<b>り</b> リセット	19
電波を発射する前に	6	<b>れ</b> レピータシフト	64
<b>と</b> 登録したDTMFコードを送出するには	53	レピータで交信する	19
盗聴器を探し出す(盗聴器発見機能サーチ)	40	連続送信時間を制限する	50
特殊メモリー	25, 28, 30, 31, 33	<b>ろ</b> ロックモード	64
特定のメモリーチャンネルのみをスキャンする	37	<b>わ</b> ワンタッチメモリー	22, 28
特定の相手局との交信	54		
特定メモリー	37		
時計をセットする	12		

# 定 格

## ■一般定格

送受信可能周波数範囲	: 送信周波数範囲 50~54MHz, 144~146MHz, 430~440MHz
	: 受信周波数範囲 0.5~999MHz (253~276MHz, 380~383MHz, 412~416MHz, 810~846MHz, 860~901MHz, 915~961MHzの周波数帯は受信できません)
送受信周波数ステップ	: 5/10/12.5/15/20/25/50/100kHz (AMラジオ放送帯に限り, 9kHzおよび10kHzを選択することができます)
電波形式	: F2, F3, A3
通信方式	: 単信方式
周波数偏差	: ±5ppm以内 (-10°C~+50°C)
アンテナインピーダンス	: 50Ω
電 源	: 定格 DC7.4V (マイナス接地) 動作可能範囲 (電池端子) DC4~9V (マイナス接地) 動作可能範囲 (外部電源入力) DC10~16V (マイナス接地)
消費電流	: 受信定格出力時 モノバンド: 約200mA デュアルバンド: 約240mA 受信スケルチ時 モノバンド: 約67mA デュアルバンド: 約100mA 受信/バッテリーセーブ時 (受信1:セーブ5) モノバンド: 約28mA デュアルバンド: 約34mA 電源オフ時 (APO) 約200μA 50MHz帯送信時 (5W): 約1.6A, 144MHz帯送信時 (5W): 約1.7A, 430MHz帯送信時 (5W): 約1.9A
使用温度範囲	: -20°C~+60°C
ケース寸法	: 幅60×高さ96×奥行28.5mm (突起物を含まない)
本体重量	: 約260g (アンテナ, 電池/バックを含む)

## ■送信部

定格終段入力	: 9.5W (50MHz帯), 10W (144MHz帯), 11.5W (430MHz帯)
送信出力	: 5W (外部電源13.8V入力時) FM: 5W (50/144/430MHz帯, 2.5/1.0/0.05W切り替え可能, DC7.4V入力) AM: 1W固定 (50MHz帯, MAIN/バンドのみ)
変調方式	: FM: リアクタンス変調, AM: 終段低電力変調
最大周波数偏移	: ±5kHz (IDCおよびスプラッタフィルター付き)
占有周波数帯域	: FM: 16kHz以内, AM: 6kHz以内
不要輻射強度	: 1W以上 60dB以下
マイクロホンインピーダンス	: 2kΩ (エレクトレットコンデンサ型)

## ■受信部

受信方式	: NFM, AM : ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイナ WFM : トリプルコンバージョンスーパーヘテロダイナ
中間周波数	: NFM, AM時 (MAIN) 第一IF周波数47.25MHz, 第二IF周波数450kHz WFM時 (MAIN) 第一IF周波数45.8MHz, 第二IF周波数10.7MHz, 第三IF周波数1MHz NFM時 (SUB) 第一IF周波数46.35MHz, 第二IF周波数450kHz
受信感度	: MAIN 0.5~1.8MHz (AM) 3μV @ 10dB SN 150~174MHz (NFM) 0.2μV @ 12dB SINAD 1.8~30MHz (AM) 3μV @ 10dB SN 174~225MHz (WFM) 1μV typ @ 12dB SINAD 30~50MHz (NFM) 0.5μV typ @ 12dB SINAD 300~350MHz (NFM) 0.5μV @ 12dB SINAD 50~54MHz (NFM) 0.16μV @ 12dB SINAD 350~400MHz (NFM) 0.2μV @ 12dB SINAD 54~65MHz (NFM) 1μV typ @ 12dB SINAD 400~420MHz (NFM) 0.18μV @ 12dB SINAD 76~108MHz (WFM) 1μV typ @ 12dB SINAD 420~470MHz (NFM) 0.18μV @ 12dB SINAD 108~137MHz (AM) 1.5μV typ @ 10dB SN 470~540MHz (WFM) 0.35μV @ 12dB SINAD 137~140MHz (NFM) 0.2μV @ 12dB SINAD 540~800MHz (WFM) 3μV typ @ 12dB SINAD 140~150MHz (NFM) 0.16μV @ 12dB SINAD 800~860MHz (NFM) 1μV typ @ 12dB SINAD SUB 50~54MHz (NFM) 0.18μV @ 12dB SINAD 430~440MHz (NFM) 0.2μV @ 12dB SINAD 144~146MHz (NFM) 0.18μV @ 12dB SINAD
通過帯域幅	: NFM, AM : 15kHz以上/-6dB WFM : 200kHz以上/-6dB
選択度	: NFM, AM : 35kHz以下/-60dB WFM : 300kHz以下/-20dB
低周波定格出力	: 200mW以上 (7.4V), 400mW以上 (13.8V) (8Ω, THD10%)
低周波出力インピーダンス	: 8Ω
副次的に発する電波等の強度	: 4nW以下

定格値は常温・常圧時の値です。

# キー操作早見表

キー & スイッチ	直接押す	2秒以上押す	FUNCを押しながら各キーを押す
PTT	送信	←	一時ハイパワー送信
	スケルチオフ	←	スケルチレベル設定
	マイキー	キーロック オン/オフ	送信出力切り替え
	—	電源オン/オフ	—
	1を入力	ハイパーメモリー1へ登録	スキャン開始
	2を入力	ハイパーメモリー2へ登録	デュアルレシーブ開始
	3を入力	ハイパーメモリー3へ登録	TVメモリー オン/オフ
	4を入力	ハイパーメモリー4へ登録	ARTS機能
	5を入力	ハイパーメモリー5へ登録	スマートサーチ オン/オフ
	6を入力	ハイパーメモリー6へ登録	スペアナ オン/オフ
	7を入力	ハイパーメモリー7へ登録	チャンネルカウンター開始
	8を入力	ハイパーメモリー8へ登録	盗聴器発見機能サーチ開始
	9を入力	ハイパーメモリー9へ登録	特殊メモリー
	0を入力	ハイパーメモリー0へ登録	セットモード
	VFOモード/メモリーモード切り替え	—	メモリー書き込みモードに移行
	操作バンド上段に移動	デュアル受信 オン/オフ*	表示バンドの倍角表示 オン/オフ
	操作バンド下段に移動	デュアル受信 オン/オフ*	表示バンドの倍角表示 オン/オフ
	ホームチャンネル呼び出し	エマージェンシー オン/オフ*	リバース オン/オフ
	バンド切り替え (アップ)	←	バンド切り替え (ダウン)

※ 0.5秒以上押す



製造元・株式会社バーテックススタンダード  
〒153-8644 東京都目黒区中目黒4-8-8